

第七十三回帝國議會
衆議院

國家總動員法案委員會會議錄(速記)第四回

付託議案
國家總動員法案(政府提出)

會議

昭和十三年三月二日(水曜日)午前十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 小川郷太郎君

理事中村不二男君 理事豊田 豊吉君

理事西岡竹次郎君 理事宮脇 長吉君

理事篠原 義政君 理事井阪 豊光君

理事西尾 末廣君

作田高太郎君 齋藤 隆夫君

櫻井兵五郎君 古屋 慶隆君

増田 義一君 山本 厚三君

林 平馬君 眞鍋 儀十君

眞鍋 勝君 池田 秀雄君

小山 谷藏君 高橋壽太郎君

川崎末五郎君 長井 源君

河野 一郎君 小高長三郎君

泉 國三郎君 羽田武嗣郎君

濱田 國松君 板野 友造君

河上 哲太君 熊谷 直太君

植原悦二郎君 猪野毛利榮君

若宮 貞夫君 岩元榮次郎君

藤本 捨助君 山崎 常吉君

清瀬 一郎君 守屋 榮夫君

三輪 壽壯君 淺沼稻次郎君

今井 新造君 三田村武夫君

出席國務大臣左ノ如シ

內閣總理大臣 公爵近衛 文麿君

司法大臣 鹽野 季彥君

大藏大臣 賀屋 興宣君

商工大臣 吉野 信次君

鐵道大臣 中島知久平君

內務大臣 末次 信正君

出席政府委員左ノ如シ

內閣書記官長 風見 章君

企畫院總裁 瀧 正雄君

企畫院次長 青木 一男君

企畫院部長 植村甲午郎君

企畫院部長 橫山 勇君

企畫院書記官 內田源兵衛君

對滿事務局長 原 邦道君

內務政務次官 勝田 永吉君

大藏政務次官 太田 正孝君

海軍參與官 岸田 正記君

司法省刑事局長 松阪 廣政君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

國家總動員法案(政府提出)

○小川委員長 是ヨリ開會致シマス、櫻井

君ノ質疑ノ繼續ヲ許シマス

○櫻井委員 總理大臣ニ御尋ヲ致シタイト

考ヘマス、内外極メテ重大ナル折柄、御心

勞ノ程ハ深ク御察シラシテ居ルノデアリマ

ス、ソレニ加フルニ御病後、此點モ如何カ

ト氣遣致スノデアリマス、御無理ヲナサラ

ヌヤウ願ヒマス

緒テ本案ガ現實ニ議會ニ提出ヲ致サレマ

スルヤ、國民ハ之ニ對シテ非常ナル衝動ヲ

覺エタカト申シマス、何ガ爲ニ左様ナ衝動

ヲ覺エタカト申シマス、我國ノ政治ノ

指導原理ニ付テ、一種ノ疑ヲ懷イタノデハ

ナイカト私ハ思フノデアリマス、ソレ故ニ

今日總理ニ伺ヒタイト思ヒマスル所ノ第一

點ハ、此國民ガ疑ヲ懷イタ日本ノ政治ノ指

導原理ニ付キマシテ、總理大臣ノ信念ヲ伺

ヒタイト思フノデアリマス、或ハソレニ依ッ

テ國民ガ非常ニ安心スルコトガアルカモ知

レス、兎ニ角何レニシマシテモ其信念ヲ伺

ヒマスルコトガ、私ノ第一ノ目的デアリマス、

既ニ提案理由トシテ政府カラ説明セラレマ

シタコトヲ、重ネテ總理ニ御聽シヨウトハ

考ヘマセヌ、或ハ又憲法ノ法理論ニ互ルヤ

ウナコトヲ、私ハ總理大臣ニ御尋シヨウト

ハ致サナイノデアリマス、此意味ヲ御諒承

ノ上ニ、一ツ御答辯ヲ願フノデアリマス

緒テ更ニ前申シマシタコトノ其内容ヲ解

剖致シマシテ、國民ハソレナラバドウ云フ

コトニ付テ衝動ヲ覺エタカト考ヘテ見マス

ルノニ、其第一點ハ本案ノ形態ガ如何ニモ

異例デアッテ、憲法ガ最モ戒メテ居リマス所

ノ立法事項ヲ、極メテ廣汎ニ互ッテ之ヲ包括

的ニ勅令ニ委任スル、此形ノ點ニアルト思

フノデアリマス、此點ハ我國ノ憲法創始以

來、斯ル例ガナイノデアリマスルカラ、如

何ニ政府ノ理由ヲ聽キマシテモ、サウシテ

全部其理由ヲ是認致シマシテモ、尙且ツ之

ヲ勅令ニ移サナイデ立法事項デ出來ルト思

ハレル事柄マデモ勅令ニ移シテアル、斯様

ナ點ト其形トヲ見マスルト、一種ノ授權立

法ニ似寄ッタモノデハナイカ果シテサウデ

アルトスルナラバ、是ハ法理論デ何ト言ハ

レヨウガ、是ハ憲法ノ大精神ニ背クモノナ

リト云フコトダケハ疑ノナイコトデアル、

此點ガ一ツノ問題ノ點デアルト思フノデア

リマス、隨テ形ノ上ニ斯様ニ考ヘテ參リマ

スル結果、直ニ其裏面ニ何等カノ意圖ヲ含

マレテ居リハシナイカ、斯ウ云フ所ヘ自然

ノ推理ノ行クノハ、是ハ已ムヲ得ヌ所デア
リマス、殊ニ現時ハ正ニ思想上カラ見レバ、
色々ナ混亂期ニモ立ッテ居リマス、サウ云フ
想像ノ行キマスルコトモ、無理カラスコト
デアルト思フノデアリマス、先ヅ此二點ヲ
御伺致スノデアリマスガ、併ナガラ少クト
モ此疑ハ、私ハ能ク考ヘテ見レバ有リ得ル
筈ノナイコトデアアル、即チ憲法五十年ノ式
典ニ際シマシテモ、陛下ガ洵ニ有難イ御
勅語ヲ賜ッテ居ル譯デアリマシテ、能ク五十
年ノ間ニ民意ハ暢達致シ、國運ハ隆昌ニ赴
イタ、之ヲ現在將來ニ互ッテ奉還セヨト、斯
ウ仰セラレテアルノデアリマス、茲ニ我國
ノ政治ノ指導原理ト云フモノハ明ニ打樹テ
ラレテアルノデアリマス、何等疑ヲ挾ム餘
地ノナイコトデアルトハ考ヘマスルガ、ソ
レニシテモ疑ヲ起シタトスレバ致シ方ガナ
イ、此點ニ關シマシテ、法理論ハ伺ハナイ
デモ結構デアリマスガ、總理大臣ノ御信念
ヲ先ヅ伺ヒマス

○近衛國務大臣 只今櫻井君ヨリノ御尋ニ

御答ヲ致シマス前ニ、一言申上ゲテ置キマ
ス
過日斯ノ知キ重大ナル法案ガ上程セラレ
マシタ際ニ、私病氣ノ爲ニ本會議ニモ出席
ガ出来マセズ、又此委員會ニモ最初缺席ヲ

致シマシタコトハ、洵ニ遺憾ニ存ジマス、
唯病床ニ於キマシテ新聞紙、速記録等ニ依
リマシテ、皆様ガ此法案ヲ廻ッテ極メテ熱心
ニ、極メテ眞剣ニ御論議ヲ爲サレタコトヲ
承知致シマシテ、深く敬意ヲ表シ、且ツ感謝
スル次第デアリマス、此法案ハ憲法上其他色々
ノ角度カラ見マシテ、極メテ問題ノ多イ法
案デアリマス、之ニ付キマシテ皆様ガ論議
スベキモノハ出来ルダケ其論議ヲ御盡シ下
サルコトヲ希望スルノデアリマス、總動員
ト申シマシテモ、要スルニ國民ノ協力ヲ必
要トスルノデアリマス、眞ニ國民ガ此總動
員法ナルモノヲ理解シナケレバ、完全ナル
運用ハ出来ヌノデアリマスルガ故ニ、斯ウ
ヤッテ此處デ眞剣ニ論議ヲ重ネルト云フコト
ハ、國民ヲシテ此法案ニ對シテ眞ノ理解ヲ
深メ、認識ヲ深メシメル上ニ、非常ニ有效
デアラウト考ヘルノデアリマス、連日ノ皆
様ノ御論議ニ對シテハ、深く敬意ヲ表シマ
スルト共ニ、今後政府ニ於キマシテモ出来
ルダケ懇切明確ニ、皆様ノ御納得ノ行ク迄
御答ヲ致シヤウニ努力ヲ致シタイト考ヘテ
居ル次第デアリマス、缺席ヲ致シマシタ御詫
ヲ申上ゲルト共ニ、此法案ノ審議ニ對スル
私ノ心持ヲ申上ゲマス

利自由ニ關スル最重要ナル事柄ヲ、廣
汎ナル範圍ニ互ッテ勅令ニ委任スルト云フ
コトハ、是ハ憲法ノ精神ニ反スルノデハ
ナイカト云フ御説ハ、過日來屢、承ッテ居
ル所デアリマス、之ニ付キマシテハ、過日
來當局ヨリ屢、御説明モ申上ゲタト存ジ
マスガ、要スルニ今後ノ戦争ガドウ云フ
形ヲ取ッテ現レルカ、又相手國ガドウ云フ
國デアアルカト云フヤウナコトハ、是ハ今
日ヨリ豫測シ得ナイ事柄デアリマシテ、之
ニ對シテハ其時々ノ實況ニ應ジマシテ迅速
ナル、又適切ナル處置ヲ、ソレノ執ラナ
ケレバナラスノデアリマス、サウ云フ意味
カラ申シマシテ、此戦局ノ千變萬化スル局
面ノ變化ニ應ズルガ爲ニハ、具體的ニ法律
ニ上ニ豫メ之ヲ規定シテ置クト云フコトハ、
恐ラク不可能デハナイカ、又之ヲ豫メ早ク
ヨリ法律ニ規定シテ置クト云フコトハ、一
面カラ見マスレバ、此總動員ノ計畫ト云フ
モノヲ、外國ニ窺ヒ知ラシムルト云フ結果
ニモナルノデアリマスルガ故ニ、斯ノ如キ廣
汎ナル勅令ノ委任トナッタコトハ、已ムヲ得
ナイノデハナイカト考ヘルノデアリマス、
併ナガラ何ト申シマシテモ、此勅令ニ委任
スル事項ガ極メテ多イト云フコトハ、國民
ニ對シマシテ非常ナ不安ヲ與ヘルコトハ勿

論デアリマス、企畫院ノ最初出シマシタ要
綱ノ中ニハ、モット此種ノ規定ガアリマシ
タガ、之ニ對シマシテ閣議等ニ於キマシテ
モ、十分研究ノ上、削除スベキモノハ削除
ヲ致シマシテ、又此勅令ノ發動スル場合ニ、
貴衆兩院ノ議員、民間ノ有力者、其他ヲ網
羅シマシタ所ノ審議會ニ、之ヲ諮問スルト
云フヤウナ規定ヲ設ケマシテ、出来ルダケ
此不安ヲ少クスルコトニ努メタ次第デアリ
マス、只今ノ、此法律ヲ立案スルニ當ッテ、其
背後ニ何カ恐ルベキ一種ノ思想ガ存在シテ
居ルガ如キ御心配ガアルヤウニ考ヘルノデ
アリマス、或ハ議會ヲ否認スルトカ、或ハ
憲法ヲ無視スルトカ云フガ如キ思想ガ横ッ
テ居ルガ如キ御心配ガアルヤウデアリマス、
併ナガラ一體近代ノ戦争ノ特質トモ申スベ
キ國力ト國力トノ戰、一國ノ人的、物的ノ
資源ヲ動員シマシテ、其最大能力ヲ發揮セ
シメルゴトガ必要デアルト云フコトハ、歐
羅巴ノ戦争當時カラ各國ニ認メラレテ來テ、
ソレデ我國ニ於キマシテモ、總動員法ノ制
定ト云フコトニ付テハ、十數年前カラ資源
局ニ於キマシテ、此立案ニ取掛ッテ居ッタノ
デアリマス、サウ云フ次第デアリマスガ故
ニ、此法律ト云フモノハ、今日率然トシテ
所謂一種ノ「ファッショ・イデオロギー」ト申シ

マスカ、サウ云フ風潮ニ乗テ突然ト生レテ
來タモノデハナイノデアリマス、且ツ此法律

ハ主トシテ戰時ニノミ適用セラル、ノデア
リマス、先日モ獨逸ノ「ナチス」ノ授權法等
ヲ御引例ニナリマシテ、色々御説ガアツヤ
ウデアリマスガ、戰時ニノミ適用セラル、

此法律ハ、平時ニ適用セラル、「ナチス」
ノ法律トハ、本質ニ於テ異ルモノデアルト
考ヘテ居ルノデアリマス、要スルニ一朝有
事ノ秋ニ、或ハ緊急勅令トカ、或ハ非常大

權ノ發動ニ依リマシテ總動員ノ實施ヲ行フ
ト云フヨリハ、豫メ其大綱ダケデモ議會ノ
御協賛ヲ得テ、一ツノ法律トシテ制定シテ

置クト云フ方ガ、寧ロ立憲ノ精神ニ適フノ
デハナイカト云フ風ニモ考ヘテ居ルノデア
リマス、申ス迄モナク我國ノ政治ノ衝ニ當

リ、此國政ノ運用ヲ致シテ參ル根本ノ精神
ハ、何處マデモ此憲法ノ條規ニ依ッテ議會
ヲ尊重シ、飽マデ憲法ノ範圍内ニ於テ之ヲ

行ッテ參ラナケレバナラスノデアリマス、
大體只今ノ御尋ニ對シテ御答致シマス
○櫻井委員 大變御懇切ナル御答辯ヲ得マ
シタガ、私ノ伺ヒマシタ政治ノ指導原理ニ
國民ガ一種ノ危惧ヲ懷キマシタ指導原理ニ
付キマシテハ、憲法ノ條章、精神ニ依ッテ議
會ヲ尊重シテ參ルコトハ勿論デアル、斯ウ

云フ御答ト私ハ承リマシテ、此點ハ諒承致
シマシタ

ソレカラ企畫院デ出來タ案ニ付キマシテ、
閣議ニ於テ三四點御訂正ニナツタコトヲ、新
聞紙ヲ通シテ拜見シテ居ッタノデアリマス

ガ、今其通リノ御説明デ、此點ハ洵ニ私ハ
結構デアッタと思フ、唯戰時事變ト云フヤウ
ニ、漠然トシタ事變ト云フコトデハ、甚ダ

解釋シニクカッタノデアリマスガ、之ヲ戰時
ニ準ズル意味ニ御改正ニナリ、ソレカラ又
言論、集會ヲ如何ヤウニデモ出來ルヤウナ極

端ナル法的根據ヲ置イテ、勅令ニ委任スル
ト云フコトデアッタノヲ、全ク除カレタコト
モ、是亦結構ナコトデ、此案ノ目的ニ照シ

テ、サウ不必要ナ所ニマデ入り込ム必要ハナ
イト思フノデアリマシテ、之ヲ除カレタノ
ハ適當ナコトデアッタ諒解ヲ致シテ居リ

マス
尙ホ本案ノ第五十條ニ關スル審議會ノコ
トデスガ、是ハ此案ノ形ニ出テ居ルコトダ
ケデハ、私共ハマダ諒解出來ナイ、是ハ尙ホ
後ニ御尋致シマス、其趣旨ハ洵ニ諒ト致シ
マスガ、其内容如何ト云フコトハ伺ッテ見
ナケレバ分ラヌと思フ、總理ノ御考ハ能ク
諒解ヲ致シマシタケレドモ、總理ハ極メテ
御多忙デアアリニナリマスカラ申シマセヌ

ガ、其御趣旨ニ於テ尙ホ御考ヲ願フ餘地ガ
アルト私ハ思フ、出來ルダケ此案ヲ勅令ニ

讓ツタ點モ法文化スル方ガ宜イ、憲法ノ精神
ニ照シテモサウシテ行ツタ方ガ宜イ、斯ウ私
ハ思フ、サウスルコトニ依ッテ勅令ニ出來ル

ダケ移サスコトニ依ッテ、此案ハ憲法ノ精神
ニ背クト云フ點ガ相當緩和出來ルデアラウ
ト私ハ思ヒマス、此點ヲ今此處デ具體的論

議ヲ致シマス、非常ニ煩雜ニナッテ參リマ
スルノミナラズ、是ハ他ノ國務大臣竝ニ政府
委員ノ方ニモ伺フ點ガ多々出來テ參リマス

ノデ、總理大臣ニ對スル私ノ質問ハ出來ル
ダケ簡潔ニ致シタイ、又他ノ委員諸君カラ
モ御質問ガアラウト考ヘマスカラ、サウ云

フ煩ニナルコトハ此場合私ハ一應避ケテ、
ソレヲ他ノ國務大臣ト能ク檢討致シマシタ
最後ニ於テ、是ハドウシテモ總理大臣ニ伺

ハナケレバナリマセヌ、此點ダケハ留保致
シテ置キタイと思ヒマス、總理大臣ノ御趣
旨ニ從ヒ、而モ憲法ノ精神ニ背カナイヤウ
ニ、而シテ本法ノ目的ヲ完全ニ達シ得ルヤ
ウナ方法ヲ、是カラ委員會ニ於テ研究ヲ致
シマシテ、其結末ニ及ンデ其點ハ改メテ總
理ニ伺フコトニ致シマス
尙ホ審議會ノコトニ付キマシテ御話ガア
リマシタガ、此點ニ關シマシテ總理大臣ニ

御伺ヲ致シタイノデアリマスルケレドモ、
ソレニ先ダッテ一寸瀧企畫院總裁ニ御尋ヲ

致シマスガ、此組織ノ勅令内容ハドウ云フ
風ニナリマスカ、第五十條デ審議會ノ組織
ハ勅令ニ讓ルト出テ居リマスガ……

○瀧政府委員 審議會ノ組織ニ付テハ、只
今考究中デアリマス

○櫻井委員 考究中ト申サレマシテモ、極
メテ重大ナ要點デアリマス、之ヲ以テ幾分
安心ノ出來ルヤウニシタイト總理ハ仰セラ

レル、サウ致シマスレバ全然勅令ニ讓ッテ、
此審議會ガ單ナル諮問デ、諮問シタコトラ
政府ガ聞カウガ聞クマイガ、勝手デアルト

云フコトデハ、何等安心ヲ與ヘルコトニナ
ラスト思フ、此組織ヲ法文化シ、殊ニ此案
ハ急グ場合ヲ豫想致シマシテ、議會ニ諮ル

ベキダガ諮ルコトガ出來ナイ、ソレデ勅令
ニ讓ル、斯ウ云フコトガ御趣旨デアリマス
カラ、主トシテ議會ノ構成人員ヲ委員トス
ルト云フモノデナケレバ、總理ノ先程ノ御

説明ノ意味ヲナサヌと思ヒマス、總理ノ御
心組ハヤハリ議會ノ構成員ヲ主トシテ此委
員ノ内容トスル、斯ウ云フ御心組デアリマ
スカ如何デアリマス、其點ヲ總理大臣ニ御
伺シタイと思ヒマス
○瀧政府委員 左様デゴザイマス、更ニ其

點ハ總理カラ御答ヲ願ツタ方ガ宜イカト思ヒマスカラ、總理ニ御願ヲスル積リデ居リマス

○近衛國務大臣 審議會ノ組織ハ、大體貴

衆兩院議員、民間ノ有力者、官吏等ヨリ成ル所ノモノニナラウト存ジマス、成ベク貴衆兩院ノ議員ノ數ヲ多ク致シタイトハ考ヘマスガ、其割合等ニ付キマシテハ十分ニ考慮ヲ致シタイト思ヒマス

○櫻井委員 其點ハ洵ニ重大ナ要點ト思ヒ

マスガ、主トシテ貴衆兩院議員ヲ、其要素トスルト云フコトデナケレバ、最初御説明ニナツタ御趣旨ハ通ラナイト思ヒマス、併シ是ハ尙ホ瀧總裁ノ言ニ依リマシテモ、色々考究セラレテ居ルサウデアリマスカラ、今直チニ總理大臣カラ此點ノ御答辯ハ求メマセヌ、能ク私ノ御尋致シテ居ル趣旨モ御分リニナツテ居ラウト思ヒマスカラ、成タケ早ク、具體的ニ斯ウ云フ組織ニスルト云フコトヲ適當ノ時期ニ總理大臣ヨリ御發表ヲ願ヒタイト思ヒマス

次ニ是ハ昨日私ガ御尋ラシタ點デアリマシテ、詳シイコトハ申上ゲマセヌガ、此法案ヲ施行運用スル所ノ機關ノ問題デアリマス、機關ノ問題ニ付キマシテハ、陸軍大臣カラ昨日愈、戰時ノ場合ニナレバ、斯ウ云フ

コトモ豫メ考ヘテ居ルト云フ點ヲ言ハレマシタ、其中央機關トモ申スベキモノハ、ハッキリサウデアラウト了承致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ其中央機關ノミニ依ツテ、此法案ノ目的トスル所ノ内容、勅令デ定メラレタ諸般ノ事柄ガ、完全ニ運用出來ルモノデハナイノデス、是ハ各省、各地方廳總テノ行政機構ニ跨ッテ運用サレルコトト思フ、サウ致シマスト茲ニ問題ニナツテ來マスノハ、戰時ニナリマシタ場合ニ、急ニ行政機構ヲドウスルトカ、或ハ官吏ノ素質ヲドウスルト云フコトヲ考ヘマシテモ、間ニ合ハナイト思フ、ソコデ行政機構ノ改革ヲ之ニ伴ッテ御考ニナルノガ當然デアル、其點ハ如何デアリマスカ、又官吏ノ素質ニ付テ、此問題ガナクとも我國ノ官吏ノ素質ト云フコトニ付テハ、當然考ヘナケレバナラス、ソレニ伴フ文官任用令ノ改正ト云フ問題モ、十分考慮サレナケレバナラスト思ッテ居リマス、今後モ是等ノ法案ヲ通シテ豫想致シマス場合ニ、殊ニ官吏ノ素質ノ問題ヲ考ヘナケレバナラス、私ハ官吏ヲ非難スルノデハアリマセヌ、我國ハマダ法治國ニナツテ半世紀ヲ過ギタバカリデアリマスガ、最初ノ任用令ノ出來タ時ノ考ヘ方ハ、アノ場合ニハアレデ宜カッタデアリマスガ、時代ノ進運

ト共ニ、轉換ヲ加ヘナケレバナラス時期ニ、轉換ヲ誤ッテ居ルト思フ、是ハ官吏ガ惡イノデハナイ、制度ガ惡カッタ、學校ヲ出ルト、何モ世間ノ實際ヲ知ラナイ者ヲ直チニ役所ニ入レル、サウシテ年限ガ來ルト段々鰥上リニ上ツテ行ッテ、世間ノ實際ト云フコトニ付テ官吏ハ體驗ガナイノデアリマス、機微ノ分ラナイ所ガ多イ、尤モ私ガ官吏ノ素質ヲドウスルト云フコトニ付テ、斯様ナコトヲ言フカラト言ッテ、民間ノ者ガ直チニソレニ適スルトハ申シマセヌ、民間ノ者ヲ直チニ用ヒテモ缺陷ガ起リマス、ソレ故ニ是ハドウ云フ組織ニシタラ宜イカト云フ官吏ノ素質ニ關スル所ノ一ツノ標準ヲ考ヘテ、其標準ニ向ッテ今カラ其目的ヲ達スルヤウナ手段方法ヲ講ジテ置クコトガ、文官任用令ヲ改正スルトシマスレバ、其目標デナケレバナラスト思フ、若シ現内閣ニ於テサウ云フヤウナコトヲ御考ニナツテ居ルトスレバ、ソレ等ノ事柄デアラウト想像スルノデアリマスガ、私ハソレヲ一時モ早ク斷行願ヒタイト思フ、聞ク所ニ依レバ、現内閣ハ文官任用令ノ改正ヲスル意圖モアルガ、併シ樞密院ヲ氣遣ッテ居ラレトカ、何トカ云フコトヲ聞クノデアリマス、樞密院ノ老人諸公ハ如何ニソレヲ理解セラレルカ知レマ

セヌガ、國家ノ爲サナケレバナラス事ニ付テハ、現内閣ハ勇斷果敢之ヲオヤリニナル方ガ宜イ、樞密院ガ何ト云ハウガ吾々國民ハ舉ゲテ總理大臣ヲ援助スル、此重要ナル目的達成ノ爲メ邁進セラレタイ、此點ニ關シテ即チ文官任用令ノ改正、行政機構ノ問題ヲ如何ニ御考ニナツテ居ラレマスルカ、御答ヲ願ヒタイトデアリマス

○近衛國務大臣 此法案ノ愈、實施トナル曉

ニ於テ、之ニ伴ッテ行政機構ノ或ル程度ノ改革ヲ必要ト致スコトハ、申ス迄モナイノデアリマス、要スルニ此國家總動員法ナルモノノ良イカ惡イカト云フコトハ、結局此運用宜シキヲ得ルヤ否ヤト云フコトニ係ル所極メテ大ナリト考ヘマス、此意味ニ於キマシテ、斯ノ如キ重大ナル權限ヲ附與セラレマシテ、重大ナル事柄ヲ行ッテ參ル、其衝ニ當ルベキ官吏ガ、今日ノヤウナ有様デ果シテ宜シイカドウカト云フ點ニ重大ナル問題ガアリ、又一般不安モソコニアルト考ヘルノデアリマシテ、隨テ政府ト致シマシテハ、此官吏制度ノ改革ト云フコトハ、既ニ屢、申上ゲマシタヤウニ、只今法制局ニ於キマシテ立案ヲ致シテ居ル、既ニ之ニ著手シテ居ルノデアリマス、此法案ガ通過致シマスレバ、一層其必要ヲ痛感スルヤウナ次第デアリマ

ス、此間モドナタカノ御質問ニ、官吏制度ノ改革ト云フコトハ、此法律ノ前提、或ハ少クトモ此法律ト並行シテ考ヘナケレバナラスト云フヤウナ御尋ガアツキヤウニ承ッテ居リマスガ、全ク御同感デアリマシテ、此法律ガ出来レバ、一層速ニ官吏制度ノ問題ニモ手ヲ觸レナケレバナラスト云フコトヲ感ズルノデアリマス、現ニ今立案ヲ急イデ居リマシテ、早晚樞密院ノ御諮詢ヲ奏請スル運ビニナラウト思ヒマス

○櫻井委員 其點ハ今ノ御答デ洵ニ私ハ満足ヲ致シタ次第デアリマス、ドウカ一刻モ早く實現ヲセラレタイト思ヒマス、尙ホ此問題ニ關聯ヲ致シマシテ、昨日現在ノ臨時非常立法ヲ運用致シマスニ付テモ、何方商工省ニ外局ヲ置イテ、其運用ニ當ラシメルト云フ意味ノ御説明ヲ伺ッタノデアリマシテ、臨時非常立法運用ニ付テ、今ノ日本銀行、商工省、大藏省ト分レテ居ルコトハ、非常ニ國民ガ不便ヲ感ジテ居ルノデアリマシテ、之ヲ一括スル内容ノモノデアリマシカ、其御方針ニ依ッテ御作リニナルノデアリマス、伺ッテ置キタイト思ヒマス

○近衛國務大臣 政府委員カラ御答致サセマス

○青木政府委員 昨日御話ノアリマシタ部

局ニ付キマシテハ、今御話ノ如ク大藏省、日本銀行、商工省ヲ一括シタモノデハナイノデアリマス

○櫻井委員 私ノ總理大臣ニ對スル質疑ハ留保致シマシタモノヲ除キマシテ、今日ハ是デ濟ミマシタ、尙ホ商工大臣ニ是非御尋ヲ致サナケレバナライコトガアリマスノデ、御出席ガナケレバ暫クノ間適宜ノ處置ヲ執ラレタイト思ヒマス

○齋藤委員 委員長、關聯質問ヲ……

〔關聯ナラバ皆關聯ニナッデシマフ〕ト呼ヒ其他發言スル者アリ

○齋藤委員 關聯質問ハ止メル方ガ議事ノ進行ニ便利デアルト云フナラバ止メマス、私ハ只今櫻井君ガ御質問ニナリマシタコトニ關聯シテ、他日總理大臣ニ質問スル機會ガアルヤウデアリマスナラバ、他日ヤッデモ宜シイデス、關聯質問デアル方ガ便利デアルト云フナラバヤリマス

○小川委員長 實ハ此間理事ト相談モ致シマシテ、ドノ委員會デモ慣例ニナッテ居リマス通りニ、昨日私ハ簡單ナ關聯質問ハ許スト申シマシタノデアリマスガ、其時ノ議場ハ、關聯質問ヲ十分ニ許シテ宜イト云フヤウナ空氣デアッタト思ヒマス、ソレデ私ハサウ云フ取計ヲ致シタノデアリマス、今日ハ

議場ノ御考ニ依ッテ決メマス

〔委員長一任〕ト呼フ者アリ

○西岡委員 今日總理ハ病氣ヲ押シテ御出席ニナッテ居ラレマスノデ、民政黨ヲ代表シテ櫻井君ノ總理ニ對スル質問ガ只今終ッタノデアリマス、ソレデ政友會ノ方ヲ代表致シマシテ、植原委員ガ總理ニ御質問ノ通告ヲ致シテ居ルノデアリマス、ソレデ植原委員ノ質問ガ終ッテ、サウシテ委員長ノ御考ニ依ッテ、關聯事項ヲ御許シニナルナラバ、御許シ下サルヤウニ御取計ヲ願ヒタイト思ヒマス

○小川委員長 ソレデハ皆様ノ御意見ニ依ッテ、關聯質問ハ此際許スガ宜イカ否カラ決シマス、關聯質問ヲ許スコト……

〔議事進行ニ付テ〕ト呼ヒ其他發言スル者アリ

○小川委員長 今理事ト相談致シマシタ結果、此際ハ植原君ニ發言ヲ許シマス——植原君

○植原委員 時局ノ重大ト本法案ノ重要性ニ鑑ミマシテ、御病氣ノ總理大臣ノ御出席ニナリマシタコトニ對シマシテハ、深甚ナル敬意ヲ表シ、且ツ感謝ヲ致スノデアリマス、先刻總理ノ御言葉ノ中ニモアリマシタノデ、敢テ一言ヲ差加ヘル必要モナイヤウ

デスガ、私ガ質問ニ入ルニ付キマシテ、一言ダケ政府ノ御注意ヲ喚起致シテ置キタイト思ヒマス、申ス迄モナク本法案ハ罰則規定ヲ除キマシテ、實質上カラ申シマスルナラバ、僅々三十條内外ノ法案デアリマスガ、其内容ハ頗ル廣汎デ國民生活ノ全部ヲ總括スルモノデアリマス、唯除外サレテ居リマスモノハ兵役ノ義務ニ關スル事ノミデアリマス、我ガ五十年ニ互ル憲政史上、國民ノ生存權ニ關スル事項ニ付キマシテ、未ダ曾テ斯ル總括的ノ立法ヲ企テラレタ類例ハゴザイマセヌ、謂ハバ本法案ハ、劃期的ト申シマス、言葉ガ少シ強イカモ知レマセヌガ、革命的立法トモ申スベキ意義ヲ有スルモノデモアルヤウニモ思ハレマス、隨テ國民ノ生命財産、權利、義務及自由ノ保障ノ任ニ當リマスル所ノ吾々議員ハ、之ニ對シテ非常ナル決心ヲ以テ慎重審議、之ニ當ル覺悟ヲ要スル、時ハ正ニ國家ノ非常時デアリマス、故ニ政府當局ニ於テモ宜シク從來屢、議會ニ現シマスルヤウナ優越感ヲ棄テ、虚心坦懷議員ト共ニ和衷協同、共ニ國事ヲ談ズル態度ニ出デ、戴キタイモノデアリマス、政府ト云ヒ、議員ト云ヒ兩者共何レモ神様ノ如キモノデハアリマセヌ、事ニ當リ認識ノ不足モアレバ、誤認モアル、誤謬モアリ勝チノモノデ

アリマス、斯ル憲法上ノ重要法案ニ付テハ、政府及議員ガ共ニ國民ニ諒解ヲ得セシムルヤウニ、審議ヲ進ムベキデアルノデアリマス、言フ迄モナク憲法第二章ノ規定ハ、立憲政治ノ眞髓デアリ根幹デアリマス、國民ノ見地ニ於テ是ヨリ重要ナルモノハアリマセヌ、サレバ私ハ政府ニ質問スルニ當リマシテ、政府ヲ追究スルトカ、政府ノ揚足取リヲスルトカ云フヤウナ考ハ毛頭有シテ居リマセヌ、此點ハドウカ御安心ヲ願ッテ置キタイ、私ハ唯事實ヲ事實トシ、其真相ヲ把握シテ、國家國民ノ嚮フ所ヲ謬ラザラシメシコトヲ希望スルノミデアリマス、政府ニ於テモ御心置キナク、唯遁辭ヲ詭辯ヲ弄シ、一時ノ迷途ヲ考ヘルト云フヤウナ心構ヘデナク、共ニ事實ヲ検討スルト云フ態度デ御答辯アランコトヲ切ニ御願シテ置ク次第デアリマス、是ダケノコトヲ申述ベテ、政府ノ御關心ヲ願ヒ、私ノ質問ニ入ラウトスルノデアリマス

第一ニ私近衛首相ニ御尋致シタイノハ、先刻櫻井君モ申サレマシタガ、本法案ガ議會ニ提出サレト云フコトガ、政府ニ於テ定ツト云フコトガ傳ハリマシタ時ニ、國民ニ非常ナル衝動ヲ與ヘタ、或ル人ハ此法案ガ通ツタナラバ、今議會ノ問題トナッ

テ居ル電力法案ナドハドウシタツテ差支ナイノダ、全部此法案ノ中ニ入ッテ、アレ等ノモノハ吹飛バサレテシマフ、ソレモ一ツノ見方デ誤ナイト私ハ思ヒマス、ソコデ先刻總理ノ御言葉ニモアリマシタ、此重要ナル法案ヲ取扱ッテ、國民ニ不安ナカラシムルニハ、主トシテ人ダ、洵ニ其通りデアル、ソコデ私ガ御尋スル、此法案ヲ運用致シマスル者ガ、近衛内閣デアリマシタナラバ、國民ハサマデ不安ニ驅ラレナイカモ知レマセヌケレドモ、誰ガ近衛内閣ガ此法案ヲ實施シ、而モ此法案ガ戰時事變ヲ終ッテ廢止ニ至ル迄存在スルト思ハレマスカ、私共ハ近衛内閣ガソレ迄存在スルコトヲ希望致シマスケレドモ、或ハ恐ル、此法案ニ盛ラレテアリマス勅令ノ全部ヲ發布スル段取マデ、近衛内閣ガ存在スルカサヘモ、如何カト思フヤウナ狀態デアリマス、隨テ近衛總理ハ此法案ガ實際效力ヲ發スル時ニハ、何人ガ之ヲ運用スル局ニ當ルカ、安心出來ルヤウナ人ノ見極メガアリマスカ、場合ニ依リマシテハ、獨逸ノ授權法「ヒトラ」ガ握ルダケノ權力ハ、此法案ニ含マレタ内容ヲ、最高限度マデ發揮スル時マデ生ジナイトハ、何人モ證スルコトハ出來マセヌ、隨テ國民ノ不安ヲ除イテ、此法案ヲ誰ガ實行スルカ

ト云フ見透シガ、近衛内閣ニ付イテ居ラレルカドウカ、モウ一ツ之ニ關聯シテ國民ガ安心行クヤウニ願ハナケレバナラヌコトハ、斯ウ云フコトデアリマス、五・一五事件、二・二六事件以來、動モスルト世ノ中ノ道理ガ無クナツテシマッタデヤナイカ、斯ウ云フ感ジガ未ダニ國民ノ底ニ深ク潜マレテ居ルコトハ、何人ト雖モ之ヲ否定スルコトハ出來マセヌ、隨テ此法案ガ實行サレマスル時ノ人ト、環境——其環境ハ戰時或ハ事變、國家有事ノ場合デアアルコトハ分リマスケレドモ、其有事ノ場合ニ於キマシテモ、國民ノ全體ニ對スル指導精神、思想界ノ狀態ガ、國民ガ安心シテ居ラレルヤウナ狀態デアリマスナラバ兎ニ角、此過去數年、日本ノ國民ノ底ニ流レテ居リマス暗流ハ、決シテ私共ニ安心ヲ與ヘテ居ルモノデアリマセヌ、隨テ此法律ガ實行サレマスル時ニ、近衛總理ハ過去數年ニ互ッテ流レテ居ル日本ノ國內ノ暗流、而モ現存シテ未ダソレヲ治メルコトノ出來ナイ此動搖、人心ノ不安ノ有様、外ニハ漏レナイガ國民ノ裡ニ潜シテ居ル所ノ不滿、是等ヲ除キマシテ、國民ガ安心シテ此法律ヲ迎ヘラレルヤウナ環境ガ出來ルト云フ見透シヲ以テ、總理ハ此法案ヲ議會ニ御提出ニナッタノカドウカ、誰ガ之ヲ行フト云フ見透シ

カ、行フ所ノ環境ハ國民ニ不安ノ念ヲ生ゼシメナイト云フ御見解ガ付イテ居ルカ如何カ、之ヲ先ツ第一ニ伺ッテ置キタイと思ヒマス

○近衛國務大臣 只今植原サンノ御心配ノ點ハ、昨今ノ一部ノ風潮等ニ鑑ミテ、一應ハ御尤ナ御尋ト拜承スルノデアリマス、併ナガラ此法案ノ實際實行ノ局ニ當ル者ハ何人デアアルカト云フコトノ見透シハ、勿論付キマセヌケレドモ、併ナガラ我國ニハ儼トシテ帝國憲法ノ存スルアリ、又上ニハ 聖天子ガ御在デニナルノデアリマス、是ガ獨逸トカ伊太利トカ云フヤウナ國デ下カラノ力ニ依ッテ、暴力ニ依ッテ政權ヲ握ルト云フガ如キコトガ起リマシタナラバ、是ハ日本ノ國體上カラ申シマシテモ、日本ノ憲法ノ上カラ申シマシテモ由々シキ大事デアリマス、併ナガラ今日帝國憲法ノアル限り聖天子ノ在マス限り、決シテ斯ル事態ガ我國ニ起ラウトハ考ヘラレマセヌ、先程申シマシタ通り、飽クマデモ憲法ノ條規ニ遵ッテ國政ノ運用ヲスルト云フコトハ、是ハ何時如何ナル時代ニ於テモ變ルモノデハナイト思フノデアリマス

○植原委員 私ハ近衛首相ノ御誠意ヲ毛頭疑フ者デアリマセヌ、併シ只今ノ御答辯

ノ見透シデハ、ドウモ國民ニ安心ヲ與ヘル
コトガ出來ナイヤウニ感ジラレマス、議論
ハ致シマセヌ

次ニ御尋致シタイ事ハ、勿論何人ト雖モ
日本ノ憲法ノ章條ヲ侵シテ、日本ノ國政
ヲ變理スルナドト云フコトハ、夢ニダモ
浮ブコトデハナイト考ヘマス、隨テ憲法
ノ章條ヲ遵守スルト云フコトハ、疑ナイコ
トデアリマスガ——憲法上ノ問題ニ幾ラ
カ觸レマスガ、其御答ニクイ所ハ御答ニ
ナラヌデモ、司法大臣ニデモ次ノ質問ノ時
ニ御尋シテ、明快ナラシメルカラ宜シウ
ゴザイマスガ、只今總理大臣ハ、今豫想サ
レル世界ノ情勢カラ左様ナコトハナイト思
フガ、萬一國家有事ノ際ニ於テハ、全國力
ヲ總動員シナケレバナライ、隨テ千變萬
化ノ狀態ダ、其千變萬化ノ狀態ヲ豫想出來
ナイカラ、勅令ニ依ッテ定メルト云フ基礎ノ
法律ヲ作ッテ置クト云フ御話デアリマスガ、
ソレナラバ私ハ斯ウ云フ御尋ヲシナケレバ
ナラヌ、ソレナラバナゼ今カラサウ云フコ
トヲ豫想シテ、斯様ナ國民ガ心配スルヤウ
ナ法律ヲ御作ニナルノカ、事ノ起リマシタ
場合ニ、如何ナル方法デモ出來ルヤウニ、日
本ノ憲法ハ出來テ居リマス、實ニ千古不
磨ノ大典デアリマス、明治大帝陛下ノ洪

大無邊ナル所ノ聖慮ニ對シ奉リマシテハ、
私共唯感激措ク能ハザルモノデアリマス、
現在ノ憲法ニ於テ今總理大臣ノ豫想セラレ
ルヤウナ狀態ニ付キマシテハ、緊急勅令モ
アリマス、又臨時議會ヲ開キマシテ——臨
時議會ニハ期限ガアリマセヌ、政府ノ意思
ニ依ッテ通常議會カラ通常議會マデノ間、臨
時議會ヲ開キ放シニシテ置イテモ少シモ差
支ナイノデアリマス、而シテ日本ノ國民ハ

本當ニ是ガ國家ノ大事デアルト云フナラバ、
普通ノ緊急勅令デモ宜シ、憲法第三十一條
ニ據ル所ノ非常大權ノ發動デモ宜シ、如何
ナルコトガアリマシテモ、是ガ日本國家ノ運
命ニ關スル 上御一人ノ思召デアルト云フ
コトデアルナラバ、水火モ辭セザル國民デ
アリマス、之ニ對シテハ一點ノ疑問モナイ、
若シソレナラバナゼ現在ノ憲法ヲ其儘ニ御
使ニナルヤウニ御考ニナラナカッタデアリ
マセウカ、之ヲ使ヒマシタ方ガ此總動員法
ヲ使ヒマスヨリハ、モット國民ガ安心シテ千
變萬化、如何ナル所ノ森羅萬象ニモ、少シ
ノ故障ガ出來ルコトナク、運用出來ル憲法
デアルト思ヒマスガ、章條ノ議論デナク、
普通ノ觀念カラ、之ニ對スル近衛首相ノ御
答ヲ伺ッテ置キマス

○近衛國務大臣 斯ノ如キ法律ヲ出シテ國

民ニ不安ヲ與ヘルト云フコトハ、如何ナモ
ノデアルカ、今日國際政局ノ變轉變化ト云
フモノハ全ク豫想セラレナイノデアル、愈
ト云フ場合ニナッテ、或ハ緊急勅令、或ハ非
常大權ト云フモノノ發動ニ依ッテ、十分ニ其
目的ヲ達セラレルノデハナイカト云フ御尋

ノヤウニ拜承致シマス、緊急勅令ト申セバ
是ハ非常緊急ノ場合ニ、豫測シ得ナイ事變
ガ突發致シマシタル時ニ、發動スベキモノ
ト考ヘルノデアリマスガ、此國家總動員ノ
態様ト云フモノハ、大體ダケハ豫測シ得ラ
レルノデアリマス、豫測シ得ラレルモノハ
議會ノ協贊ヲ得マシテ、法律トシテ之ヲ制
定シテ、サウシテ一般ノ國民ニモ豫メ之ヲ
知ラシメルト云フコトガ、却テ立憲的デア
ルノデハナイカ、又此法律ガ出來マシテモ、
必要ニ依ッテハ緊急勅令ヲ出シ得ルノデア
リマス、又更ニ進ンデハ非常大權ノ發動
ト云フコトモ起リ得ルノデアリマス、併シ
此非常大權ト云ヒ、緊急勅令ト云フノハ、
大體是ハ例外的ノ規定デアリマス、寧ろ其
順序ヲ逆ニシテ、例外ノ方カラ先ニ適用ス
ルト云フコトハ如何ナモノカ、大體見當
付クモノハ法律トシテ之ヲ制定シテ、國民
ニ其心構ヲサセル、其準備ヲサセルト云フ
コトガ立憲的デモアリ、又總動員ノ效果ヲ

有效ナラシムル上ニ於テモ必要デアルト考
ヘマス

○植原委員 總理ノ只今ノ御答ハ憲法上カ
ラ言ヘバ、左様ニ申シテハ失禮ダケレドモ、
幾多ノ疑點ガ生ズルノデアリマス、ダカラ
是ハ私總理ニ御尋ラヌルコトヲ止メテ、別
ノ機會ニ司法大臣ニ御尋スルコトニ致シマ
ス、御病後ノ總理ト憲法論ヲ致スコトガ、
私ノ質問ノ趣意デハゴザイマセヌ、今ノ御
答ハ非常ニ澤山ノ間隙ガアリマス、隙ガア
リマス、其隙ハドウシテモ質シテ置カナケ
レバナライコトデアリマスルケレドモ、只
今ハソレハ致シマセヌ、次ノ質問ニ移リマ
スガ……(河野委員)「サウ遠慮サレテハ話ガ進
マナイ」ト呼フ)私語デスケレドモ、河野君、
遠慮デハアリマセヌ、司法大臣ニ質問スル
コトノ方ガモノガハッキリスルト思ヒマス
總理ニ對シテ次ニ御尋シタイコトハ斯
ウ云フコトデアリマス、我國過去五十年ノ
立憲政治ニ徴シマシテ、不時ノ事變ニ際
シテ緊急勅令ノ爲ニ、又ハ樞密院ノ審議
遲延ノ爲ニ、國家國民ニ不安ト損失ヲ與ヘ
タト云フヤウナ實例ガアリマセウカ、アル
ト云フナラバ其實例ヲ伺ヒタイ、ナケレバ
ナイト云フ御答辯ヲ願ヒタイ、又憲法制定
以來我國ハ日清、日露、日獨ノ三ツノ戰爭

ニ遭遇シテ居リマス、是等ノ戦争ノ場合、臨時議會ヲ召集スルニ時ヲ要セシ爲ニ、國政變理ニ不便ヲ招イタトカ、又ハ國家ニ支障ヲ生ゼシトカ云フガ如キ實例ガアルノデアリマセウカ、有ルナラバアル、無イナラバ

ナイ、又議會ノ審議ガ國家有事ノ場合ニ於テ遅レタガ爲ニ、國防ノ上ニ若クハ作戦ノ上ニ支障ヲ醸シタト云フガ如キコトガ有ルノデアリマセウカ、無イノデアリマセウカ、有ルナラバアル、無イナラバナイト云フ御答ヲ願ヒタイノデアリマス

○近衛國務大臣 只今ノ事柄ハ政府委員ヨリ御答ヲ致シマス

○横山政府委員 日露戦争及ビ日清戦争ニ於テハ、從來ノ戦争ノ形式カラ考ヘマシテ、日本ガ海ニ圍マレテ居ル關係上、急速ニ敵ノ攻撃ヲ受ケルト云フコトハアリマセヌデアリマシタ、然ルニ今後ノ戦争ニ於キマシテハ、戦争開始ト同時、若クハ其直後ニ於キマシテ、敵ノ巨大ナル空軍ガ國內ニ飛來シテ參リマシテ、此帝都ハ忽チ敵ノ空襲ヲ受ケル虞ガ極メテ大デアリマス、此際ニ當リマシテ、國內ハ非常ナ混亂ヲ爲スコトハ想像出來ルノデアリマス、此際エックリ總テノコトヲ相談スルト云フコトハ、或ハ不可能ナ場合ガ出來ルカモ知レマセヌ、又

空襲ニ依リマシテ鐵道ガ破壊セラレ、日本全國カラ議員全部集マルコトガ適時出來ナイ場合ガ起ルカモ知レマセヌ、是ハ從來ノ戦争ト今後ノ戦争トニ於キマシテ、非常ニ違ッタ點デゴザイマス

○植原委員 只今ノヤウナ御答辯ヲ實ハ御願シタノデアリマセヌ、議院ニ居リマス者ハ、日露戦争當時ノ戦争ト、將來豫想サレル戦争トノ間ニ、ドンナニ相違ガアルカ位ノコトハ、四百六十六人ノ議員ノ中デ一人モ知ラナイ者ハゴザイマセヌ、ダカラサウ云フコトヲ何モ伺ッテ居ルノデモアリマセヌシ、サウ云フコトハ聞カナクテモ皆豫想シテ話ヲシテ居ルノデアリマス、時代ハ違ヒマス、文化ノ程度ハ違ヒマス、四圍ノ環境ハ違ヒマス、隨テ國民ノ知識モ違フコトヲ御考ニナラナケレバナラス、ソナナコトデ

何モ彼此レ議會ガ色々ナコトヲ申シテ居ルノデアリマセヌ、今ノ御尋ヲ致シタ理由ハ斯ウ云フノデアリマス、如何ナル場合ニデモ、如何ナル時代ニデモ、如何ナル世ノ變遷ニデモ日本ノ欽定憲法ハ、臨機應變ニ運用ノ出來ルヤウニナッテ居リマス、政府ガ緊急勅令ノ爲ニ樞密院ニ御諮問ナスッテモ、ソレガ爲ニ機ノ遅レルト云フヤウナコトガアルトハ想像出來マセヌ、又帝國議會ヲ開

キマシテモ、ソレガ爲ニ國防ノ運行ニ於テ支障ヲ生ズルナドト云フコトハ、恐ラク日本八千万ノ國民ニ、サウ云フコトガアルト想像シテ居ル者ハ一人モナイト私ハ信ジテ居リマス、ソシテ日本ノ帝國憲法デハアリマセヌ、ドンナ場合ニデモ如何様ナ策デモ

執レルヤウニチヤント出來テ居ルカラ、ドウカ憲法ヲ御研究願ヒタイ、陸軍カラ、洵ニサウ申シテハナンダケレドモ、子供騙シノヤウナソシテ御答辯デ、議會ガドウスウナルト御思ヒニナレバ、是ハ非常ナ認識違ヒデアル、陸軍ガ優越感ヲ持ッテ居ル爲メ

デアル、冒頭ニ於テ政府自ラ優越感ヲ捨テナサイ、政府ノミニ世ノ中ノ賢哲ガ集ッテ居ルモノデハアリマセヌ、世ノ中ニモ——野ニモ隨分政府ニ優レバトテ劣ラザル遺賢ノアルコトヲ知ラナケレバナリマセヌ

次ニ私、總理大臣ニ御尋致シタイコトハ、總理ハ私ノ考ヘテ居ルヤウニ御考ニナッテ居ルト思ヒマスガ、誤ッテ空氣ガ何處カニ存在シテ居ッテ、國民ニ不安ヲ招カシムルカラ、其點ヲ一掃スル爲ニ御尋シテ置キタイト思フコトガアル、ソレハ斯ウ云フコトデアリマス、現在ニ於キマシテ何處カ或ル一部ノ空氣ニ、國防ノ爲ニ國民ハ存在シテ居ルモノデアルト云フ風ナ印象ガアルノデア

リマス、私共ハ國民ノ爲ニ國防ガアルノダ、國民ノ生存權ヲ全ウシ、其生活ヲ擴充セシメ、對外關係ノ不安ヲ除去シテ、國家國民ガ安全ニ生存シ、伸展スル爲ノ國防デアル、國民ノ爲ニ國防ガアルノデ、國防ノ爲ニ國民ガ存在シテ居ルノデハナイト思ヒマス、

若シ此根本觀念ヲハッキリ致シマスレバ、此總動員法ニ於テモ國民ノ不安ガ一掃サレルト思ヒマス、私ハ國防ト云フコトハ、國民ヤ國家ガ安全ニ存在シテ、サウシテ人生ヲ享樂スルト共ニ(笑聲)將來ノ發展ヲスル爲ニアルベキモノデアルト思ウテ居ルノデア

リマス、隨テ國防ト云フコトハ守リ刀トシテ、成ベク之ヲ行使スルコトノナイ方ガ、私ハ宜シイモノデアルト思ヒマス、サウ云フ立前デ國防ノ問題、國家總動員ノ問題ヲ取扱フト取扱ハザルトニ依ッテ、此議會ニ於ケル質疑應答ノ間ニモ、國民ニ與ヘル印象

ノ間ニモ、非常ナ影響ガアリマスカラ、總理ニ一言デ宜シウゴザイマスガ、私ト同ジ御意見カドウカ、國民ノ爲ニ國防ガ存スルノダ、國防ノ爲ニ國民ハ犠牲ニサレルノデハナイ、斯ウ云フ點ヲ一ツハッキリシテ戴キタイト思ヒマス

○近衛國務大臣 國防モ國家ノ爲ニ存スルノデアリマス、國民モ國家ノ爲ニ存スルノ

デアリマス(拍手)

○植原委員 國防モ國家ノ爲ニ存在スルシ、國民モ國家ノ爲ニ存在スルコトハ明カデアリマスガ、國家ト國民トガアッテ、其後ニ國防ガ來ルモノデ、國防ガアッテ國家ガ出來タリ、國民ガ出來タリスルモノデハ私ハナイト思ヒマスノデ、唯其點ダケニ違ヒガアルカラ、其點ヲハッキリシテ戴イタ方ガ、私ハ此問題ヲ取扱フ上ニ於テ宜シイト思ヒマスガ、其點ハ強ヒテ追究ハ致シマセヌ

次ニ私ノ御尋シタイコトハ斯ウ云フコトデアリマス、此國家總動員法ガ徹底的ニ運用セラレ、國內ニ於ケル有エル物の資源ト、人的要素ガ最モ有效的ニ一元化ニ統制統御セラレ、是等ガ唯一ノ目的ノ爲ニ、最高能率ヲ以テ活用セシメラル、ヤウナ行政機構ヲ組織致シマスレバ、現在ノ内閣制度ノ如キハ、此國家總動員ヲ有效ニ活用スル機關トノ間ニ、可ナリ問題ガ起ラウト思ヒマス、或ハ現代ノ内閣制度ト云フモノヲ、更ニ其上ニ一飛ビ飛ンデ、一切ノ行政機構ヲ總テ此下ニ總括シナケレバ、此法律ニ合マレテ居ル所ノ意味ヲ、完全ニ一元化ニ有效ニ活用セシムルコトハ困難ノヤウニ思ハレマス、斯ウ云フ御考デ統制スル所ノ機關ヲ御計畫ニナッテ居ルカドウカ、實ハ之ニ付キマシテモ、昨日陸軍大臣ハ

之ヲ運用スル時ノコトハ御示下サルト云フコトデアルカラソレ迄御待チシテモ宜シイノデアリマスガ、是ト今ノ内閣官制トノ間ニ非常ナル所ノ相違ガ出テ來テ、或ハ内閣官制ナドハ、根本的ニ立直サナケレバナラナイト云フヤウナ虞レガアルコトヲ感ズルノデアリマス、歐羅巴ノ戰爭ニ於テ英國ノ「ロイド・ジョージ」ハ、首相デ軍需大臣ヲ兼ねタコトガアリマス

英國ハ御承知ノ通り我國ナドトハ内閣ノ組織モ、憲法ノ狀態モ甚シク違ヒマスケレドモ、英國ニ於テハ總理大臣ガ軍需大臣ヲ兼ねテ、歐洲戰爭中稍、有效ニ之ヲ行使スルコトガ出來マシタ、然ルニ日本ノ内閣官制ニ於テハ、海陸軍大臣デサヘモ、今日普通ノ大臣ト違フ所ノ立場ヲ執ッテ居ルコトハ、御承知ノ通りデアリマス、サウ云フ立前カラ申シマスルナラバ、此總動員法ヲ軍需ニ運用スル場合ニハ、統帥權ニモ關係ノアル事、軍ノ機密ニモ關係ノアルヤウナ事が可ナリ出テ來ナケレバナラスト思ヒマスガ、サウスルト此運用ニ付キマシテハ、今ノ内閣官制トハ相當違タモノニナリハセヌカト思ヒマスガ、ソレ等ニ對シテ近衛首相ハドンナ御見解ヲ持ッテ御居デニナルカ、此場合出來レバ承リタイト思ヒマス

○近衛國務大臣 本法ノ運用ノ中央機關ハ内閣デアリマス、内閣總理大臣ガ國家總動員ノ總括事項ニ付キマシテ、其責ニ任ズルノデアリマス、而シテ企業院ガ内閣總理大臣ノ監理ノ下ニアリマシテ、國家總動員ノ調整統一ニ關スル事務ヲ司ル、而シテ各事項ノ執行ハ官制ノ定ムル所ニ依リマシテ、各省大臣ガ其責ニ任ズベキモノデアリマシテ、戰時國家總動員實施ニ關スル政府ノ責任ハ、平時ノ場合ト毫モ變ル所ハナイ、戰時直接ノ行政機關ニ付キマシテハ、從來慎重ニ研究ヲ致シテ居ルノデアリマス、戰爭ノ規模ニ應ジマシテ、之ニ即應スルヤウニ機關ヲ特設シ、若クハ擴充スル考デアリマ

○植原委員 只今ノ總理大臣ノ御答辯ヲ私ハ斯ウ云フ風ニ諒解シタラバ、更ニ正シクハナイカト思フ、此總動員法ガ通過致シマシテ、實施サレル段取ニナッテ、準備行爲トシテ平時行ハレテ居ル時ニハ、總理大臣ノ言フガ如キ形ニナラウト思ヒマス、總理大臣ガ中心ニナッテ、企業院ガ細目ノ事務ヲ執ル、サウ云フコトニナラウト思ヒマス、ソレハ仰セノ通りダト思フガ、此法案ハ御承知ノ通り平時ハ單ニ準備行爲デナケレバナラナイ、此法案ヲ使フ時ノ本當ノ主眼ハ戰時デ

ナケレバナラナイ、其戰時ニ於ケル機構ニ付テ、私ハ御尋シテ居ルノデアリマス、此法律ガ出來タラバ、平時ニ準備行爲トシテドウ行ハレルカ、其時ノコトデナクシテ、戰時ニ此法律ガ最モ有效ニ人的、物的ノ全動員ヲシテ一元化シ、命令一下一ツノ目的ニ國民ノ全力ヲ擧ゲテ活用出來ルヤウニスル所ノ戰時ノ機構ヲ、ドウ御考ニナッテ居ルカ、斯ウ云フ質問デアリマス、其御答ハ御答ニナルモノナラ只今ノ御答ト區別シテ御答ヲ願ヒタイ、只今ノ平時戰時ヲ通ジテソレデアルト云フ御答ナラ、ソレデモ宜シイノデアリマス

○近衛國務大臣 平時戰時ヲ通ジマシテ、只今御答ヲ申上ゲマシタ通りデアリマス

○植原委員 尙ホ總理大臣ニ御尋シテ置キタイコトハ斯ウ云フコトデアリマス、世界各國モ總動員法ヲ定メテ居ルカラ、日本モ總動員法ヲ定メルコトハ結構ナコトダガ、此法案ノ趣意デ定メルコトハ如何カト思ヒマス、實ハ總動員ノ準備ヲ致シ、完全ナモノヲ作ッテ置カナケレバナラナイト云フコトナラバ、是ハ別ナ問題トシテ、私共多年ノ主張デアリマス、サウアラネバナラス、イツ何時如何ナルコトガアッテモ、國家ノ全力ヲ一點ニ集中シテ活用ノ出來ルヤウナ調

査ト準備行爲トヲ致シテ置クコトハ、是ハ必要デアラウト思ヒマスガ、ソレト平時ニ對スル所ノ總動員ノ趣旨トハ自ラ違ハナケレバナラス、而シテ英、米、佛ナドノ總動員ニ付テハ、政府カラモ色々參考資料ヲ戴イテ居リマスガ、是ハドンナ總動員法ヲ作リマシテモ、政府ノ基礎ハ確固トシテ動カナイ、英國ノ總理大臣ハ如何ナル場合ガアツテモ、國民ヲ代表スル所ノ議員カラ出タ者デナケレバナライ、又英國ニ於テハ如何ナル人ト雖モ總理大臣ノ意向ニ依ッテ、海陸軍大臣ニナレト云フ規定ガ存シテ居ル、米國ニ於テハ御承知ノ如ク、總理大臣以下ニ至ル迄モ、四年ノ間ニ選舉ニ依ッテ民意ヲ代表致サナケレバナラス、佛蘭西モ國民ノ代表者デナケレバ總理大臣モ、大統領モ出來ナイト云フ狀態デアル、結局ドンナ總動員法ガ出來マシテモ、軍機軍略ノ問題、作戰用兵ノ計畫以外ニハ、國民ニソレ程秘密ニサレルコトハナイ、然ルニ日本ハ是ト餘程趣ヲ異ニシテ居リマス、日本ノ總動員法ハ動モスレバ伊太利ノ「ファシスト」ヤ、獨逸ノ「ナチス」ト云フガ如キ狀態ニ立至リハセヌカト云フ所ニ、非常ナ國民ノ疑懼ガアルノデアリマス、ノミナラズ斯ウ云フコトガアル、私共獨逸トノ防共協定、伊

太利トノ防共協定、是ハ我國ノ外交ノ樞軸ノ爲ニ、國際關係ノ利害關係ノ爲ニ何處マデモ支持シ、強ク手ヲ握ッテ行カナケレバナラスト思フ、併シ伊太利ヤ獨逸ノ内政上ノ眞似ヤ、總動員法ノ眞似ヲ致シタクナイ、是モ獨裁的デアルコトニ於テハ、日本ガ一番嫌フ「ソ」聯トモサウ違ハナイデハナイカ、コ、ニ總動員法ニ對スル所ノ不安ガアルト思ヒマス、隨テ只今ノ總動員法ヲ運用スル時ノ機關、機構ニ對シテモ問題ガ起ッテ來ルノデアリマスガ、此場合ニ總理大臣ハ、日本ハ決シテ獨逸ヤ、伊太利ヤ、露國ノヤウナ總動員法ヲ模倣シテヤルノデハナイ、眞似ルノデハナイ、英、米ノ總動員法ハ假令存在シテモ、此總動員法ハ運用サレル場合ニ於テ、日本ノ運用トハ甚ダシク趣ヲ異ニスル、ナゼナラバ根本ニ於ケル首腦者ノ組織ガ違ッテ居ルカラダ、斯ウ云フ風ニ御考ニナルカドウカ、「ソ」聯ト伊、獨ニ對スルコト、英、米、佛等ニ對スルコトト、此日本ノ總動員法ニ對スル根本ノ觀念ニ付テ、總理大臣ノ御所見ヲ承リタイ

御心配ガアルヤウデアリマシテ、之ニ對シマシテハ先程モ御答申シマシヤウニ、此法案ハ、歐洲戰爭以來國家總動員ノ必要ニ鑑ミマシテ、各國ノ長ヲ採リ短ヲ捨テテ、國家總動員ニ關スル各國ノ制度ヲ比較調査研究致シマシテ、日本ノ國情ニ合フヤウナ案ヲ作ルコトニ努力シテ參ッタノデアリマス、隨テ此根本觀念ハ伊太利ニアラズ、獨逸ニアラズ、露西亞ニモアラズ、日本獨特ノ考ノ下ニ制定セラレタ案デアリマス

○植原委員 モウ一ツダケ總理大臣ニ伺ッテ、後ハ憲法上ノ問題ニナリマスカラ、首相ノ御答辯デナクテモ、ドノ國務大臣デモ御答ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、近來民間ニ於テモ、亦政府ノ一角ニ於テモ、或ハ政黨ノ内部ト申シマシテモ宜シイカモ知レマセヌガ、政黨ヲ解消シ、一國一黨デナケレバ舉國一致ノ實ガ擧ゲラレナイト主張シ、之ヲ宣傳シ、國民ヲ之ニ導カントシテ居ル者ガアルヤウデアリマス、私共カラ見レバ是ハ誤レルモ甚シキモノト思フ、其動機ガ純ナレバ宜シイケレドモ、時ニハ自己ノ政治的野心ヲ全ウセントスル爲ニ、時ニハ「ファシズム」思想ヲ「カムフラージュ」スル爲ニ、之ヲ主張シテ居ル者ガアリマス、私共ハ立憲政治ヲ毒スルモ甚シキモノダト思フ、元來立憲政治合議制ナルモノハ、事ヲ決スルニ「イエス」「カノー」、右カ左、贊成カ不贊成、結局此二ツニ分レルヨリ外ニ途ガナイノデアリマス、議會ニ於テ私共ノ議論ガ盛デアレバアル程、健全ナル舉國一致ノ實現ヲ爲シ得ラレル道程ヲ築キ得ラレルモノダト確信致シテ居リマス、尤モ議會ノ言論ハ一時ヲ糊塗スルガ如キ議論デアッテハナライ、又粗野ノ言論ヲスルヤウナコトハ、絶對ニ避ケナケレバナライ、議員モ政府モ共ニ誠意ヲ披瀝シテ、國事ニ當ラントスル所ノ意思ニ基イテ、合理的ナ洗練サレタ議論デナケレバナライコトハ申ス迄モナイ、斯ル議論ガ議會ニ於テ行ハレマスレバ、之ニ依ッテ國民ハ自ラ其向フ所ヲ知ルコトガ出來ルノデアリマス、而シテ之ニ依ッテ民心ノ不安ハ一掃サレル、是ヨリ文明國ニ於テ、立憲國ニ於テ舉國一致ノ健全ナル途ヲ圖ル方法ハナイノデアリマス、此議會ノ言論ガ政黨ニ分レ、主義主張ニ分レテ、研磨洗練ガ行ハレ、バ、決シテ暴力行爲ナドト云フモノハ、國內ノ何處ニモ起リ得ルモノデハナイノデアリマス、一黨一派ト申セバ、支那ノ國民黨蔣介石ハ一黨一派デハナイカ、露國ハ一黨一派デハナイカ、獨逸ハ一黨一派デハナイカ、伊太利ハ一黨一派デ

ハナイカ、一黨一派ヲ主張スルコトハ、取
モ直サズ獨裁政治ヲ謳歌スルト同一ナルモ
ノデアルト見ナケレバナライノデアリマ
ス、議會政治ハ言論ノ政治デアリマス、理
智ノ政治デアリマス、判斷ノ政治デアリマ
ス、隨テ個々ニ主義主張ニ依ッテ相分レ、或
ハ信念ニ依ッテ相提携スルモノガナケレバ
ナライ、議會ノ言論ハ殘念ナガチコ、過
去數年ノ間甚シク萎縮シテ居リマス、此萎
縮シテ居ルコトハ色々ノ理由ニ依リマスケ
レドモ、此萎縮ノ爲ニ天下ノ人心ハ不安デ
アリマス、國民ノ底ニハ此問題ノ空氣ガ流レ
テ居リマス、心アル國民ハ向フ所ニ迷フテ
居リマス、私ハ總動員法案ナドヲ議會デ論
議致シマス場合ニ於テ、總理大臣ガ政黨政
治、政黨ト云フモノニ對シテハッキリシタ御
言明ヲナサレバ、洵ニ仕合ダト思フ、又必
要デアルト思フ、我國ノ議會政治ヲ御覽ニ
ナレバ、此點ハハッキリ致シマス、伊藤公ハ
憲法制定當時ニハ、政黨ハ已ムヲ得ナクテ
出來ルダラウガ、政黨ハ厄介ナモノデア
ルト云フ御考ヲ持ッテ居ッタ、山縣公ハ行政ノ
大權ハ議會カラ全ク獨立シテ、何處ニモ屈
シテハナライ、政黨ナドハアッテハナラ
ナイト云フ御考デアッタ、此二ツガ相爭ッテ
讓ラナイ、御承知ノ通り伊藤公ハ位階勳等

ヲ自ラ抛ッテ野ニ下ッテ政黨ヲ組織シ、立憲
政治ヲ擁護シヨウトシタ歴史ガアリマス、
此天下不安ノ時ニ政黨ニ對スル政府ノ認識
ヲハッキリ致シマシテ、國民ニ示シマスコ
トハ、天下ノ人心ノ不安ヲ一掃スル所以ナ
リト思フ、ソコデ一黨一派ト云フヤウナコ
トニ依ッテ、舉國一致ハ得ラレナイモノ
デアアル、議會政治ト云フモノハ政黨政治
ニ依ラナケレバナラヌモノデアアル、政黨
政治ニ依ルコトニ世ノ中ヲ指導致シテ參リ
マスレバ、五・一五事件以來、鬱積セル國民
ノ不安、不満モ、一掃サレルト私ハ思ッテ居
リマス、サウシテ此總動員法ガ實際實現ス
ルヤウナ場合ニ於テモ、國民ハ安心シテ
業ニ就クコトガ出來ルト思ヒマスガ、之ニ
對スル總理大臣ノ議會政治ト政黨、立憲政
治ト政黨ニ對スル觀念ヲ承リタイ、國民ノ
舉國一致ヲ求ムルニハ議會ニ於テ政黨ガ分
レ、サウシテ是ガ互ニ研磨洗鍊シテ國家ノ
大事ヲ議スルコトノ方ガ、如何ニ正シイ途
デアルカト云フ御考ヲ持ッテ居ルカドウカ、
是ハ總理大臣ニ此場合御答ヲ願ッテ置クコ
トガ、非常ニ幸ナコトト思ヒマシテ、敢テ
質問致ス次第デアリマス

○近衛國務大臣 憲法政治ノ運用ヲ致シテ
行ク上ニ於キマシテ、政黨ト云フモノガア
ルコトニ依ッテ、憲法政治ノ運用ガ最モ圓滑
ニ行ハレルト云フコトハ、既ニ幾多ノ先輩
ノ政治家ガ之ヲ體驗シタ所デアリマシテ、
今日ハ殆ド議論ノナイコトデアリマス、唯政
黨ノ分布ガ小黨分立ガ良イカ、或ハ二大政黨
ノ對立ガ良イカ、或ハ絶對多數一國一黨ニ近
イヤウナ政黨ノ出現スルノガ良イカ、ソレ
ハ其時々ノ情勢ニ依ッテ判斷シナケレバナ
ラスト思ヒマス

○植原委員 質問ヲ繼續スルナラバ、私ハ
司法大臣ニ質問スルノデアリマスガ、時間
ガアリマセヌカラ午後ニ廻シテ宜ケレバ午
後ニ……

○小川委員長 午後ニ廻シマス、河野君カ
ラ議事進行ニ付テ發言ガアリマス、之ヲ許
シマス

○河野委員 此機會ニ私ハ先程陸軍ノ政府
委員カラ御答辯ニナリマシタコトニ付テ、
委員長ヲ通ジテ一言申上ゲテ置キタイト思
ヒマス、先程ノ御答辯ハ速記録ニ依ッテ見マ
セヌケレバ、確タルコトハ分リマセヌケレ
ドモ、大體吾々聞及ビマシタ所ニ依リマス
ト、一朝有事ノ際ニ於ケル國民ノ覺悟ト申
シマスルカ、社會ノ情勢ニ對シテ、徒ニ國民
ヲシテ不安ニ陥ラシメル惧ガアルヤウニ認
識スルノデアリマス、私モ多少其方面ノコト

モ聞キマシタシ、研究モ致シマシタガ、同ジ
軍ノ責任アル御方ノ御話ニ依リマシテモ、斯
ノ如キコトヲ申シテ居ラヌ人ガアル、私ノ
拜見致シマシタ軍ノ方ノ御書キニナリマシ
タ本ニモ、サウ云フコトハ書イテナイ、防空演
習ニ關スルコトヲ書キマシタ本ノ中ニモ、サ
ウ云フヤウニハ書イテナイ、一例ヲ申シマ
スナラバ、關東大震災ヲ何時モ空襲ニ關聯
シテ例證サレルノデアリマスガ、關東大震
災ニ於キマシテノ朝鮮人騒ギガ再ビ繰返サ
レルコトヲ恐レル、震災ノ善後處置ト云フ
コトニ對スル觀念ト同様ニ、再ビ大國民ガ
斯ノ如キ取違ヘタ態度ヲ執ルコトヲ警戒シ
ナケレバナラヌ、ソレニハ國民ヲシテ安心
納得セシムルヤウナ指導ヲスルコトガ必要
デアアル、是ガ防空ニ對スル根本ノ認識デナ
ケレバナラヌト書カレテ居ル本ガアルノデ
アリマス、然ルニ只今ノ御話ニ依リマスト、
衆議院議員ガ、東京ニ集マル鐵道サハ破壊
サレルカモ知レナイト云フヤウナ御意見
ヲ、斯ウシタ機會ニ御漏シニナルコトハ、
甚ダ吾々遺憾ニ考ヘルノデアリマス、若シ
サウ云フコトヲ想定セラレルニ致シマシテ
モ、斯ノ如キコトヲ絶對ナカラシムルコト
ガ、國防ノ任ニ當ラレル方々ノ覺悟デナケ
レバナラヌ、又同時ニ其用意ガナケレバナ

ラス、斯ノ如キコトガアッテハ斷ジテナラス
ノデアリマス、斷ジテナカラシムルヤウニ
吾々ハ期待スルノデアリマス、斯ノ如キ言
辭ヲ弄サレコトハ、甚ダ吾々ノ遺憾千萬
トスル所デアリマス、此點ハ十分ニ御考願
ヒタイト吾々ハ希望スルノデアリマス、此
點ヲ委員長ヲ通ジマシテ政府ニ進言ヲ致シ
マスガ、先程ノ御答辯ヲ更ニ速記録ニ依ッテ
御精讀下サイマシテ、間違ッタ所ガアルナラ
バ、又遺憾ノ點ガアリマスナラバ、又吾々
ノ希望ニ對シテ相違ノ點ガアリマスナラ
バ、他日御意見ヲ御漏シ願ヒタイ

更ニ此機會ニ一言附加ヘマスコトハ、今
日ハ陸軍大臣ハ缺席デアリマスガ、陸軍大
臣ハ速記録ヲ時々御直シニナルコトガアル、ソレヲ私ハッキリ申上ゲテ置キマス、私
ノ經驗デモアル、前議會ニ於テ陸軍大臣ガ
速記録ヲ直サレタコトガアル、今回ノ委員
會ニ於テモ、昨日ノ速記録ニ多少訂正ヲサ
レタヤウナ話ヲ聽イタ、マダ速記録ヲ受取ッ
テ見ナイカラ分ラヌケレドモ、サウ云フ話
ヲ聽イタ、斯ウ云フコトハ蔭デ直サズニ、
直ス點ガアレバ委員會ヲ通ジテ直シテ貰ヒ
タイ、私ハ前例ニ付テハッキリ申上ゲマス
ガ、前々議會ニ於テ、私ハ陸軍大將暗殺事
件ト云フヤウナコトヲ質問シタ、其時ニ陸

軍大臣ガ人間ニハ一長一短ガアルト云フコ
トヲ議會デ申サレタ、其申サレタ言葉ヲ速
記録ニ依ッテ見ルト「長所ガアリマスノデ」
トハッキリ直ッテ居ル、昨日モ申サレタ言葉
ノ中デ、確ニ速記録ヲ陸軍ノ方カラ訂正ヲ
サレルヤウナ申込ヲサレタトカ、訂正サレタ
トカ云フコトヲ聽イタ、是ハマダ結果ヲ見
ヌカラハッキリ申上ゲラレマセヌガ、サウ云
フコトハハッキリト委員會ヲ通ジテシテ戴
キタイト云フコトヲ、此際委員長ニ申上ゲ
テ置キマス、ドウゾ委員長ニ於テ然ルベク
御取計ヲ願ヒタイト思ヒマス

○眞鍋(儀)委員 議事進行ニ付テ申上ゲマ
ス、私ハ委員長ヲ通ジ總理大臣ニ、次ノ二
點ニ付テ御質シテ願ヒタイト思ヒマス、只
今我黨ノ櫻井氏ノ質疑ハ、マダ終了致シテ
居リマセヌデ、他ニ關聯事項ニ依ッテ質疑ガ
繼續サレテ行ツタ譯デアリマス、總理大臣ハ
午前中ノ御出席デ、御身體ノ工合ガ如何デ
ゴザイマセウカ、午後ノ質疑ニモ應ゼラレ
ルヤウナ御狀態デゴザイマセウカ、之ヲ第
一點ニ御伺致シマス、第二點ハ先程ノ空氣
デ委員會ノ模様ヲ御承知ノ通り、關聯事項
デナイ本當ノ質問事項ヲ、總理大臣ニ對シ
テ持ッテ居ラレル方々ガ澤山ニゴザイマス、
此機會ニ於テ申述べヨウトシテ、關聯事項

ノ質疑ノ申出ガアツタ譯デアリマス、何故カ
ト申シマス、總理大臣ガ待望久クシテ漸
ク此席上ニ御出デニナリマシタガ、今後此
席ヲ御外シニナリマシタラ、アト何時御出
席ニナルドラウト云フ一ツノ心配ヲ持ッテ
居リマス、ソコデ私ハ御病氣ガ次第ニ御全
癒ニナルニ連レテ、次第ニ長イ時間ヲ此席
ニ御勤ガ願ヘルカドウカ、此點ハ一遍來テ
後ハ餘所ノ方ニ多クノ時間ヲ費サレルヤウ
ニナリマス、重大法案デゴザイマスルガ
爲ニ、隨テ議員ノ間ニモ色々ノ空氣ガ醸成
サレテ行クト思ヒマス、此點ニ對シ委員長
カラ總理大臣ニ御質シノ上、此委員會ノ席
上ニ於テ御答ガ願ヘレバ結構ダト思ヒマス

○小川委員長 眞鍋君ニ申上ゲマス、只今
植原君ノ發言ヲ許シマシタノハ、關聯事項
トシテデハアリマセヌ、通告順ニ依リマシ
テ發言ヲ許シタノデアリマス、ソレカラ尙
ホ留保サレタ櫻井君ノ質問ハ、適當ノ時ニ
之ヲ許シマス、尙ホ首相ノ御出席ニ關スル
コトデアリマスガ、私カラ確メタ所ニ依レ
バ、總理大臣ハ午後ニモ出ラレマス、將來
モ出ラレマス云フコトデアリマス
○櫻井委員 植原君ハ政友會ヲ代表シテオ
ヤリニナッタノデアリマシテ、私ノ質問ニ關
聯シテ言ハレタノデハアリマセヌ、關聯デ

ハナイ、植原君ハ今政友會代表デ御ヤリニ
ナッタト私ハ解釋シテ居ル、併ナガラ先程申
上ゲタ通りニ、私ハ是デ質問ヲ終ツタノデハ
ナイ、商工大臣ノヲ留保シタト云フコトハ
申シテ居ラス、是カラ商工大臣ノ質問ニ入
ル順序デアルケレドモ、私ノ質問スルコト
ハ不能デアアルガ、此場合ノ御取扱ヲ委員長
ガ適當ニ御考ヲ願ヒタイト言ツタノデアリ
マシテ、私ノ質問ハ終了致シテ居ラナイノ
デアリマス
〔其通り〕ト呼フ者アリ
○小川委員長 其通りニ考ヘテ居リマス
〔休憩々々〕ト呼フ者アリ
○小川委員長 ソレデハ是ニテ休憩致シマ
シテ、午後二時カラ開會致シマス
午後零時三十分休憩
午後二時三十分開議

○小川委員長 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キ
マス、午前ニ於ケル質問應答ニ關聯シテ質
問ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——池
田秀雄君
○池田委員 私ハ近衛首相ニ簡單ニ御伺致
シテ見タイト思ヒマス、本會議ニ於テ御質問
ヲ致シマシタガ、丁度御病氣デ御休ミデシ
タノデ、午前中ノ櫻井、植原兩君ノ質問ニ關
聯シテ、簡單ニ質問ヲ致シマス、唯私ハ事ガ

國家ノ大本ニ觸ル、ト思ヒマスルガ故ニ、單ニ言葉尻ヲ揚足取りテ御話ヲシタイト思ッテ居リマセヌ、本當ニ總理ト心カラ御話ヲシテ見タイト思フノデアリマス、ソレデ私共ハ今日ハ非常ナル時局デアッテ、イツ何時今日以上ノ大難ガ日本ニ來ルカ分ラヌト云フコトハ、政府ト共ニ心配ヲ致シテ居リマス、又國家總動員ノ必要アルコトモ、是モ十分認メテ居リマス、然ラバ何故ニ本案ニ付テ私共ガ彼此レ申シマスルカト申シマスレバ、今日ノ世相ガ險惡デアルカラ、世人ガ非常ナル心配ヲシテ居リマス、是ガ一ツデゴザイマス、併ナガラ其最モ根本的ナル原因ハ、我國ノ所謂固有ノ憲法、獨特ノ憲法ト云フコトニ付テ、ドウシテモ今マデノ考ヘ方ヨリ變ッテ考デ行カナケレバナラスノデハナイカ、今マデノ歐米流ノ翻譯解釋デナクテ、我が日本ノ憲法ヲ日本精神デ解釋シナケレバナラスノデハナイカト云フ立前ニ立ッテ、御質問ヲ致スノデゴザイマス、其點カラ申シマスレバ、此國家總動員法案ト云フモノヲ拜見致シマス、第二十條マデト云フモノハ「戰時ニ際シ國家總動員上必要アル時」ト云フコトニナッテ居リマシテ、二十一條以下ハ「國家總動員上必要アル時」スク分ケテゴザイマス、ソレデ私共ノ

見ル所デハ第二十一條以下ノ「國家總動員上必要アル時」ト單ニ出テ居ルモノハ、是ハ純粹ナ立法事項ニ屬スルモノト見テ居リマス、併ナガラ其以前ノモノト云フモノハ、是ハ憲法第三十一條ノ規定ニビツタリ當嵌マツタ問題デハナイカ、又戰時ノ場合ニ於テハ、國民ハ斯ウ云フ規定ガアルト云フコトハ覺悟ヲ致シテ居リマス、併ナガラ憲法カラ申シマスレバ、第三十一條ニ「本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ」ト云フ明文ガアリマス、私共ハ是ハ憲法ニ大權トシテ保留シテアルデハナイカト云フ見解ヲ取ッテ居リマス、政府ハ從來ト同ジヤウナ立前デ、恐ラクハ是ハ大權デモヤレルケレドモ、立法權デモヤレル、所謂自由立法事項デアルト云フヤウナ解釋ヲ取ッテ居ラレドハナカラウカト思ヒマス、解釋ヲ取ッテ居ラル、ト云フヨリモ、ソレガ今マデノ行政慣例ニ屬シテ居ッテ、サウシテ事勿レ主義ニハ、ソレガ都合ガ好イト云フヤウナ考ヲ持ッテ居ラレドハナカラウカト、私ハ想像致シマス、併ナガラ我國ノ欽定憲法ガ、我國ノ獨特ノ憲法デアルト云フ今日ノ國民思想カラ申シマスレバ、此第三十一條ニ保留シテアルモノハ、今日政府トシテ日本獨特ノ憲法

ヲ尊重スルト言ハレルナラバ、ドウシテモ大權ヲ尊重スルト云フコトガ眼目デナケレバナラス、サウスレバ文句ノ末ニ關ハッテ「妨クルコトナシ」ト云フ文句ガアルカラ、是ハ立法デモ行ケレバ、大權デモ行ケルト云フヤウナモノデハ、私ハ體面上イカヌデハナイカ、我國ノ憲法ガ欽定憲法デアッテ、立法權モ大權カラ賜ッタモノデアリ、サウシテ臣民ノ權利自由ト云フヤウナモノモ、大權ニ依ッテ賜ッテ居ル、ソコデ是ハ法律ニ依ッテ改廢スベキモノデハナクテ、之ヲ停止スルナラバ大權デ停止スルノガ、是ガ日本獨特ノ憲法デハナイカト云フ立前ノ上ニ私ハ立ッテ居リマス、本當ニ日本ノ獨特ノ憲法ヲ尊重スルト言ハレルナラバ、事實ノ上ニ於テ、私ハ是ハ大權事項トシテ、政府ハ取扱ハルベキモノデハナイカ、ソレナラバ此第二十條以前ト云フモノハ、私共ハ政府ノ責任ニ於テ爲サルベキモノデアアル、二十一條以下ニ於テ、是ガ立法權ニ屬シテ參リマス、之ヲ又吾々ノ言葉デ申シマスレバ、平時ノ場合ニ於テハ立法權ニ屬シテ居ル、之ニ依ッテ國家總動員ノ實ヲ擧ゲラレル、平時ニ於テ戰時ノ準備ヲ爲シ、尙ホ平時產業ヲ戰時產業ニ轉換スル計畫ヲ定メテ行カレルベキモノデアアル、然ルニ此法案全部ヲ見レバ、大體

ニ於テ戰時ノ際ニ於テ、臣民ノ權利義務ヲ停止スルト云フヤウナコトガ眼目ニナッテ居リマスガ、本當ノ總動員計畫ナラバ、停止スルト云フヨリモ、積極的ニドウスル、斯ウスルト云フ計畫ヲ定メ、目標ヲ定メテ、此法案ニ織込マルベキデハナイカ、尙又二十條マデノコトナラバ、國民ハ疾ニ覺悟ヲシテ居ル、大權ニ保留サレテ居リマスカラ、是ハ政府ノ責任ニ於テ、大權ノ事項ニ相應スル大權命令、詰リ勅令ト申シマスルカ、樞密院ノ諮詢ヲ經タル勅令ヲ出サレルノガ、本筋デハアリマセヌカト云フコトガ、私ノ質問ノ要領デゴザイマス、此點ニ付テ總理ノ御所信ヲ伺ヒタイノデアリマス

○近衛國務大臣 只今ノ御尋ニ付キマシテハ、過日來司法大臣其他ヨリ御答ヲ申上ゲタ所デゴザイマス、之ニ對スル政府ノ解釋ト致シマシテハ、憲法ノ第三十一條ノ非常大權ト云フモノハ、既存ノ法律命令ニ拘ラズ發動スルモノデアリマシテ、隨テ此總動員法ト云フガ如キモノガ制定サレマシテモ、此制定ニ依ッテ此非常大權ノ發動ヲ妨ゲルモノデハナイト、解釋シテ居リマス、斯ノ如キ非常大權ト云フガ如キ規定ガ存スル以上ハ、此總動員法ノ如キモノハ必要ガナイデハナイカト云フ御考モアリマセウガ、併

ナガラ先程申述べマシタ通り、國家總動員ヲ行フニ當リマシテハ、如何ナル形ニ於テ戰時ニ於テ國家ノ權力ガ發動スルカト云フコトノ切メテ大綱ダケデモ、國民ニ知ラシメテ置クト云フコトガ、寧ロ立憲ノ趣旨ニ適フノデハナイカ、日露戰爭、日清戰爭ノ時ニモ、緊急勅令ノ發動ハアツクデアリマスガ、此非常大權ノ發動ハナカッタ、今度ハ更ニ一步ヲ進メマシテ、此國家總動員法ナルモノヲ議會ノ協賛ヲ經テ制定致シマシテ、豫メ國民ニ之ヲ知ラセテ置クト云フコトデアリマスルガ故ニ、一層立憲ノ精神カラ見マシテモ、其方ガ當ラ得テ居ルノデハナイカト考ヘテ居リマス

○池田委員 只今總理ノ御答辯ヲ得マシタガ、非常大權ガ既存ノ法律等ニ關係ナク發動シ得ルコトハ、性質上言マデモナイコトデゴザイマス、唯私共ノ御伺致シテ居ルノハ、憲法デ大權ヲ以テ賜タル臣民ノ權利ト申シマスカ、義務ト申シマスカ、第二十一條ノ納稅ノ義務デアルトカ、第二十七條ノ所有權ノ自由ニ關スルコト、或ハ第二十九條デゴザイマスカ、言論集會ノ自由ト云フヤウナコトヲ憲法デ保障セラレテ居ッテ、ソレガ法律トナッテ居リマスガ、サウ云フモノヲ停止スルト云フヤウナコトデアルナラ

バ、是ハ普通ノ法律デナクシテ、大權ノ發動ニ俟ツノガ、是ガ日本ノ欽定憲法ノ精神ニ合致スルデハナイカト云フノガ、私ノ根本ノ意見ナノデゴザイマス、或ハ是ハ今マデ議論ガ随分アリマシテ、多クハ此事項ヲ以テ、所謂自由立法事項ト致シテ居リマスガ、大權事項デモ宜ケレバ、立法事項デモ構ハヌト云フヤウナ考デアラウト思ヒマス、政府モサウ云フ考デアラウト信ジマス、ソレデ私共ハソレガイケナイデハナイカ、從來ノ考ガ間違ッテ居ルデハナイカ、國體ノ明徴ダトカ云フヤウナ國民精神ガ揚ッテ居ル際ニハ、本來ノ憲法精神ニ立還ラナケレバナラヌデハナイカ、今マデノ惡例ハ直シテ貫ヒタイト云フ意味デゴザイマス、ソレデサウ云フ意味合カラ、私ハ今回法律トシテ出サレテ居ルノハ、是ハ日本獨特ノ憲法ノ精神ニ依ッテ、政府ノ責任ニ於テ、大權ノ發動ニ相當スル形式ヲ具ヘタル勅令ト云フコトデ出サレルノガ本筋デアリマセヌカ、御話ノ通り日清、日露戰爭ノ時代ニハ、第三十一條ノ非常大權ノ發動ハ見タコトハアリマセヌ、是ハ其當時必要モナカッタノデゴザイマセウ、ノミナラス從來ノ憲法學者ガ多ク西洋流ニ解釋シテ居リマシタカラ、又西洋ノ憲法ニ此條項ガナイ爲ニ、之ヲ動カ

スト云フコトニ付テ、何等ノ研究ヲ重ネテ居ラナカッタヤウニ思ヒマス、私ハ日本ノ學者ノ憲法論ヲチヨイ／＼引繰返シテ見マシタケレドモ、餘リ第三十一條ニ付テ詳シイ解釋ヲシテアルノヲ發見致シマセヌ、唯併シ私共ハア、云フ條文ト云フモノハ、元來空文デハナイ筈デアル、ソレデ日本ノ國體ニ基キ、又日本獨特ノ憲法ト云フコトヲ言フノナラバ、ア、云フ憲法ノ條章ニ明ニ存在スル以上ハ、之ヲ政府ハ尊重サレマシテ、之ヲ適法ニ施行サレル途ヲ付ケラル、ノガ本筋デハアリマセヌカ、日清、日露戰爭時代ハ、其必要ハナカッタラウト思ヒマスルケレドモ、今回ノ法案ニハ明ニ憲法ノ第二十一條、若クハ第二十七條、若クハ第二十九條等ヲ停止セラル、ヤウナコトニナッテ居リマスルカラ、憲法ノ明文ガアリマスカラ、ソレハ政府ノ責任ニ於テ御ヤリニナルノガ、日本獨特ノ憲法ヲ尊重セラレル所以デアリマセヌカ、ト云フノガ私ノ質問ノ要點デゴザイマス、又此問題ニ付テ、動モスレバ政府當局ハ、議會ニ於テハ此ノ總動員ヲ理解シテ居ナイト云フヤウニ考ヘテ居ラル、カモ分リマセヌガ、併ナガラ私等ハ總動員ノ必要ナルコトハ痛感致シテ居リマス、敢テ政府ト譲ラナイダケノ理解ヲ持ッテ居ル積リデアリマ

ス、サウ致シマスレバ、平時カラ戰時ニ移ル場合ノ規定ダト云フナラバ、是デ申セバ、第二十一條以下ノヤウナ規定デ、而モ本當ノ計畫ヲ織込シダ總動員法案ヲ御提出ヲ願ヒタイ、二十條前ノモノハ、是ハ大權ニ屬スル事デアルカラ、政府ノ責任ニ於テ爲シ得ル途ガアル、ソレガ又日本獨特ノ憲法ヲ尊重スル所以デアリマスカラ、本會議ニ申上ゲマシタ通りニ、本案ハ撤回サレテ、サウシテ吾々ガ協賛シ得ル事項ノモノヲ盛ッタル法律案ヲ御提出ニナリ、協賛シ得ザルヤウナモノハ政府ノ責任ニ於テ善處セラル、途ガアルデハアリマセヌカ、少シモ總動員ノ態勢ニ影響ヲ及スモノデハナイト信ジテ居ルノデゴザイマス、此點ニ付テ總理ノ御所見ヲ伺ヒマス

○近衛國務大臣 日本ノ獨特ノ憲法ヲ尊重シナケレバナラヌト云フコトハ、吾々モ全然御同感デアリマシテ、其點ニ付テハ異論ガナイノデアリマス、唯此法律ト非常大權トノ關係ニ付キマシテハ、只今申シマシタ通り、政府ト致シマシテノ解釋ハ、多少御見解ト異ッテ居ルヤウニ思ヒマス

○池田委員 見解ノ異ッテ居ルコトハ初カラ分ッテ居リマスルガ、唯、ソコニ於テ私等ノ考ガ誤ッテ居リマスルカ否ヤ、ソレガ君

ノ考ハ間違ッテ居ルト云フコトデアッテ、サ
ウシテ承服スルコトガ出来マスレバ、何時
デモ私ノ意見ハ撤回ヲ致シマスケレドモ、
私ノ信ズル所ニ依リマスレバ、是ガ本當ニ
我が獨特ノ憲法ノ解釋デハナイカト云フヤ
ウニ確信ヲ致シテ居ル、故ニ從來先例ハ幾
ラアッテモ、今日日本精神ガ揚ッテ居ル、サウ
シテ獨特ノ憲法ヲ尊重シナケレバナラスト
云フ際ニ於テハ、今マデノ憲法解釋ト異ッタ
ル解釋ヲ採ッテ、サウシテ今マデノ惡例ハ一
掃シ去ッテ、本當ノ日本獨特ノ憲法ヲ尊重ス
ルコトヲ、言葉ダケデナク事實ノ上ニ於テ
示シテ戴キタイト云フノガ、私ノ主張シ、
失禮ナガラ政府ニ御勸告シテ居ル所デゴザ
イマス、尙ホ又憲法ノ第二章ノ臣民ノ權利
義務ニ關スル件モ、假令自由立法事項ト云
フコトニ致シマシテモ、之ヲ大權デモ出
來、或ハ法律デモ出来ルト致シマシテ、其
勅令デ出来ルト云フ法律ニ依ッテ之ヲ又勅
令ニ委任スルト云フヤウナコトニナレバ、
ドウシテ論理ガ合ヒマスカ、私共ニハ分リ
マセヌ、一貫シテ法律デ之ヲ立テ、行カレ
ルト云フナラバ、是レ亦一ツノ見方デアル、
立法事項モ、大權事項モ是ハ共通事項デア
ルカラ、勅令デハハヤルベキモノデアル、
或ハ法律デヤルベキモノデアルトカ、ドチ

ラカデ一貫シテ居タナラバ、私共ハ自由
立法事項ト云フ意味ガ分リマス、併シ法律
案トシテ出シテ之ヲ勅令ニ委任スルナラバ、
何故ニ最初カラ大權事項トシテ、之ヲ勅令
ニ依ッテ規定セラレザルカ、私ハ其意味ガ分
ラナイ、私ハ病後ノ首相ニ對シテ長ク押問
答スルコトヲ欲シマセヌ、意見ノ相違デア
ルト云フ御話デゴザイマスレバ、是ハ國家
ノ重大問題デゴザイマスカラ、總理バカリ
デナク、其他ノ閣僚ニ於テモ御一考ヲ願ヒ
タイ、サウスレバ又此非常ナル際ニ於テ――
單ニ衆議院バカリデナク、貴族院デモ相當
ナル反對ノ意見ガアルヤウニ承ッテ居リマス
ガ、此舉國一致ヲ最モ必要トスル際ニ於テ、
無用ナル論爭ヲセズニ濟ムデハナカラウカ
ト云フヤウニ考ヘルノデアリマス、餘計ナ
コトデハゴザイマスルケレドモ、私ハ政界
ニ於テ能ク言ハレテ居ル政府ノ面目ニ掛ケ
テモ、或ハ某大臣ノ面目ニ掛ケテモト云フ
御言葉ガゴザイマスガ、私ハ此言葉ニ付テ
常ニ不快ノ感ヲ持ッテ居リマス、市井ノ俠客
輩デアルナラバ、自分ノ顔ニ掛ケテモト云
フ共一片ノ意氣ハ愛スベキモノガアリマス
ケレドモ、苟モ一身ヲ捧ゲテ君國ノ爲ニ盡
ス者ナラバ、自分ノ面目何スルモノゾ、國
家ノ爲ナラバ政府ノ面目、大臣ノ面目ナド

ハ泥土ニ擲ッテモ國家ノ爲ニ盡スノガ、大臣
ノ責任デアリ、政治家ノ德義デアルト私ハ
信ジテ居リマスルガ故ニ、此點ニ付テ十分
御考ヲ願ヒタイト云フコトヲ申上ゲテ、私
ノ質問ヲ打切りマス

感ズル、過日ノ本會議ニ於テ大藏大臣及ビ
商工大臣ヨリ述べラレタ所ニ依リマシテモ、
準備ニ缺クル所アリト云フ結論ガ起ル程ニ
私ハ考ヘル、要スルニ計畫準備ノ必要デア
ルコトニ付テハ、是ハ政府ノ御説明ヲ俟ツ
マデモナイ、唯問題トナリマスルノハ、此
國家總動員法ハ、今日ノ支那事變ニ對スル
モノデナイコトハ、政府ノ言明スル所デア
ル、即チ陸軍大臣ガ今日ダケノモノナラバ
軍需工業法其他デ行ケルノデアルガ、實ハ
將來ニ備ヘル爲デアルト云フコトヲ言明サ
レタ、ソコデ若シ準備ガ必要デアルナラバ、
本案二十一條以下ノ規定ダケデ宜クハナイ
カ、言換ヘテ申シマスルナラバ總動員ノ實
施、是ハ政府ハ將來ノ爲ノ法律ダト言フ、
ソレナラ其實施ノ規定ヲ今日ニ於テ設ケテ
置ク必要ガ何處ニアルカ、準備ノ爲ナラ準
備ダケデ宜イデハナイカ、斯ウ云フコトガ
議論ノ結果當然出テ來ル、準備計畫ハ必要
ダト仰シヤル、準備計畫ガ必要デアアルナ
ラバ、其必要ノ限度ニ於テ準備計畫ノ規
定ダケヲ置ク、即チ本案ニ於テハ二十一
條ダケノ規定ニ止メ、總動員ノ實施ニ關
スルコトハ、之ヲ本案カラ除イテ、今池田
君ガ仰シヤッタヤウニ、之ヲ憲法第三十一
條、即チ非常大權ノ發動ニ俟ツ、斯ウス

ハ泥土ニ擲ッテモ國家ノ爲ニ盡スノガ、大臣
ノ責任デアリ、政治家ノ德義デアルト私ハ
信ジテ居リマスルガ故ニ、此點ニ付テ十分
御考ヲ願ヒタイト云フコトヲ申上ゲテ、私
ノ質問ヲ打切りマス

○板野委員 只今ノ池田君ト總理大臣ノ質
問應答ニ徴シマスレバ、或ハ結局意見ノ相
違ト云フコトニ終ルカモ知レマセヌ、併シ
ソレニハ十分ニ意見ヲ闘ハシテ見タイ、本
案ハ御承知ノ如ク總動員ノ準備ニ關スル規
定ト、總動員ノ實施ニ關スル規定、即チ二
十一條以下ガ謂ハバ準備ニ屬シ、其前ガ實
施ニ關スル規定デアルトハ申ス迄モナイ、
サウシテ是ハ御缺席ニハナリマシタガ、總
理大臣モ新聞、或ハ速記ニ依ッテ、或ハ政府
カラノ傳言ニ依ッテ御承知デアリマセウ、頻
ニ政府デハ陸軍大臣其他ノ方々カラ、國家
總動員ノ準備計畫ノ必要ナルコトヲ力説サ
レテ來タコトハ、御承知ノ通りデアリマス、
國家總動員ノ計畫準備ノ必要デアルトハ、
私共勿論政府ト同感デアアル、其必要ナルコ
トハ痛感致シマス、遠慮ナク申シマスレバ、
此計畫準備ニ付テ今マデ政府ガ――現内閣
ダケトハ申シマセヌ、一觸即發ヲ唱ヘナガ
ラ、尙且ツ此危機ニ備ヘル準備ニ於テ、聊
カ足りナイモノガアリハシナカッタカト私ハ

ハ泥土ニ擲ッテモ國家ノ爲ニ盡スノガ、大臣
ノ責任デアリ、政治家ノ德義デアルト私ハ
信ジテ居リマスルガ故ニ、此點ニ付テ十分
御考ヲ願ヒタイト云フコトヲ申上ゲテ、私
ノ質問ヲ打切りマス

感ズル、過日ノ本會議ニ於テ大藏大臣及ビ
商工大臣ヨリ述べラレタ所ニ依リマシテモ、
準備ニ缺クル所アリト云フ結論ガ起ル程ニ
私ハ考ヘル、要スルニ計畫準備ノ必要デア
ルコトニ付テハ、是ハ政府ノ御説明ヲ俟ツ
マデモナイ、唯問題トナリマスルノハ、此
國家總動員法ハ、今日ノ支那事變ニ對スル
モノデナイコトハ、政府ノ言明スル所デア
ル、即チ陸軍大臣ガ今日ダケノモノナラバ
軍需工業法其他デ行ケルノデアルガ、實ハ
將來ニ備ヘル爲デアルト云フコトヲ言明サ
レタ、ソコデ若シ準備ガ必要デアルナラバ、
本案二十一條以下ノ規定ダケデ宜クハナイ
カ、言換ヘテ申シマスルナラバ總動員ノ實
施、是ハ政府ハ將來ノ爲ノ法律ダト言フ、
ソレナラ其實施ノ規定ヲ今日ニ於テ設ケテ
置ク必要ガ何處ニアルカ、準備ノ爲ナラ準
備ダケデ宜イデハナイカ、斯ウ云フコトガ
議論ノ結果當然出テ來ル、準備計畫ハ必要
ダト仰シヤル、準備計畫ガ必要デアアルナ
ラバ、其必要ノ限度ニ於テ準備計畫ノ規
定ダケヲ置ク、即チ本案ニ於テハ二十一
條ダケノ規定ニ止メ、總動員ノ實施ニ關
スルコトハ、之ヲ本案カラ除イテ、今池田
君ガ仰シヤッタヤウニ、之ヲ憲法第三十一
條、即チ非常大權ノ發動ニ俟ツ、斯ウス

ルコトガ理論上當然ノ結果デハアリマセヌカ、今直グ使ハナイモノナラバ、戦時ニハ戦時ニ準ズルダケノ憲法上ノ規定、即チ第三十一條ノ大權發動ノ規定ガアルノデアルカラ、何ヲ苦シンデ今日總理大臣ノ仰セニナル千變萬化、今日ヲ以テ明日ヲ測ルベカラザル時ニ於テ、豫メ後ニ來ルベキ千變萬化スベキ状態ニ備ヘルノ規定ヲ置ク必要ガアルカ、政府ハ頻リニ外國ノ戰時動員ノ規定トカ、外國ノ立法例ナドノ印刷シタモノヲ吾々ニ配付サレマスガ、外國ニハ日本ノ憲法第三十一條ノ如ク、即チ天皇ノ大權ニ屬スル規定ヲ持タナイ、持タナイカラ彼ハ戰時ニ備ヘルノ法律ヲ作ル必要ガアリマス、今カラ定メテ置ケバ實情ニ適セザル結果ヲ見ル危険ガアツテモ、尙且ツ第三十一條ノ如キ規定ガナイカラ、豫メ法規ヲ以テ之ヲ決メテ置ク必要ガアリマス、併シ日本ニハ其場合ニ備ヘル所ノ第三十一條ノ規定ガアルノデアルカラ、外國ノ眞似ヲシテ何モ今カラ作ッテ置ク必要ハナイ、外國ノ立法例ハ此點ニ於テ日本ニハ通用ヲ致シマセヌ、何ノ爲ニ外國ノ立法例ナドヲ吾々ニ下サルノカ、過日來鹽野法相其他政府カラ頻リニ述ベラレテ居ルヤウニ、此第三十一條ノ所謂大權命令ハ、最モ顯著ナモノデアッ

テ、如何ナル命令ガアラウガ、如何ナル法規ガアラウガ、ソシナコトニハ何等ノ拘束ヲ受ケナイ、自由ニ大權ノ發動ガ出來ルノデアル、是ハ政府ノ仰シヤル通りト私モ法律上ノ解釋ハ左様ニ致シテ居ル、偕テサウナルトドウナル、今日此法律ヲ拵ヘテ、即チ總動員ニ關スル規定ヲ置ク、置イテモ一朝有事ノ際ニ、即チ第三十一條ニ規定スル戰時若クハ事變ガアル時ニハ、何時デモ大權ハ發動スルノデアル、發動スレバ過日司法大臣モ仰セニナツタヤウニ、今日此法律ヲ作ッテ置イテモ是ガ一部變更ヲ受ケルカモ知レヌ、或ハ全部廢除サレルカモ知レヌ、是ハ當然ノ法律上ノ解釋、司法大臣ト同意見デアル、サウスレバ今コンナニヤカマシク言ッテ、國民ニ大衝動ヲ與ヘテマデ此法律ヲ作ッテ置イテモ、國家總動員法ナルモノノ愈、正念場デアル、愈、活動ヲシナケレバナラス、即チ戰時ニ入ツタ時ニハ是ガ活キテ居レルカ、其儘死ンデシマフカ、此法律ノ運命ハ分ラナイコトニナル、ドンナ大權命令ガ出來ルカモ知レナイ、之ヲ全部ヲ排除スル大權命令ガ發動スルカモ知レナイ、要スルニ此法律ハ作ッテ置イテモ、イザ是カラ此法律ガ働カウト云フ時期、即チ戰時ニ入レバ、其法律ノ運命ハ如何ニ相成ルカ分ラナイコ

トハ、是ハ動カスベカラザル法律上ノ結論デアル、左様ナ法律ヲ今頃拵ヘテ——謂ハハ過程的ノ法律ダト言ハナケレバナラス、戰時ニナルトドンナ大權命令ガ出ルカモ分ラナイ、暫定的ト言ハナケレバナリマスマイ、戰時ノイザ働カナケレバナラス時ニ、其法律ハ消エテシマフカモ分ラナイ、此過程的、暫定的ノ性質ヲ持つ法律ヲ作ルコトハ、寧ロ意義ガナイデハナイカ、無用デハナイカ、是カラ働カウト云フ戰時ニハ消エルカモ知レヌト云フ運命ヲ持つヤウナモノヲ、今日ハ必要ノナイノニ之ヲ制定シテ置ク必要ガ何レニアリマスカ、又突然此國家總動員法ナドヲ出スト、國民ガ混亂スルカモ知レヌト云フヤウナ御考ガアルカモ知レナイ、國民ガ迷惑スル、豫メ其大綱、豫メ其輪郭、總理ハ大綱ト言フ、陸軍大臣ハ輪郭ナドト言フガ、要スルニ是ハ同ジナノデアル、大綱、輪郭ダケデモ知ラシテ以テ、豫メ之ニ備ヘルヤウニサシタ方ガ宜イ、斯ウ云フヤウナ御趣旨ノヤウデアッタ、併シ此議論モ立チマスマイ、其輪郭ヲ定メ、其大綱ヲ定メテモ、其法律ガ眞ニ活用サレル時ニハ、活用サレナイデ死ンデシマフ、溶ケテ散ツテ消エテシマフカモ知レナイナラバ、是ガ戰時ニ活用サレ、實施サレルモノダト

シテ備ヘタ國民ハ、ソレコソ混亂ヲシテ惑フコトニナリハシマセヌカ、ドウ御考ニナリマスカ、此點ガ私ニハ了解ガ參リマセヌ、ドウカ私共ノ爲ニ此惑ヒノ解ケルヤウニ御懇切ナル御説明ヲ承リタイ、又三十一條トノ關係、是ガ陸軍大臣ノ言明スル所ニ依レバ、今日ノ支那事變ニ對シテハ今ノ法律デ宜イ、將來ニ備ヘル爲メデアルト言ッテ居ル、同時ニ陸軍大臣ノ言明スル所ニ依レバ、國際關係ハドンナニ進展スルカ分ラナイ、東ニ向ッテ行クカ、西ニ向ッテ行クカ分ラナイト云フ陸軍大臣ノ御答辯デアル、陸軍大臣ノ言モ亦刻々ニ變ルノデアリマスカラ、ドウ云フ風ニ情勢ガ變化スルカ勿論分リマセヌ、丁度昨年ノ一二月頃林内閣當時ニ於テ、一觸即發ガ此議場ニ於テ唱ヘラレ、一觸即發、極メテ危機ニ瀕シテ居ルコトヲ述ベタ人ガアッタガ、私ハ思ヒマス、此時ノ一觸即發ナルモノハ、支那ヲ對手トシテ此危機ヲ唱ヘタノデヤナイト私ハ思ヒマス、サウデハナクシテ某國トノ關係ノ極メテ危險ニ瀕スルコトヲ述ベタノダラウト思フ、ソレハドチラデモ宜シイ、兎ニモ角ニモ之ヲ述ベテ半年經タヌ中ニ、意外ニ支那トノ間ニ戰端ヲ開クニ至ッタ、斯様ナ次第デアリマスカラ、豫メ何處ガ敵ニナルカ、誰トドウスルヤウニナ

ルカ、千變萬化デス、千變萬化デアノニ、豫メ今日ヨリ適切有效ナル動員令ヲ作ルナドトハ、神様デナケレバ、人間ニハ出來ナイ、刻々ニ變ル千變萬化、刻々ニ變ッテ、愈是カラ之ヲ働カセナケレバナラヌト云フ時ニ、情勢ノ變化ヲ見ルベキ筈デアノニ、今日ニ於テ豫メ法律ヲ立テ、置クノデアルカ、私ニハ分リマセスガ、何故今日ヤルカ、國民ニ知ラスト言フガ、國民ニ知ラセタツテ暫定的ノモノダ、或ハ國民ヲ惑ハスカモ知レヌ、ソレダカラ三十一條ニ委シテシマヘト言フノハ此處カラ出ル、準備計畫ニ關スル規定ハ早クナサイ、準備計畫ニ付テハ政府ニ緩漫ナルモノガアルカモ知レヌ、敢テ現内閣トハ申サヌ、モット出來テ居ッテモ私ハ宜イト思フガ、今日ニ於テノ問題ハ早ク準備ヲナサイ、準備ニ關スル規定ニ足ラザルモノガアレバ、提案ナサルノガ洵ニ宜シイガ、此情勢ハ刻々ニ違フモノダトスレバ、愈、動員令ノ必要ヲ見タ時、即チ動員令ノ必要ナル事態ガ茲ニ起上ツタ時ニ、初メテ其必要ニ適應スルヤウ適切ナル處置ヲスル、ソレハ愈、其必要ニ迫ラレテ、其時ニ三十一條ノ大權ノ發動ニ俟ツコトニ最モ意義ガアル、國民ヲ感動セシメル上ニ於テ、國民精神ノ總動員ヲ望ム上ニ於テモ、亦時代

ニ適應スル適切ナル法規ヲ立テルト云フ點カラ見テモ、是ガ一番有效ダ、何故ニ此適切有效ナル方法、即チ三十一條ノ規定アルニ拘ラズ、謂ハバ暫定的デアリ、謂ハバ過程的デアル本案ノ立法ヲ爲サントサレルカ、ソレハオ前トハ意見ガ違フノダ、意見ノ相違ダト仰セニナレバソレ迄デアル、私ハ少クトモ私ノ只今述ベタコトガ、理窟ニ適ヒ、是ガ必要ニ適フモノダト存ジマスカラ、敢テ政府ガ此三十一條ニ依ルコトヲ俟タズ、唯準備ノ法規ダケヲ拵ヘテ、此總動員ノ實施ニ關スル事柄ハ其必要ノ起ツタ時、三十一條ニ依ッテ大權ノ御發動ヲバ仰ギ奏請スルト云フ態度ニ出ル方ヲ爲サヌカ、即チ三十一條ニ依ッテ奏請スルト云フコトヲ、御決意ニナラス所以ノ理由ヲ御説明ヲ願ヒタイ

○近衛國務大臣 國際情勢ハ先程モ申シマシタヤウニ所謂千變萬化デアリマシテ、豫測出來ナイコトハ勿論デアリマスガ、併ナガラ愈、戰時ト云フ場合ニ、所謂國家總動員ノ態勢ト云フモノハ、如何ニシテ現ハレルカト云フコトノ大要ハ、之ヲ豫測スルコトハ出來ルガ、其大要ヲ豫測セラレル以上ハ、之ヲ豫メ議會ノ協賛ヲ經マシテ、法律トシマシテ、規定致シテ置クト云フコトガ

適當デアルト考ヘマス、之ニ依ッテ總動員ハ國民ノ眞ノ自發的ノ協力ヲ必要トスルノデアル、國民ガ此法律ノ公布ニ依リマシテ、其大綱ダケデモ豫メ知ッテ之ニ備ヘル、其準備ヲ爲スト云フコトハ、此總動員ノ實施ニ當ッテ、國民ノ協力ヲ容易ナラシムル所以デアルト考ヘルノデアリマス、第三十一條トノ關係ニ付キマシテハ、政府ト致シマシテモ、此立案ニ當リマシテ相當ニ研究致シテ、先程申述ベマシタヤウナ解釋ヲ執ッテ居ルノデアリマスガ、尙ホ詳細ハ政府委員カラモ申上ゲマス

○青木政府委員 只今ノ御質問ノ中ニ、本法ハ今次ノ事變ニハ適用シナイト云フコトヲ、政府當局カラ言明シタト云フ御話ガアリマシタガ、左様デハナイノデアリマシテ、今次事變ト雖モ今後ノ發展如何ニ依ッテハ、本法ニ依ッテ適當ナル措置ヲ必要トスル場合ガアルノデアリマス

次ニ總動員準備ト實施トノ關係ニ付テ御意見ガゴザイマシタガ、總動員計畫ノ樹立ニ付キマシテハ、多年政府ニ於テ計畫ヲ進メテ居リマス、而シテ其調査ノ結果、之ヲ實行ニ移スニ當リマシテハ、ドウシテモ法ノ根據ガナケレバ、實行力ガ伴ハナイノデアリマス、隨テ其研究ノ結果、ドウシテモ此

程度ノ立法ヲ必要トスルコトヲ知ツタノデアリマス、即チ事變ガ起キマシテ、慌テ、立法スルコトナシニ、直チニ平素ノ計畫ヲ實行ニ移スガ爲ニ、本法ノ制定ヲ必要トスルノデアリマス

次ニ憲法第三十一條トノ關係ニ付キマシテハ、先般來色々ノ御意見ヲ伺ヒマシタガ、此點ニ付キマシテハ、獨リ現内閣ト云ハズ歴代ノ内閣ガ、常ニ先程總理大臣ノ御述ベニナツタヤウナ解釋ヲ執ッテ居ルモノト、私共ハ考ヘテ居リマス、第一戰時事變ニ當リマシテハ、豫メ之ニ備ヘル立法上、行政上各般ノ準備ヲシテ置クノガ、政府當然ノ責務デアルト考ヘテ居リマス、ソレハ日清戰爭、日露戰爭ハ固ヨリ、大正七年本法ノ前身デアアル軍需工業動員法ヲ制定サレタ所以ノモノハ、全ク此點ヲ裏書シテ居ルト思ヒマス、併シ是ハ時間ガ經ッテ居ルト云フ御話ガ若シアルナラバ、昨年臨時議會ニ於キマシテ、臨時資金調整法、臨時馬ノ移動制限ニ關スル法律、米穀ノ應急措置ニ關スル法律、臨時肥料配給統制法、輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律、臨時船舶管理法、是等ハ今次ノ事變ニ關聯シテ、皆様方ノ手ニ依ッテ成ツタ法律デアリマス、然ルニ其時ニ於テ是等ノ戰時事變關係ノ立法ヲシテ、

此事變ニ備ヘルコトヲ御考究ニナル際ニ於テ、一言モ只今ノヤウナ御意見ヲ伺ヘナカッタノデアリマス、隨テ是ハ獨リ政府ト云ハズ、議會ニ於カレテモ、第三十一條トノ關係ニ付テハ、同ジ御見解ヲ執ッテ居マシタモノト私共ハ考ヘテ、本法ノ立案ニ當リタ次第デアリマス

○板野委員 今政府委員ノ御答辯デハ、今回ノ事變ニハ本法ヲ適用シナイト云フコトハナイノダ、今回ノ支那事變ニモ適用スル、サウ仰シヤッタガ、私ハ斯ウ本會議ノ議場デ陸軍大臣ノ言明ヲ聞イタノデアリマス、速記録ニモ斯ウアルノデアリマス、之ニ付テ深澤君ガ彼此レ言ッテ居リマシタ、ソレニ對シテ陸軍大臣ハ斯ウ言ッテ居ル、「現下ノ情勢ガ國家存亡ノ時期デアルトハ考ヘテ居リマセヌ」是ハマア今ハ要ラスコトデアリマス、其次ニ斯ウナッテ居ル、「即チ現在ハ現在ノ軍需工業動員法、其他ノ臨時立法ニ依リマシテ、作戰ヲ進ムルコトガ出來得ルト考ヘテ居ルノデアリマスルガ、將來ニ於キマシテ、國際關係上重大ナル事變ガ起ルカモ知レナイ」云々、斯ウ云フコトヲ述ベラレタカラ、私ハ今回ノ事變ニハ適用ハセヌ積リダト云フ御趣旨ダラウト解シテ、先刻ノ質問ヲシタノデアリマス、今私第三十一條ト本

案トノ關係ニ付テノ、政府委員ノ御言葉ノ中ニ、今マデノ内閣デモ隨分ヤッタ先例モアル、今マデハ今度ノヤウニ色々ナ文句ヲ付ケナカッタト云フヤウナ御言葉ヲ拜シマシタガ、ソレダカラ是デヤッテ居ルノダ、ソレダケデハ、實ハ親切ナ答辯デハナイ、親切ナ説明デハナイノデス、前ニハ默ッテ居ッタ先例ガアルト云フ、先例ノ中ニモ幾多ノ惡例モアル、先例ノミニ藉口シテソレダカラ是デ宜イノダ、ソレデハ不親切デス、少クトモ本法案ヲ國民ガ如何ニ重大ニ見テ居ルカト云フ今日ニ於テノ政府ノ答辯トシテ、殊ニ總理大臣ノ指名ヲ受ケテ答辯ニ立ツアナタトシテハ、ソレハ板野ノ言フコトガ間違ッテ居ルト云フコトヲ、何故正々堂々ト之ヲ論破スルノ態度ニ出ナイカ、先例ヲ仰シヤルカラ私モ此處デ先例ヲ申シマス、軍需工業動員法トカ、臨時立法トカ色々仰シヤル、成程其先例ハアル、是ハ本法トハ違ヒマスケレドモ、簡單ニ申シテ置クガ、或ハ工場事業場管理令、軍需工業動員法ノ如キハ本案ト異リ、第一條以下一々スク／＼ノモノハ徵收スル、斯ク／＼ノモノハ制限スル、斯ク／＼ノモノハ軍用品トシテ使用スルト云フ風ニ動員ノ客體、動員ノ目的ナルモノヲ、法律ヲ以テ明示シテ居ルノデアアル、

宜シウゴザイマスカ、法律ヲ以テ明示シテ居ルノデアアルカラ、違憲論モ何モ起リハシナイ、本案ハドウデアルカト云フト、動員スベキ一切ノ客體、總動員ノ目的ナルモノヲ定メルコトヲ擧ゲテ之ヲ勅令ノ規定ニ一任ヲシテ居ル、即チ法律ヲ以テ規定シナケレバナラヌモノヲ、法律ハ其規定ヲ爲サズシテ、勅令ノ規定ニ讓ルコトガ憲法違反デアルト云フ議論ナノデアアル、ソレダカラ一々其客體、一々其目的ヲ茲ニ掲ゲテ、以テ斯ノ如キモノハ徵用スルゾ、斯ノ如キモノハ制限スルゾ、斯ノ如キモノハ政府ガ使用スルゾト規定ヲシタ所謂軍需工業動員法ノ如キモノト、本案ト同一ニスル譯ニハ參リマセヌ、失禮ナ言葉デスガ、味喰ト……イヤソレハ申シマセヌ(笑聲)全然違フ、ソシナ事ヲ仰セニナルナドハ、實ハ私共全ク意外ノ感ニ堪ヘヌ、此先例ガ本案ノ先例タリ得ル理由ノ御説明ヲ承リマセウ

○青木政府委員 軍需工業動員法ト本法トハ、其法律ノ本質及ビ立法方ニ於テ差異ガナイト考ヘテ居リマス、成程軍需工業動員法ハ、其目的ガ軍需ノ充足ニアリマスルカラ、其適用スル品目ニ付キマシテハ、軍需品及ビ之ニ準ズベキモノヲ掲ゲテ居リマス、而シテ本法ニ於キマシテハ總動員ノ立前カ

ラ、獨リ軍需品ニ限ラズ國民生活ノ確保、經濟界ノ運行ヲ確保スルニ必要ナル物資ニ迄及ンデ居リマスカラ、其範圍ハ廣クナッテ居リマス、ソレハ目的ガ廣クナツタカラデアリマシテ、法律ノ立前ト致シマシテハ、法律ガドノ程度具體的ニ示シテ居ルカト云フコトニ付キマシテハ、書キ方ガ何等違ガナイト考ヘテ居リマス、又軍需工業動員法ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ「下云フ字ノナイ條項ガアリマス、例ヘバ第二條ヲ讀ミマシテモ」軍需品ノ生産又ハ修理ノ爲必要アルトキハ左ノ各號ニ掲グル工場及事業場並其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得「下書イテアリマシテ、如何ニモ具體的ニ書イテアルヤウデアリマスガ、併ナガラ却テ此軍需工業動員法ノ如ク指定シテ置キマスレバ、何等ノ制限ナシニ無條件ニ行政權ヲ發動シ得ルノデアリマス、本法ノ如ク「勅令ノ定ムル所ニ依リ」ト云フノハ、寧ロ先般來御説明ノアリマシタ如ク、之ニ或ル程度ノ準則ヲ決メテ、制限ヲ加ヘテ發動ヲショウト云フ趣旨ニ外ナラナイノデアリマシテ、其限界ヲ法律ニ示シタ點ハ、軍需工業動員法ト本法ト何等違ハアリマセヌ

次ニ先般本法ヲ折角制定シテ置イテモ、

憲法第三十一條ノ非常大權ノ發動ノアル場合ニハ、是ガ無効ニナツテシマフ、隨テ暫定的ノ法規ニナリハシナイカト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、政府ハ左様ニハ考ヘテ居リマセヌ、是ハ戰時ニ於キマシテモ、豫想シ得ル程度ノ對策ヲ講ジテ居ルノデアリマスルカラ、寧ロ此程度ニ於テ私ハ非常大權ノ發動ヲ仰ガズニ間ニ合ッテ行クノデハナイカト考ヘテ居リマス、ソレハ絶無トハ申シマセヌ、併ナガラ先程御話ノ如ク、非常大權ノ發動ニ依ッテ、此法律ハ愈々時ニハ無駄ニナルト云フヤウナコトハ、政府ハ考ヘテ居ラナイ次第デアリマス

次ニ戰時ニ際シテ實情ニ適スルヤウニヤルニハ、第三十一條ニ依ルノガ宜シイデハナイカト云フ御話ガアッタノデアリマスガ、ソレハ法律ニ依ルヨリハ、勅令ニ依ッテ臨機ノ立法ヲシタ方ガ宜シイノデアリマスカラ、本法ニ於テハ左様ナ方法ヲ執ッタノデアリマス

○板野委員 ドウモ今ノ御答辯デハ私共了解ガ參リマセヌ、私共ハ本案ノ立前ガ、法律ヲ以テ總動員スベキ客體ヲ定メナイコトニ、非常ナ危險ヲ感ジ、且ツ左様ナコトヲスルコトガ憲法上ノ危機デアルト思フ、決メテナイカラ勅令ヲ以テ政府ガ勝手ニ決メル、

此點ハ議會ハドウスルコトモ出來ナイ、軍需工業動員法ハサウデハナイ、チャント動員スベキ目的ヲ法律ニ規定シテ居ルカラ、其法律案ニ協賛ヲ與ヘテ出來テ居ルノデアルガ、本案ハ形ハ法律案トシテ出テハ來タバ、其案ノ實質内容ハ、將來政府ガ勝手ニ出來ルト云フ點ガ、是ガ違憲論モ起レバ、政府ノ獨斷ガ行ハレルモノデアルトシテ、世間ガ怖レル點デアアル、而シテ私ハ本案ト全然違フト云フコトヲ重ネテハ申シタクナイガ、軍需工業動員法ニハ一々目的物ガ限定サレ、本案ハ一切之ヲ勅令ニ讓ッテ居ルノデアルカラ、是ハ前例ト爲スニ足ラズ、斯様ニ申シタノデアリマスガ、アナタノ説明ヲ聽カウトハ思ハヌ、マルデ違フ、ソシナコトデ胡麻化サウナドト云フコトハ宜クナイコトデス

ソレカラ政府ハ有事ノ際ノ國家總動員ト云フモノハコンナモノデアルト云フ輪郭大綱ヲ國民ニ示シテ、國民ヲシテ此國家總動員ナルモノヲ認識セシメテ、陸軍大臣ハ豫メ之ニ對シテ覺悟ヲセシメル、之ニ備ヘシメル爲メヤッテ居ルノダ、其必要ガアルト仰シヤル、是ハ總理大臣ノ今日ノ御言葉モ其通りデアリマス、是ハ實ハ理論上ハ政府ノ答辯ハ立チマセヌ、何故カ、國民ハ有事

ノ際、戰時ノ際ニ於テ總動員ノアルト云フコトハ、本法ヲ制定セズトモ、從來ノ法律、軍需工業動員法其他ノ戰時法律ニ依ッテ動員ト云フコトハ知ッテ居リマス、輪郭大綱ハ知ッテ居ル、本案ヲ見タ所ガ其徵發サレルモノ、徵發ノ目的ニ關シテハ一切ノ規定ヲ爲サズ、何一ツ示サズシテ、之ヲ將來ノ勅令ニ讓ッテ居ルノデアルカラ、何ヲ認識スルノカ、何ノ覺悟ヲスルノカ、中味ガナイカラ覺悟モ認識モシヨウガナイ、從來ノ動員法ニ依ッテ大體ノ覺悟ト認識ハシテ居ル、又眞ニ國民ヲシテ諒解セシメ、認識ヲサセヨウト云フノナラバ、政府ノ目的ガソコニアルノナラバ、——政府ハ能ク國民精神總動員ナドト云フノデ、各ナ金ナガラモ古手ノ役人ヲ使ッテヤッテ居ル、此政府ノ宣傳トシテハ、國民ニ向ッテ憲法第三十一條ヲ讀メ、憲法第二章ノ十一箇條ヲ精讀シロ、之ヲ國民ニ知ラセバ、ソレデ結構、何故ナラバ憲法第二章ハ日本臣民ノ權利、公權デアラウガ、私權デアラウガ、自由デアラウガ、財産デアラウガ、總テノ國民ノ享有シ得ル權利ノ淵源ヲ定メテ、而シテ第三十一條ヲ以テ、戰時又ハ國家事變ノ際ニ於テ、國家存立ノ上ニ於テ必要アリトシテ、大權ノ發動スル場合ニハ、是等ノ自由モ、財産モ、公權モ、

私權モドウ云フ風ニナルカ分ラナイ、國家ノ爲ニハ犧牲トナル覺悟ガ要ルゾト云フコトガ、第三十一條ノ規定ニ依ッテ分ルノデアリマス、而シテ權利自由ノ根源ヲ定メタ憲法第二章及其第二章ノ中ノ第三十一條ヲ精讀シロ、是ダケデ今日ハ生キテ居ルガ、此立法ガ出來テ居ル、愈々戰時ノ時ニ如何ナル變化ヲ受ケテ或ハ消滅スルカモ知レマセヌ、生存ヲ失フヤウニナルカモ知レヌ法律ニ向ッテ、而モ内容空粗ナ法律ニ依ッテ認識覺悟ヲ求ムルヨリ、此憲法第二章、殊ニ權利第三十一條トノ關係ヲ精讀玩味シ、サウシテ 明治天皇陛下ノ此有難キ御趣旨ヲ拜セシメテ置ク、所謂總理大臣ノ仰シヤル大綱ダケデモ知ラセテ置ク、其總動員ニ付テノ知識ヲ涵養スルト云フカ、諒解ヲサセルノニハ、是ガ一番簡單デ宜シイ、コンナ難シイ、而モ中味ハ一切勅令ニ俟ツヤウナ法律デナク、洵ニ萬代不易、正確無比ノ認識ヲ得ルコトガ出來ル、之ヲヤッタ方ガ宜イノデス、誰デモ憲法ヲ精讀シロト云フ方ガ簡單デアッテ不易デ、而モ間違ヒノナイ認識ヲ得ル、間違ヒノナイ國民ノ諒解ヲ得ルノハ此途ガ一番捷徑デアリ、又正確デハナイカ、諒解ヲ得ルナラバコンナ法律ヲヤル必要ハナイ、憲法ヲ精讀スルニ限ル、此點ニ對

シテ國務大臣ノ答辯ヲ求メマス——即席ニ伺ツタノデ、今御答辯ニ御都合ガ悪ケレバ、他ノ機會デモ宜シウゴザイマス

○賀屋國務大臣 只今板野君ノ御尋デゴザイマスガ、憲法第二章ヲ讀ミマシテ、是ガ事變、戰時ノ際ニ停止サレルカモ知レヌト云フヤウナコトヨリモ、斯々ノ事項ニ付テ斯ウ云フコトガアルカモ知レヌト云フコトガ、積極的ニ分リマシタ方ガ認識ヲ得ルニ適當ナノデアリマス

○板野委員 私ハ質問ノ通告ヲ致シテ置キマシタカラ、牽聯質問トシテハ此程度デ打切リマス、何レ私ノ順ニ廻ツタ時ニ更ニ御尋ヲ致シマス

○作田委員 一寸今板野君ノ質問ニ對スル御答辯中ニ、政府ノ方デ非常ニ吾々ノ問ヲ履違ヘテ居ル點ガアルト考ヘルノデ、一應念ヲ押シテ置キタイト思ヒマス、大體本會議以來本委員會ノ經過ヲ見マスルト、總動員法ノ必要ト云フコトニ付テ、吾々ハ決シテ反對シテ居ル者デハナイノデアリマス、今朝モ陸軍ノ政府委員カラ御話ガアリマシタガ、鐵道ガ空襲ニ依ッテ破壊セラレテ議會ノ召集ガ不可能デアル、斯様ナ場合ニ是ガ必要デアルト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、サウ云フ場合ガ有ルカ無イカハ、吾々ハ

豫想シマセヌガ、吾々ハ必要ナノハサウ云フ場合デハナイト思フノデス、戰時狀態ニ入ッタ場合ニ、國家ヲ總動員的ニ動カス時ニ、何等カノ法律ガ要ルト云フコトヲ認メテ居ルノデアリマス、サウ云フ簡單ナ或ル事實以外ニ、所謂國家總動員ノ必要ヲ認メテ居ルノデアリマス、今後ハ總動員其モノノ必要ナリヤ否ヤト云フヤウナ御説明ハ煩シタクナイノデアリマス、是ガ第一點デアリマス

第二ハ、青木次長ノ御説明中ニ、最近數年間——詳シク言ヘバ昭和七年齋藤內閣當時ニ於ケル爲替管理法以來ノ非常立法デアリマスガ、今御舉ゲニナツタノモ其一ツデアリマス、斯ウ云フ委任立法ノ際ニ憲法論ヲ爲サズシテ、今日憲法論ヲ爲スノハ怪シカラスト云ツタヤウナ御話デアリマスガ、是ハ根本ニ於テアナタ方ガ、吾々ノ意見ヲ認識シテ居ラスノデアリマス、私一個ノ見解ヲ以テ致シマスレバ、時代ガ斯ウ云フ風ニ錯綜シテ來ル、國際情勢ガ緊迫シテ來ル折ニ、今日マデ何十年、若クハ何百年カ掛ッテ發達致シマシタ今日ノ議會制度ノ運用ヲ以テシテハ、サウ云フ緊急ノ場合ニ應ゼラレナイト云フ場面ガ多ク生ズルコトヲ、吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ意味ニ於テ、是ハ獨リ日本ノ行政タケデハナイ、世

界的ニ立法府カラ或ル程度ノ權限ヲ行政府ガ委任ヲ受ケルト云フコトハ、吾々ハ能ク知ツテ居ルノデアリマス、サウ云フ情勢ノ下ニ立法セラレル所ノ此爲替管理法以來ノ、所謂非常立法ト云フモノヲ容認シテ來テ居ル、是ガ相當ノ範圍ニ於テ行政ヲ行政官ニ一任スルケレドモ、相當ノ範圍ニ於テ又立法事項トシテ規定シテ居ルノデアリマス、其立法事項トシテ規定シテ居ル上ニ、尙ホ從來ヨリ異ツタル廣イ範圍ニ於ケル委任命令ト云フモノヲヤツテ居ルノガ、今日マデノ行政デアアル、然ルニ本法案ハ當然立法シ得ベキ事項マデモ、勅令ニ讓ツテ居ルト云フコトガ一點ソレカラ本會議以來屢、議論サレテ居リマスルケレドモ、包括的ニ一切ヲ舉ゲテ行政府ニ一任スルト云フコトガ一點、此二點ガ問題ナノデアリマス、憲法第三十一條ノ議論ハ姑ク別ト致シマシテ、如何ニ委任命令トシテ本法案ノ立前ヲ容認スルト致シマシテモ、此法律ノ中ニ織込ムベキ尙ホ多クノ部分ガアルノデハナイカ、例ヘバ今日御廻シニナリマシタ國家總動員法案施行要綱中ニ於キマシテモ、第四條關係ニ於テ、第二ノ年齡ニ依ッテ限定スルトカ、或ハ徵用ヲ免除スル規定トカ、或ハ相當ノ給與ヲ爲シ得ル、斯ウ云フヤウナコトハ先刻カ

ラ言ハレル國際情勢、若クハ國內事情ノ千變萬化ト云フコトニ何等影響ハナイ、斷ジテ影響ノナイコトデス、是ハ第四條關係デアリマスケレドモ、其他逐條的ニ論ジマスナラバ、悉ク斯ウ云フ風ニ千變萬化デハナイ、確固不拔デス、凡ソ人間ノ社會ガアル限り、必ズ附イテ廻ルガ如キ幾多ノ事項ガアルノニ拘ラズ、一切ヲ舉ゲテ勅令ニ委任スル所ニ、何ガ出ルカ分ラヌト云フ國民ノ不安ガアル、吾々ハ之ヲ論議シテ居ル、デアリマスカラ私ハ今論議ハ致シマセヌガ、國家總動員法ガ要ルカ要ラスト云フコトニ付テハ、誰カラモモウ御説明ハ煩ハシタクナイ、ソレハ時間ノ空費デアリマス、同時ニ此憲法論、乃至ハ法案ノ立方ト云フコトニ付テハ、論點ガハッキリシナイ點ガアル、之ヲ一ツハッキリ頭ニ入レテカラ御答辯ナサラナイト、今ノヤウニ非常立法ヲ容認シテ置キナガラ、之ノ憲法論ヲスルト云フガ如キ、全然異ツタル見地ニ立脚シテノ御答辯デハ、幾ラヤツテモ質問應答ハ切りガナイノデアリマス、之ヲハッキリ頭ニ入レテ今後ハ御答辯ヲ煩シタイ、之ニ付テ今青木サシノ御答辯ガアレバ承ッテ置キマス、頭ヲ入替ヘテ御答辯願ヒマス

○青木政府委員 御趣旨ハ能ク分リマシタ、

先程私が先例ノコトヲ申シマシタノハ、委任立法ノ先例ノ可否ニ付テデアリマセヌ、御質問ノ御趣旨ノ如ク、憲法第三十一條ガアレバ、一切ノ戰時對策ハ之ニ依ッテ爲スベシト云フ結論ニナルノデアリマシテ、若シサウデアレバ、今マデノ、殊ニ最近デハ昨年ノ臨時議會ニ於ケル立法ノ如キハ、其趣旨ニ違フデハナイカト云フコトヲ申上ゲタノデアリマシテ、一般的ニ委任立法ノ先例ヲ申上ゲタノデハナイノデアリマス

次ニ立法シ得ル事項マデモ、強ヒテ勅令ニ讓ッテ居ルノハイケナイト云フ御趣旨ハ能ク分リマシタ、其例トシテ本日御配リ致シマシタ第四條關係ニ付テ御引例ニナリマシタガ、例ヘバ年齡ニ依ッテ限定スル、或ハ徵用ヲ免除シ得ル場合ヲ規定スルト云フコトヲ御示シテ居リマスガ、其例ニ付テ簡單ニ申上ゲマス、此徵用ノ規定ノ如キモ、初メカラ出來ルダケ廣クヤルコトハ宜シクナイ、成ベクハ任意ノ契約、其他デ以テ間ニ合ハセルノガ本旨デアリマシテ、ソレデ間ニ合ハナイ場合ニ本法ヲ發動スルノデアリマスガ、其場合ニ於キマシテモ、例ヘバ年齡ニ付テ見マスレバ、何歳カラ何歳マデ徵用シタガ宜シイカト云フコトハ、是ハ其時ノ實情ニ依ッテ、最小限度ニ規定シタイト

云フ趣旨デアリマス、若シ其事態ガ進ミマスレバ、其年齡モ擴張シテ行カネバナラヌト思ヒマスガ、若シ之ヲ法律ニ初カラ書クト致シマスレバ、モウ最悪ノ場合ヲ豫定シテ、最モ廣ク書イテ置カナケレバ法ノ目的ヲ達成シナイ、併シソレハ却テ不安モ與ヘルシ、宜クナイカラ、寧ロ其時々ノ必要ニ應ジテ、適當ナ年齡ヲ定メル方ガ宜シイト云フ意味デ、勅令ニ讓ッテアル趣旨デアリマス

○作田委員 今私ハ關聯質問デアリマスカラ、是以上議論致シマセヌガ、先刻ノ御答辯中平時立法ト戰時立法トヲゴツチャニシテ居ルヤウナ、マダ頭ニ錯覺ガアル、モウ少シ御研究ヲ煩ハシタイノデアリマス、今ノ第四條關係ノ御答辯ハ詭辯デアリマス、斯ウ云フモノハ通りハシナイ、是ハ他日又議論致シマスカラ、此程度デ終ッテ置キマス

○小川委員長 ソレデハ午前中ニ於ケル質問應答ニ關聯スル質問ハ、此程度デ打切りマス、櫻井君ノ留保セラレタ質問ヲ此際許シマス——櫻井君

○櫻井委員 大藏大臣ハ四時ニ豫算委員會ニ御出デニナル御豫定ノヤウデアリマスカラ、大藏大臣ニ關スル質疑ハ極ク簡單ニ致

シマス、本案ハ形ノ上カラノミ豫想ヲ致シマシテモ、相當多數ノ勅令ガ出ルコトト思ヒマス、ソレノミナラズ、千變萬化ノ變化ニ處スル場合ニ當リマシテハ、又ドノ位ノ勅令ガ出ルカモ分ラスノデアリマス、是ガ實情デハナイカト私ハ思フノデス、ソレニ付テ考ヘマス、愈、此内容ガ實施セラレル場合ニ於テハ、洵ニ多額ノ費用ヲ要スルノデハナイカト考ヘラレルノデアリマスガ、此點ニ關スル大藏大臣ノ御見解ヲ伺ヒタイノデアリマス

○賀屋國務大臣 只今ノ御尋デアリマスガ、本案ニ關シテ相當ノ費用ヲ要シマスコトハ、御示シノ通りデアリマス、其時ノ戰爭ノ大小ニ無論依ルノデアリマスガ、各種ノ新シイ行政廳ヲモ作ラナケレバナラヌト云フ場合モアリ、又既存ノ官省ニ人員ヲ増サナケレバナラヌト云フ場合モアリマス、其外尙ホ各條ニアリマス色々政府ガ國民ニ經濟上ノ負擔トナルコトヲ、此法律ニ依リ命ジマシタ場合、補償デアリマスコトカ、其他ノ經費ガ要ルト思ヒマス、或ハ金額デハソレ等ノ後ノ方ガ、最モ多クノ金額ヲ要スルコトト相成ルノデハナイカト思ッテ居リマス

○櫻井委員 左様ニ致シマス、茲ニ私共ガ議ッテ考ヘテ見ナケレバナラヌコトガ生

ジマス、多少樞密院ノ御諮詢ノ問題ニモ及ビマスガ、今拜承スル所ニ依レバ、大藏大臣ハ私ハ財政經濟ノ權化ダト思ッテ居リマシタ所ガ、大變憲法論ニモ御造詣ガ深いヤウニ思ヒマシテ(笑聲)今後續々其點ニモ質問ヲ致シタイト思ヒマスガ、併シ今質問ヲ致シマスノハソレ程ノ所マデハ參ラヌ、私共ガ今マデノ政府ノ御説明ヲ伺ッテ諒解シテ居リマス點ハ、私共ハ何故法律ニ出來ルコトマデモ勅令ニ御譲リニナルノダト、此質問ニ對シマシテ、政府ハ出來ルダケ之ヲ勅令ノ範圍ヲ廣クシテ置カナイト、急グ時ニ間ニ合ハナイ、自分等ハ議會ニ之ヲ掛ケルコトノ出來ナイ場合ヲ豫想シテ居ル、ソレカラ又緊急ノ處分ニ依ッテ、樞密院ヘ御諮詢ヲ奏請シテ居ルコトヲ許サナイト云フコトモ承知シテ居ル、ソレ故ニスノ如キ方式ヲ執ルノダト即チ、私共ノ憲法ノ精神ニ背クト云フ議論ニ對シテ、今ノ急グト云フ、樞密院ニスラモ之ニ諮詢スル暇ガナイト云フ議論ヲ以テ對抗サレテ居ル、然ルニ拘ラズ、今ノ大藏大臣ノ御説明ノ如クデアルトスレバ、昨日マデノ國務大臣ノ答辯ニ於キマシテハ、其必要ナル費用ハ議會ノ間ニ合フ場合ニ於テハ議會ニ諮ッテ取ル、ソレカラ其次ハ豫備金デ取ル、併ナガラソレノミデ足リ

ルトハ思ッテ居ラヌゾ、何レ憲法七十條

御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

機關ハ出來ナイノデアリマス、機關ヲ作ル

ノ臣民ノ行爲、不行爲ヲ事變ノ起ツタ時ニ直

ノ財政上ノ緊急處分ニ依ッテ取ルノデア

○賀屋國務大臣 大體費用ノコトハ實際

コトニ決意致シマシテ、其機關ガ非常ニ人

グ様發動スルノデアリマス、樞密院ノ御諮

ト、斯ウ言ハレテ居ル、先ヅ大體今マデ

通ノ場合要ラナイノダト思フ、ソレハ大體

數ガ充足サレマシテ、其機關ノ爲ニ、行政

詢ノ爲ニ時日ヲ費ス前カラ發動致ス必要

御説明デハ、議會ニ掛ケル場合ハ少イノ

今ノ御話ノ補償其他ノ方ハ、臨時議會ヲ召

官廳ノ爲ニ金ガ要ルヤウニナリマスノハ、

アルモノガ極メテ多イノデアリマス、經費

思ヒマス、其次ニ豫備金ノコトニ付テ考

集シテ、豫算ノ協賛ヲ經テ間ニ合ヒマス

ドウシテモ早クテモ一週間、十日、二週

ノ關係ト仕事ノ發動ノ關係ハ、大體左様ニ

テ見ルト、是亦限リガアル、今大藏大臣

デ、金錢ノ方ハ十分間ニ合ヒマス、唯此法

間ト掛カッテ參リマス、隨ヒマシテ政府ハ

相成ルト思ヒマス

補償ノ點マデ考ヘルト、非常ニ多額ノ金

律ガ出來ルカラ、左様ナ補償ヲ致スヤウ

リ申上ゲラレマセヌガ、其時ノ色々ナ事情

○櫻井委員 政府ハ能ク御打合せニナッテ

要ルト言ハレル、サウスルト事ノ實際ハ

事態ヲ發生セシメルコトハ出來ル、民間

其他デハ、或ハ二週間モアレバ臨時議會

ヲ仰シヤッテ居ルノデアリマス、ソレカラ

案ガ實施サレル場合ハ、今モ憲法七十條

會社ニ斯ウ云フコトヲシテ貫ヒタイト云

召集ハ間ニ合フノデハナイカト思ヒマス、

今ノ御説明デ議會ガ二週間デ開ケルト云

依ル所ノ財政上ノ緊急處分、今度モ亦憲

コトハ出來ル、隨テ法律ガアレバ事變

是ハ私ハッキリ責任ヲ以テ申上ゲラレマ

ヤウナコトモ豫想シテ居ラレルト致シマ

七十條ニ依ル緊急處分、其方ノ分量ガ最

起リマシタ即日ニ發動スルコトガ出來

ス、數週間ト云フヤウナ間左様ナ機關ガ

レバ、今マデ緊急ノ場合ノミニ此法案ノ

多クナルノデハナイカト思フ、サウシマ

ノ協賛ヲ得テ十分間ニ合フト思フ、然ラ

デ間ニ合ヒマス、例ヘバ一箇年千二百萬

ヲ執ツタト云フ理由ニセラレテ參ツコト

急グ場合ト云フコトヲ根柢トシテ立テ

此法律ニ依リ、色々政府ガ臣民ノ行爲

ヲ要シマスマヤウナ大ナル機關ニ致シ

ナガラサウ云フコトハ大分細カイ點ニ入

タル所ノ此案ガ、少クトモ樞密院ノ御

爲ニ對シテ、義務ヲ課スルコトニ付テ

モ、半箇月ニ致シマスレバ僅カ五十萬

マスシ、大藏大臣御急ギニナッテ居ル

ダケハ、ドウシテモ仰ガナケレバナラ

要ルカト申シマス、是ハ殆ド要リマセ

而モ機關設立ノ當初ハ極メテ少額ノ經

アリマスカラ、私ノ大藏大臣ニ對スル

云フコトニナッテ、今マデノ政府ノ説

何トナレバ之ニ依ッテ如何ナルコト

爲ノ各種ノ機關ノ經費ト致シマシテハ、

ハ、此程度デ本日ハ打切ッテ置キマ

居ラレル根柢ハ全然崩レテシマフ、崩

カト云フコトハ、平生チャント研究シ

法七十條ニ俟ツコトハ殆ドナイノデハ

ノ第十一條ノ内容ハ、大部分資金調整

ナラバ此案ニ付テモ改メテ考ヘ直サ

必要ナ處置ヲ執ル、是ハ既存ノ人員

ニ巨額ナル軍需品ノ調達ヲスル、隨

テ民間ノ消費制限、或ハ委任命令ガ

バナラヌト思フ、私ガ此點ヲ昨日國

ギャルノデアリマス、併ナガラ例ヘバ

タ時トカ、色々ノコトモアリマセウ

ラ御採リニナツタモノカト思ヒマス、

今度ノ此案ヲ、ナゼ樞密院ニ御諮詢

ニ巨額ナル軍需品ノ調達ヲスル、隨

會ノ召集デ間ニ合フト思フノデアリ

ク加ハツタ點ヲ御説明ヲ願ヒタイ

ナイノダト私ガ聽イテ居ルヤウニ御

テ民間ノ消費制限、或ハ委任命令ガ

外ニ新シイ部分モ加ハッテ居ラウト

スガ、果シテサウデアリマスレバ、

ナッテ答辯要ラ得ズ、私ハ洵ニ困

トナルト、機關ヲ作ラネバナラヌ、

此法律其モノハ只今申上ゲマスマ

リマスカラ、此點ニ關スル御見解ヲ

リマスガ、幸ニ大藏大臣ハ憲法論ハ

作ルニシテモ、即日數千萬圓ヲ使

此法律其モノハ只今申上ゲマスマ

リマスカラ、此點ニ關スル御見解ヲ

○吉野國務大臣 私ニ對スル御尋デゴザイ
マスガ、新シク加ハリマシタ部分ハ、便宜
政府委員ノ方カラ御話申上ゲマス

○櫻井委員 ソレデハ一ツ私カラ事項ヲ指
摘シテ御尋致シマス、慥カ此利益金處分ノ
點ハ新シク加ハッタモノデ、資金調整法ニハ
無カッタ思ヒマスガ、其點如何デスカ

○吉野國務大臣 其様デゴザイマス

○櫻井委員 單ニ利益金處分ト云フコトダ
ケラ、法律範圍トシテ置キマシテ、實際ノ
利益金ノ處分ガ命令一本デ出來ルト云フノ
デハ、此點ハ餘程重大ナ點デアラウト思フ
ノデアリマス、即チ利益金ノ處分率ヲ如何
様ニモ出來ル、之ヲ二分トスルコトモ出來
ルダラウシ、三分トスルコトモ出來ル、或
ハ零ノ命令ヲナサルコトモ出來ルカモ知レ
マセヌ、故ニ英吉利ナドノ何カ立法例ニ見
エタト思ヒマスガ、此點ハ過去ノ實ヲ越ユ
ル超過ト云フコトデ、限界ノ標準ヲ立テテ
居ッタヤウナモノヲ、一寸見エタヤウニ思ヒ
マスガ、是ハ此儘デアリマシテハ、若シ之
ヲ扱フ人ノ考方如何ニ依リマシテハ、現經
濟機構ヲ根柢カラ變質セシムルコトガ出來
ル、我國ニハ共產主義ノ考ヲ持ッタ關係ガ出
ル筈ハ絶對ニナイノデアリマスカラ、其場
合ヲ豫想スル譯デアリマセヌガ、併ナガラ

ヤラウト思ヘバ是ダケデ現經濟機構ノ根柢
ト云フモノヲ、スッカリ質的ニ變化アラシム
ルコトガ出來ルト思フ、或ハ是ハ勅令デ何
トカ其限界ヲ區別スルト、斯ウ言ハレルカ
モ知レマセヌケレドモ、私共ガ法律ニ對ス
ル考ト勅令ニ對スル考ノ違ヒマスコトハ申
上ゲル迄モナイ、法律ニ依ッテ初メテ國民ガ
安全ナル保障ノ感ジヲ懷クノデアリマス、
茲ニ問題ノ重點ガアル、ソレ故此點ハ是非
トモ法律ニ於テ、前申上ゲタヤウナ危險ヲ
防グナラバ、何トカ御考ニナラネバナラス
點デアッタラウト思フ、之ニ對スル商工大臣
ノ御見解ヲ御尋致シマス

○吉野國務大臣 御尤ノ御尋デアリマシテ、
此十一條ハ資金關係ノ規定デアリマシテ、
私ノ所管外ノ分モアラウト思ヒマスガ、今
御尋ニナリマシタ會社ノ利益ノ處分、此規
定此條文ト云フモノヲ十一條ノ關係ニ於キ
マシテ、商工省所管ノ事務上ニ於テ、ドウ
云フコトヲ想像シテ居ルカト申シマスレバ、
是ハ例ヘバ歐羅巴戰爭中ニモアリマシタシ、
又今日デモ幾部分サウ云フ嫌ノアル場合モ
アリマスガ、軍需「インフレ」ト申シマスガ、
非常ニ澤山ノ利益ヲ收メタル會社ガ、傍
若無人ノ配當ヲスル、十割モ配當ヲスルト
云フヤウナコトハ、社會ノ不安ト云フモノ

ヲ或ハ激成シタリ、或ハ之ヲ醸成シタリス
ル虞ガアルト云フヤウナ場合ニハ、國家總
動員上ノ必要ノ見地カラ、其利益金ノ處分
ト云フモノヲ、詰リ今ヤッテ居ル配當ヲ下ゲ
ロト言フヤウナコトハ豫想シテ居リマセヌ
ケレドモ、ソレ以上ニ高率ナ無謀ナ配當ヲ
シナイト云フコトヲ豫想シテ居リマス、又
利益ガ非常ニ上リマシタ場合ニモ社外ニ流
出シナイデ、其金ヲ社内ニ積立テテ置キマ
シテ、サウシテ事業ノ擴張ト云フモノヲヤ
ラセヨウ、是ハ外ノ種目ニモアリマスガ、
其場合ニ損失ガアレバ勿論國家ニ於テ損失
ヲ補償致シマスガ、利益ノ一部分ト云フモ
ノヲ以テ、擴張資金ニ充テサセルト云フヤ
ウナ必要モアラウト思ヒマス、サウ云フコ
トノ豫想サレマス場合ニハ、前提トシテ先
ヅ以テ此配當ト云フモノヲ現在ヤッテ居ル以
上ニ、軍需工業デアアルカラ儲カルト言フテ
多ク配當ヲスルコトハ宜シクナイト云フコ
トヲ豫想シテ居ルノデアリマシテ、此條文
ハ會社ノ利益金ノ處分ニ對シテハ、何デモ
爲スコトガ出來ルト云フノデハナクシテ、
十一條ニモ書イテアリマス通り、國家總動
員上必要ナル見地ニ於テノミ發動ヲスル、
斯ウ云フ趣旨デアリマス、御承知ノ通り私
ノ所管ノ商工省關係ニ於キマシテモ、二三

斯ウ云フヤウナ利益金ノ處分ニ關スル規定
ノ立法ヲ、從來モ致シテ居リマシテ、從來
モサウ云フ趣旨デ運用ヲ致シテ居ルノデア
リマス

○櫻井委員 アナタハ商工大臣デアアルケレ
ドモ、是カラ後ハ國務大臣トシテ御答ヲ願
ヒタイト思ヒマス、所管ガ違ッテ居リマシテ
モ大藏大臣ノ分モドウゾ……今ノ御説明ノ
ヤウデアリマスレバ、何等ノ不安モナイ、
ソレハ當然ノコトデアアル、然ルニ、サウ云
フ内容デアアルニ拘ラズ、法律デ御示ニナラ
ナイカラ色々ナ騷動ガ起ッテ來ル、是ハドウ
シテモヤハリ法律デ御示ニナッテ當然デア
ル、サウ云フ點ハ——殊ニ經濟ニ關係スル
コトデアリマスカラ、非常ナ敏感ナ衝動ノ
場合ヲ考ヘナケレバナラナイ、是ハ明ニ法
律ニ明示サレルコトガ適當デアルト考ヘマ
スガ、其點如何デスカ

○吉野國務大臣 ソレハ御話ノ通り、明文
ヲ以テ書クト云フコトモ、一ツノ方法カト
思ヒマス、先程申上ゲマシタ通りニ、商工
省關係ニ於キマシテモ、既ニサウ云フヤウ
ナ立法ノ體裁ヲ取ッテ居ルノデアリマスカラ、
是デ以テ宜イダラウ、斯ウ考ヘタダケノコ
トデアリマス

○櫻井委員 ソレニ似通ッタ點ハ澤山アルノ

デアリマス、ソレハ又後ニ一括シテ論議ヲシナケレバナラヌ場合ガ出來ヤウカト思ヒマスカラ、其點ハ此程度ニ止メマス

次ニ此法案ノ目的ノ半面ハ、軍需ヲ充足シ、且ツ民需ノ必要ニ應ジ國民生活ヲ確保スル、斯ウ云フコトデアリマスカラ、此部面ニ屬スル分野ト云フモノハ、非常ナ大キイコトデアルト思ヒマス、隨テ之ヲ完全ニ遂行シマスノニハ、相當ハッキリシタ體系ヲ打立テナケレバ出來ナイコトデハナイカ、所謂經濟體系ヲ打立テナケレバ出來ナイデハナイカト私ハ思フデアリマスガ、其體系ヲ打立テ、而モ其強イ統制運用ヲ致シマス場合ニ於テ、統制セラレル所ノ所謂統制體系——ソレモ今日ノ經濟組織ノヤウナ、バラ／＼ノ内容ダケデ宜シイノカ、ドウカ、或ハ「カルテル」ノヤウナ、何カサウ云フ聯合體ヲ組織セシメテ、サウシテ之ヲ被統制體トスル、左様ナ整備ヲモ併セテ考ヘテ置ク必要ガアルノデハナイカ、私ハ斯ウ考ヘマ스가、其點ニ關スル政府ノ御考ハドウ云フコトニナッテ居リマスカ、御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○吉野國務大臣 私モ御話ノ通り考ヘテ居リマス、總テ平時經濟ガ戰時經濟ニナリマシタ時ニハ、餘程全般ニ互ツタ體制ヲ整ヘナ

ケレバナラヌノデアリマス、ソレハ必シモ此法律ダケデ以テ能クスル所デナイノデアリマス、不斷ノ所謂商工省ノ行政ニ依リマシテ、國防ノ見地カラ國防經濟ノ確立ト云フコトニ向ッテヤラネバナラストハ、始終考ヘテ居リマス、此經濟活動ノ自由ノ制限ニ關スル色々ノ規定ハ、要スルニ不斷準備致シテ居リマシタモノヲ、平時經濟ヲ戰時經濟ノ方ニ「カーブ」ヲ切ル時、其經過的ノ場合色々面倒ナ苦痛ヲ國民全般ニ御掛ケシテハイケナイカラ、「カーブ」ヲ切ル必要上經濟活動ノ自由ト云フモノニ對シマシテ、第八條以下色々規定ヲ以テ制限ラシテ居ル、斯ウ云フ趣旨ニ外ナラナイノデアリマス、全體ノコトニ付テ、今「カルテル」ノ御話モゴザイマシタガ、其爲ニハ勿論「カルテル」モ必要ダト思ヒマス、ソレデゴザイマスカラ、此規定ニモ慥カ組合ノ統制ト云フ文字ガ使ッテアッタト思ヒマスガ、「カルテル」ノ強制ヲモ命ジ得ルト云フヤウナコトヲ豫想致シテ居リマス

○櫻井委員 今ノ質問ニ對シテ一寸誤解ガアツタヤウニ思ヒマスガ、私ハ其場合ニ於ケル體系ヲドウ云フ風ニ御考ニナルカ、其經濟體系ノ骨組ヲ一ツ御示願ヒタイ、サウシテ其骨組ノ内容トシテ、バラ／＼ノ個人デ

ナク、「カルテル」ナドノ場合モ御想像ニナッテ居リマスガ、ソコニ相當ノ整備ガナケレバ、完全ナル目的ヲ達シ得ナイノデハナイカト考ヘマシテ、其體系ノ腹案ガアレバ、ソレヲ伺ヒタイト思ッタノデアリマス

○吉野國務大臣 御言葉ヲ或ハモウ少シ伺ヒマセスト、私ノ答辯ガ適切デナイノカモ存ジマセヌガ、要スルニ戰爭ナリ、或ハ事變ナリト云フモノノ規模ノ如何ニ依リマシテ、平和ノ經濟カラ戰時經濟ノ「カーブ」ノ切り方ハ非常ニ違フ譯デアリマス、其場合ニ大體ハ民間ノ事業者ト云フモノガ、滅私奉公ノ精神ニ依ッテ國家ノ政策ニ協力シテ行ク、斯ウ云フ立前デ行キタイト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ、總動員物資ト云フモノニ付キマシテ、或ハ生産ナリ、或ハ販賣ナリ、或ハ配給ナリ、色々ナコトニ付テヤリマス場合ニハ、成ベク當業者ノ組合團體ト云フモノニ依ッテ、國家ノ政策ヲ行ハシムルト云フコトニ致シタイト思ヒマス、唯其場合ニ度々色々機會ニ申上ゲタ通り、當業者ノ利害關係ト云フモノガ、非常ニ複雑デ、對立致シテ居リマスカラ、當業者ノ自治的ノ統制ノミニ依ッテ、所期ノ效果ヲ期スルト云フコトハ、是ハ困難デアリマスカラ、公平ナル第三者ノ立場トシテ、

國家ガ之ニ始終介入シテ舵ヲ執ッテ行ク、斯ウ云フ立前デヤッテ參リタイト考ヘテ居リマス、而シテモノニ依リマシテハ、國家自身ガヤル方ガ宜シイト云フモノモ稀ニハアラウト思ヒマス、サウ云フ場合ニハソレ／＼此規定ニ依リマシテ、例ヘバ軍需上極メテ必要ナ工業權ト云フモノニ付キマシテハ、國家ガ收用シテ國營デヤルト云フコトモ、是ハ稀ニハアラウト思ヒマスガ、大體ト致シマシテハ、民間當業者ト云フモノノ團體、ソレニ依ッテ體系ヲ整ヘテ參リタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○櫻井委員 私ハ、戰時特殊ノ場合デアリマスカラ、強力ナル統制ヲ必要トスルト云フコトヲ前提ニ考ヘテ居リマス、サウシテ其結果ト致シマシテ、跛行性ノナイ統制體系デナケレバナラストスウ思フ、現在デスラ經濟體系ガ跛行性デ、軍需工業等デ非常ニ盛ンナ方面ハ景氣ガ好ク、サウデナイ平和産業ハ非常ニ困ル、サウシテ金ガ片廻リデアル、實ニ好景氣、不景氣ガアッテ困ル、斯ウ云フ所ヲ統制シテ行ク、殊ニ強力ナル統制ヲ致シマス場合ハ體系ヲ整ヘテ、跛行性ノ起ラナイヤウニシナケレバ、所謂軍需ノ充足ニ應ジ、民需品ヲ確保シ、國民生活ヲ確保スルト云フコトハ出來ナイ、或ハソレ

迄、内容ノ研究マデニ至ッテ居ラスノカモ知レナイト思ヒマスガ、ヤハリ本案ヲ考ヘル上ニ於キマシテハ、是ハ其内容トシテソコ迄モ私共ハ御聽キシテ置カナケレバナラヌ點ダト思ヒマスカラ、尙ホ別ナ機會ニ於テ又適當ナ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス、戰時ノ場合ト云フコトニ限ッテ御答ヲ願ヒタイ

モ、先ヅ殆ドアリ得ナイト信用シテ、寧ロ國民精神ノ上カラ見マシテ、信用シテ掛カル方ガ宜シイト思フ、オ前等犯スト直グ此罰則デヤルゾト云ッタヤウナ態度デ臨ムヨリハ、寧ロ少々ナ微罪ガアルニシテモ、國民ヲ信用シテ掛ルト云フ態度ガ私ハ望マシイト思フ、然ルニ先般モ申上ゲタノデアリマスガ、本法案ハ五十條カラ出來テ居ッテ、其實體ハ三十條デアッテ、アトノ二十條足ラズト云フモノハ皆罰則デアアル、他ノ方ハ皆内容ハ勅令ニ御委任ニナッテ、風呂敷ニ包ンダ儘之ヲ行政權ニ渡セト、斯ウ要求サレテ居ルノデアリマスガ、罰則ダケハ極メテ明ニ嚴然タル態様ニ掲ゲラレテ居ルノデアリマス、是ハ性質上斯ウナルノカモ知レマセヌガ、ソレガ爲一方ニ於テハ案ノ實體ガナイヤウニ思ハレルニ不拘、唯光ッテ見エルノハ罰則ダケデアアル、罰則ノ初リニハ第三十二條ニ於キマシテ「三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金」其次ニハ「三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金」ソレカラ下ッテ來マシテ「二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金」ソレカラ三千圓ノ罰金ト云フ風ニ段々下ッテ來テ居ル、私ハ斯ノ如キ嚴罰主義ヲ採ラレタト云フコトニ對シテハ、大イニ考ヘナケレバナラスト思フガ、姑ク其問題ヲ別ニシマシ

○吉野國務大臣 御話ノ通りヤリタイト思ッテ居リマス

テモ、實際上之ヲ考ヘテ參リマスルト、第三十三條ノ第三項ニ於テ「第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者」輸出ヲスル場合ヲ想像致シテ見マスルト、是ハ持ッテ居ル物ヲ輸出サセルノデアリマセウカラ、命令ヲサレ、バ命令通りニヤラナケレバナラス、輸入ヲ爲サザル者」ト云フノハ、是ハドウ云フコトデスカ、輸入シヨウト思ッテモ輸入ガ出來ナカッタラドウスルノカ、其命ゼラレタ人間ガ輸入スル能力ガナカッタラドウスル、誤ッテ官吏ガ能力アリト認メテ命令シタガ、輸入ノ能力ガナカッタ其場合ニ、三年以下ノ懲役ニ處シ五千圓以下ノ罰金ニ處スル、是ハ餘リニ極端デハアリマスマイカ、ソレカラ第三十七條ノ第三項ニ「第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者」斯ウアリマス、是ハ戰時ノ目的ノ爲ニト云フヨリ、寧ロ平時ノ場合カト思ヒマス、豫メ前以テ研究ヲヤラシヨウト云フコトデアラウ、又一方ニハ何カ其助成規定モアッタヤウデアアル、ソレハ結構ダガ擬テ試験ヲシロ、研究セヨト云ハレルガ結果ガ現レヌ場合ドウナル、研究スルト言フケレドモ、研究シテモ頭ニ好イ考ガ浮ンデ來ナイコトガ多イノデアリマス、私共多少研究スル者ヲ使ッテ居リマスガ、オ前ハ

○櫻井委員 ソレカラ私ハ此罰則ニ關スル點ニ付テ、商工大臣ニ伺ヒタイト思フノデアリマス、是ハ罰則デアアルカラ司法大臣ニ御伺スルノガ普通ノヤウニ考ヘラレル、併シ司法大臣ハドチラカト云ヘバ、成ベク罰則ノ重イ方ガ都合ガ好イ、斯ウ云フ風ナ御答辯ガアルヤウナ氣持ガ致シマスカラ、私共ハ事ノ實際ニ基イテ伺ヒタイ、斯ウ思ッテ居リマスカラハ寧ロ商工大臣ニ伺ッタ方ガ適當ト思ヒマス、戰時ニ當ッテ我が國民ガ國家ノ運命ヲ賭シテ闘フ場合、法ニ背イテドウシヨウト云フヤウナコトハ先ヅ無イコトデアアル——絶無トハ言ヘナイニシテ

ス、實際ニ於テハ考ヘテ參リマスルト、第三十三條ノ第三項ニ於テ「第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者」輸出ヲスル場合ヲ想像致シテ見マスルト、是ハ持ッテ居ル物ヲ輸出サセルノデアリマセウカラ、命令ヲサレ、バ命令通りニヤラナケレバナラス、輸入ヲ爲サザル者」ト云フノハ、是ハドウ云フコトデスカ、輸入シヨウト思ッテモ輸入ガ出來ナカッタラドウスルノカ、其命ゼラレタ人間ガ輸入スル能力ガナカッタラドウスル、誤ッテ官吏ガ能力アリト認メテ命令シタガ、輸入ノ能力ガナカッタ其場合ニ、三年以下ノ懲役ニ處シ五千圓以下ノ罰金ニ處スル、是ハ餘リニ極端デハアリマスマイカ、ソレカラ第三十七條ノ第三項ニ「第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者」斯ウアリマス、是ハ戰時ノ目的ノ爲ニト云フヨリ、寧ロ平時ノ場合カト思ヒマス、豫メ前以テ研究ヲヤラシヨウト云フコトデアラウ、又一方ニハ何カ其助成規定モアッタヤウデアアル、ソレハ結構ダガ擬テ試験ヲシロ、研究セヨト云ハレルガ結果ガ現レヌ場合ドウナル、研究スルト言フケレドモ、研究シテモ頭ニ好イ考ガ浮ンデ來ナイコトガ多イノデアリマス、私共多少研究スル者ヲ使ッテ居リマスガ、オ前ハ

斯ウ云フコトヲ研究シロト言ッテ題目ヲ授ケテ研究サセル、半年モ一年モアレハ遊ンデ居ルノデヤナイカト思ハレテ何事モ出テ來ナイ場合ガアル、頭ニ毎日毎夜考ヘテ居ルカモ知レマセヌケレドモ、出テ來ナケレバドウニモ仕方ガナイ、此場合此案ノ豫定サレル詳シイ内容ハ私今分リマセヌカラ、ハッキリトシタコトヲ申上ゲルコトハ出來マセヌケレドモ、兎ニ角「試験研究ヲ爲サザル者」ト言フ、命令ヲシテ試験ヲセヨ、研究ヲセヨト言フガ、何事モ實質的ノモノガ出テ來ナイ、ソコデソレヲ扱フ役人ガ、ドウモオ前ハ何物モ出サナイカラ、試験ヲシナイノデヤ、研究ヲシナイノデヤト思ヒ込ンデ、ソコデ直チニ三千圓ノ罰金ヲ科スル、斯ウナル、ドナタガ此法案ヲ御考ヘニナッタノデス、商工大臣ナドモ之ニ與ッテ居ラレル筈ノモノダガ實ニ驚キ入ッタコトデアアル、實際上カラ見レバ由々シキ問題ガコ、ニアルト私ハ思フ、具體的ノ實例ニ付テ御説明ガ願ヘレバ、尙更ニハハッキリ致スト思ヒマスガ、一ツ商工大臣ノ御見解ヲ伺ヒマス

○吉野國務大臣 御尋ノ點御尤デアリマス、私共モ從來經濟ノ立法ニ關シテハ、餘リニ刑罰制裁ト云フモノヲ重クシナイ方ガ宜シイ、假令三十圓ノ罰金デアッテモ、經濟人ト

云フモノハ法規ニ違フコトヲヤツテハイケ
ナイ、斯ウ云フ立前ノ下ニ從來ヤツテ參ッ
ノデアリマスガ、甚ダ遺憾デハゴザイマス
ケレドモ、實際ノ場合ニ何時デモソレデハ
ヤハリ動カナイ、是ハ詳シク申上ゲル迄モ
ナク御承知デアリマス通りニ、經濟人ノ中
ニハヤハリ罰金ヲ出シテモ利益ガアルモノ
ハヤツタ方ガ宜イ、斯ウ云フ實際ノ——是ハ
何モ非難スルトカ何トカ云フコトデハゴザ
イマセスガ——實例ニ非常ニ惱マサレテ居
リマシテ、例ヘバ歐羅巴戰爭中、アノ戰爭
ノ際ニ暴利取締令ト云フ農商務省令ガ施行
サレタ狀況ニ依ッテモ、私が此處申上ゲル
迄モナク、思ヒ半バニ過グルモノガ御アリ
デアラウト思フノデアリマス、サウ云フ見
地カラ近來經濟立法ニ對シマシテハ、私共
ノ方カラ實ハ進ンデ司法省ノ方ニ御願致シ
マシテ、ヤハリ體刑ヲ以テ臨ム、罰金ノ金
額モ成ベク多クヲ以テ臨ム、斯ウ云フヤウ
ナコトヲ實ハ御願ラシテ居ルヤウナ次第デ
ゴザイマシテ、今度ノ場合ニ於キマシテモ、
體刑ナリ或ハ此程度ノ罰金——此刑罰法令
ニ付キマシテハ、司法御當局ニ於テ外ノ法
令トノ鈞合ト云フヤウナコトモ、無論御考
ニナルノデアリマセウガ、斯ウ云フ風ニ決
メタト云フコトハ適切デアルト考ヘテ居リ

マス、ソレカラ一二ノ條項ニ付テノ御尋ガ
アリマシタガ、是ハ要スルニ故意又ハ過失
ガアツテヤツタ場合ニノミ、刑罰ノ法令ヲ適
用スルト云フコトガ、刑罰法令ノ原則デア
リマス、例ヘバ軍事ニ必要ナルモノノ輸入
ヲ命ジタ時ニ、相手ニアツテ相手ガ賣ラスト
カ、或ハ買ヘナカッタト云フ場合ニ、直チニ此
罰則ヲ適用スルノデハアリマセスデ、ソレ
ヲ故意又ハ過失ニ依ッテ、國家總動員ノ必要
上、必要ナル物資ノ輸入ヲ爲シ得ルニ拘ラ
ズ、爲サナカッタ、又試験研究ニ致シマシテ
モ、平常カラ非常ニ大事ナ國防上ノ研究ノ
連絡ヲ執ッテヤラウ、或ハ官或ハ民ト分擔ヲ
シテ、ソレガ綜合ラシテ一ツノ結果ニナル
ト云フヤウナ場合ニ、故意ニ或ハ過失ニ依ッ
テ、其試験研究ヲ爲サズシテ折角ノ目的ヲ
達シナイ、斯ウ云フ場合ニノミ、此刑罰ノ
規定ハ適用スルモノト考ヘテ居リマス

○櫻井委員 犯意ナキ者ヲ罰シナイノハ無
論原則デアラウト思ヒマス、私ハ能ク刑法
ハ分リマセスガ、其程度ノコトハ考ヘテ居
リマス、併ナガラ實際ノ取扱ハドウデア
ルカ、苟クモ國務大臣ノ待遇ヲ受クベキ人デ
スラモ、一度犯意ガアツタト認定サレ、牢獄
ノ辱ヲ受ケルデハアリマセスカ、ソシテ後
ニ犯意ガ無カッタト判定サレ、今度ハ大臣待

遇ヲ蒙ル、斯ル次第デ、事ノ實際ハ私ハ
中々サウ分ラナイト思フ、最初認定ヲスル
人ガドウ云フ認定ヲスルカ豫期出來ナイト
私共ハ考ヘテ居ル、然ルニ平時デアレバマ
ダシモノコト、戰時ニ入ッテ國民精神ノ總動
員ヲショウト云フ場合ニ於テ、デス、司法大
臣ハ此點ヲ能ク御考ヘニナルナラバナラス、
全部國民ヲ信用シテ掛ラウ、少々ノ微罪ガ
アツテモ宜シイ、此位ノ態度ニ出テ戴キタイ
ト私ハ思フ、然ルニ拘ラズ、ソレ等ノ事ノ
實際ニ精通セラレル商工大臣ガ、嚴罰主義
ヲ以テ司法省ニ御願ヒシタアレバ以テノ
外デア、事業界ハ相當商工大臣ヲ信用シ
テ居リマスガ、今日ノ御答辯ハドウモ行過
ギデハナイカ、故意ガアルカナイカ、犯意
ガアルカナイカト云フヤウナコトハ、ドウ
シテ判斷ガ出來マスカ、是ハ中々裁判
ヲヤツテ見ナケレバ分ラヌノデアリマス、ダ
カラ此嚴罰主義ハイカスト私ハ考ヘテ居
ル、是ハ今ノ場合議論ヲ致シテモ致シ方ガ
アリマセスカ、適當ノ機會ニ適當ノ方法
ヲ執ルコトトシテ、今日ノ場合私ハ此點ハ
此程度デ打切ッテ置キマス——私ノ質問ハ
是デ一應終了致シマシタ、若シ之ニ對スル
御答辯ガアレバ……

○吉野國務大臣 私法律ニ餘リ明ルクナイ

ノデ、今ノ答辯ノ中デ甚ダ間違ッタコトヲ申
上ゲマシテ、ドウモ恐入リマシタ、先程故
意、過失ト申上ゲマシタガ、能ク條文ヲ讀
ンデ見マス過失ノコトハゴザイマセスデ
シタ、詰リ過失デヤラナイ場合ハ無論罰シ
ナイ、故意デヤツタ場合ダケ罰スルト云フ規
定デアリマス、御引キニナリマシタ二箇條
ノ條文ハ、サウ云フ風ニナツテ居リマス、ソ
レカラ尙ホ全般ニ對シマシテハ、必シモ是
ガアツタカラト云フテ、直グ之ヲ振廻シテド
ウスルト云フヤウナ考ハ少シモ持ッテ居リ
マセス、此點ハ能ク御諒承願ヒマス

○小川委員長 植原君

○植原委員 私ノ第一ノ質問ハ、此時局ノ
進展如何ニ依ッテ、國際關係上非常ナル事態
ニ到達スル虞ナシトハ思ハレナイ、サウ云
フコトノナイコトヲ希望スルガ、サウ云フ
コトガアルカモ知レナイ、若シ左様ノ場合
ニ逢著シタトスレバ、國民ノ財産、權利、
自由ト云フガ如キモノハ、極度ニ制限セラ
レザルヲ得ヌ場合ガ起ル、ソレ故ニ今日此
總動員法ヲ制定シテ置ク、サウスレバ國
民ハ此法律ニ依リ豫メ其嚮フ所ヲ知ルコト
ガ出來ル、又政府ハ此法律ニ規定サレテア
ル限度ヲ越エナイヤウニ國民ノ生命、財産、
權利、自由ニ對シテ制限ヲ加フルコトガ出

來ルシ、之ニ依ッテ憲法第三十一條ノ非常大權

ノ發動ヲ見ズシテ事ガ濟ムカモ知レナイ、
サウスレバ此立法ノアルコトニ依ッテ、國民
ハ戰時ニ際シヨリ安全デアル、政府又之ニ
依ッテ有事ノ場合ニ思フ存分ノ仕事ガ出來
ル、政府ハ斯ウ考ヘテ此法案ヲ提出サル、

ニ至ツタノデハアリマスマイカ、少クモ是ガ政
府ノ本案提出ニ際シ國民ニ對シテ親切ニ考
ヘラレタ一ツノ理由デハナカラウカ、鹽野
法相ノ本會議ニ於ケル御答辯中ニ於テ、斯
ウ云フ片鱗ヲ窺フコトガ出來ルノデアリマ
ス、又今日總理大臣ノ御答ニナツタ言葉ノ中
ニ、有事ノ場合ニ對シテモ、今日豫メ想定
シテ置クコトモ出來ルノダ、ソレデソレダ
ケノ大綱ヲ法律トシテ示シテ、國民ニ嚮フ
所ヲ考ヘサセテ置イタ方ガ、國民モ安心ス
ルシ、政府ニモ都合ガ好イ、斯ウ云フヤウ
ナ意味ヲ含ンタ御答辯ガアツタ、私ハ承知
致シテ居リマス、此點ハ丁度鹽野法相ノ本
會議ニ於テ御答辯ニナツタ點ト符合スルノ
デアリマスガ、是ガ果シテ政府ノ御考ニナツ
タ本案提出ノ一ツノ理由デアルカドウカ、之
ヲ只今御答ヲ願ッテ置キタイノデアリマス

○鹽野國務大臣 洵ニ御述ニナツタ通りデ
アリマシテ、政府ノ此案ヲ提出スル一ツノ
理由ハ其通りデアリマス

○植原委員 只今私ノ推測シタ通りニ政府

ハ御答ニナリマシタガ、此御考ノ背後ニハ、
少クモ二ツノ觀念ガ潜在シテ居ルト思フ、
其一ハ成ベク非常大權ノ發動ヲ避ケラレル
モノナラ、之ヲ避ケタイト云フ觀念ガ一ツ、
モウ一ツハ之ニ依ッテ非常大權ノ發動ニ
依ッテ行ハルベキコトヲ豫メ想定シテ之ニ
備ヘテ置クト云フ、此二ツノ觀念ガ含マレ
テ居ルコトヲ御否定ナサルコトハ出來マス
マイ、此二ツノ觀念ガ潜在シテ、只今ノヤ
ウナ意味デ政府ガ本案ヲ提出ナサレタト云
フト、玆ニ大權干犯ノコトハハッキリシテ來
ル、ナゼナラバ、第二章ノ國民ノ權利義務
ヲ制限スルノハ、戰時ニ於テ憲法第三十一條
ヨリ外ニナイノデス、是ダケハ極メテ明瞭
デアル、他ニ國民ノ權利義務ヲ制限スルコ
トガ出來ナイヤウニ憲法決ッテ居ル、ソレ
ヲ只今私ガ、鹽野法相ノ御答辯ノ中ノ片鱗
ニ窺ハレ、又今日總理大臣ノ御言葉ノ中ニ
含マレタ意味カラ、サウダラウト推測シテ
御尋シタラバ、其通りダト思フト云フ、サ
ウシテ見ルト、非常大權デ行ハルベキコト
ヲ避ケタイガ爲ニ、豫メ法律ヲ作ッテ置ク、
是ガ憲法第三十一條ノ規定ニ牴觸シナイト
云フ理由ハドウシテ御説明ニナリマスカ、
又非常大權ニ依ッテ行ハルベキコトヲ豫メ

想定シテ、ソレニ備ヘテ置クト云フコト、
是ガ憲法第三十一條ノ規定ノ精神ニ反スル
モノデナイト、何人ガ論理ヲ正シウシテ答
辯スルコトガ出來マセウカ、私ハ玆ニ大權
干犯、憲法ノ大精神ヲ紊ルト云フコトガ極
メテ明瞭ニナッテ居ルト思ヒマス、洵ニ鹽野
法相ノ答辯ニ依ッテ、此コトガハッキリ致シ
マシタ、之ニ對シテ若シ強イテ御答辯ガア
ルナラ伺ッテ置キマス

○鹽野國務大臣 只今植原君ハ、政府ガ本

案ヲ提出致ス理由ノ背面ト申シマスカ裏面
ニ於テ、二ツノ觀念ガアルノデハナイカ、
即チ其一ツハ、成ベク非常大權ヲ避ケヨウ
トスルノデハナイカ、其二ハ、非常大權ノ行
ハルベキ際ノ事項ヲ想定シテ、豫メ之ヲ作ッ
テ置カウトスルノデハナイカ、即チ非常大權
ヲ干犯スルモノデハナイカト云フ、重大ナ
ル考ヲ持ッテ居ルノデハナイカト云フ御尋デ
アリマシタ、是ハ洵ニ極メテ重大ナル御尋デ
アリマスルカラ、ハッキリト申上ゲテ置クノ
デアリマスガ、左様ナ裏面ノ事情ハ毫モナ
イノデアリマス、此法案ノ規定致シマスル
所ハ、憲法ノ條章ニ從ヒマシテ、先ヅ憲法
第二章ニ於キマシテ、所謂立法事項ナルモ
ノハ法律ニ依ッテ之ヲ規定スルコトガ原則
デアル、平時ノ事項モ戰時ノ事項モ、臣民

ノ權利、自由、財産ヲ束縛シ剝奪スルコト

ハ、法律ニ依ルコトガ憲法ノ示ス所デゴザ
イマス、併ナガラ一面憲法ハ第三十一條ニ
於テ、戰時ニ於テハ非常ノ大權ガ發動スル
ニ付テ、法律ガ如何様ナ規定ヲシテ居ラウ
トモ、ソレニハ拘束セラレズ、自由ニ發動
ノ出來ルコトヲ規定シテ居ルノデアリマス、
此關係ハ戰時ニナレバ唯獨リ非常大權ノミ
ガ發動スルモノデアルト御解釋ニナリマス
ルト、ソレハ政府ガ考ヘテ居ル所ト大層違
フノデアリマス、御疑問ノヤウナ疑ノ生ズ
ルノハ、非常大權ノミガ戰時ニ働クト解釋
セラレタコトガ、前提ニナッテ居ルト考ヘル
ノデアリマス、政府ハ決シテ左様ニハ考ヘ
テ居ラナイノデアリマシテ、平時ニ於キマ
シテモ、臣民ノ自由、財産ヲ束縛制限致シマ
スノハ、法律ニ依ルガ正當デアル、此法律
ハ、近代ノ戰爭ハ其戰勝ノ目的ヲ達スル爲
ニハ、國家總動員ト云フコトガ必要デア
ル、其國家總動員ハ、國民生活ノ各般ノ事
項ニ付テ、或ル一定ノ方針ノ下ニ想定サレ
ル準備ガ必要デアル、平時ニ於テ戰時ニ對
スル必要ナル準備ノ項目ヲ定メテ置クト云
フコトガ、極メテ必要ト考ヘラレルカラ、
此法律ヲ作ルベク提案シタ譯デアリマシテ、
是ガ成案トナリマシテモ、決シテ非常大權

ノ權利、自由、財産ヲ束縛シ剝奪スルコト

ハ、法律ニ依ルコトガ憲法ノ示ス所デゴザ
イマス、併ナガラ一面憲法ハ第三十一條ニ
於テ、戰時ニ於テハ非常ノ大權ガ發動スル
ニ付テ、法律ガ如何様ナ規定ヲシテ居ラウ
トモ、ソレニハ拘束セラレズ、自由ニ發動
ノ出來ルコトヲ規定シテ居ルノデアリマス、
此關係ハ戰時ニナレバ唯獨リ非常大權ノミ
ガ發動スルモノデアルト御解釋ニナリマス
ルト、ソレハ政府ガ考ヘテ居ル所ト大層違
フノデアリマス、御疑問ノヤウナ疑ノ生ズ
ルノハ、非常大權ノミガ戰時ニ働クト解釋
セラレタコトガ、前提ニナッテ居ルト考ヘル
ノデアリマス、政府ハ決シテ左様ニハ考ヘ
テ居ラナイノデアリマシテ、平時ニ於キマ
シテモ、臣民ノ自由、財産ヲ束縛制限致シマ
スノハ、法律ニ依ルガ正當デアル、此法律
ハ、近代ノ戰爭ハ其戰勝ノ目的ヲ達スル爲
ニハ、國家總動員ト云フコトガ必要デア
ル、其國家總動員ハ、國民生活ノ各般ノ事
項ニ付テ、或ル一定ノ方針ノ下ニ想定サレ
ル準備ガ必要デアル、平時ニ於テ戰時ニ對
スル必要ナル準備ノ項目ヲ定メテ置クト云
フコトガ、極メテ必要ト考ヘラレルカラ、
此法律ヲ作ルベク提案シタ譯デアリマシテ、
是ガ成案トナリマシテモ、決シテ非常大權

ノ領域ヲ犯スト云フヤウナ考ハ毫モナイノ
デアリマス、非常大權ハ常ニ圓滿無碍ニ存
在スルモノデアリマシテ、此法律ハ何等之
ヲ妨ゲルモノデナイト云フコトハ、憲法ノ
章條ニ明ニ書イテアルノデゴザイマスカ
ラ、此處ノ御解釋ガ政府ノ解釋ト甚ダ違フテ
居ルヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス

○植原委員 只今ノ司法大臣ノ御答辯ニ依
リマスルト、政府ハ故意ニ憲法第三十一條ノ
規定ニ觸ル、ヤウナ考ヲ以テ、此法律ヲ定
メタノデナイト云フ、是ハサウナケレバナ
ラナイ、私ハ故意ニトハ申サナイ、政府ハ
此法律ヲ定メテ置クコトガ、國民ハ豫メ方
向ガ分ツテ宜カラウ、政府ハ之ニ依ッテ速急ニ
何デモ出來ルト云フコトノ考ダラウ、ケレド
モソレヲ深ク突込シテ見ルト、其背後ニハ成
ベク憲法第三十一條ヲ使ヒタクナイノダ、
斯ウ云フ觀念ガ潜在シテ居ルト云フコトハ、
是ハ見逃ガスコトハ出來ナイ、其觀念其モ
ノガ、私共カラ言ヘバ憲法第三十一條ノ規
定ヲ干犯スルモノデアル、ナゼナラバ、臣
民ノ權利義務ニ關スルコトヲ、法律以外デ
制限スルト云フコト、非常ナル場合ニ之ヲ
制限スルト云フコトハ、憲法第二章ノ條章
ニ關スル限リハ、憲法第三十一條ノ規定以
外ニハヤル方法ハアリマセヌ、鹽野法相ノ

只今ノ御説明ハ、今日ノ場合ハ從前ト違ッテ、
戰時ニ於テハ迅速ニ事ヲ運バナケレバナラ
ナイ、國民ノ物の方面モ精神的方面モ、總
テ一時ニ總動員シナケレバナライカラ、
其準備行為ヲシテ置ク爲ダ、斯ウ仰シヤル
ガ、其事ハ今朝程カラ再三再四議論ニナッテ
居ル、此法律ノ二十一條カラ後ノ準備行為
ヲスル爲ノ法律ヲ作ルノナラ、私共何モ文
句ハ言ハヌ、唯一條カラ二十條マデノ規定
ノ大綱デ、其後ガ何ニナルカ分ラナイコト
ヲ定メテ、サウシテソレヲ勅令ト云フ命令
デヤル所ニ、憲法ノ第三十一條ノ精神ニ盛
ラレテ居ル所ト牴觸シ背反スル、是ガイカ
スト云フノデアリマス、成ベク事實ヲハッキ
リスレバ宜シイ、鹽野法相ガ只今ノヤウナ
御説明ヲ幾ラ爲サツテモ、吾々ハ納得スルコ
トハ出來ナイ、是レ以上私ハ議論ヲ致シマ
セヌガ、尙ホ此場合ニ御答ガアルナラバ伺ッ
テ置キタイ、ソレカラ之ニ對シテ關聯質問
ガ御アリナラバ許シテモ宜イ、私ハ其次ノ
質問ニ進ム前ニ差控ヘテ置キマス

○鹽野國務大臣 植原君ノ御考デハ、戰時
ニ於ケル事項ハ、非常大權デナケレバ、處
置シテハ相成ラヌト云フヤウニ承リマスガ、
戰時ニ關スル事項モ、ヤハリ立法事項デア
リマスレバ、平時ニ於テ之ヲ立法スルコト

ハ何等差支ガナイノデアリマシテ、現ニ現
在行レテ居ル軍需工業動員法ヲ見マスルト、
ドノ條文ニモ戰時ニ際シ云々ト云フ規定ヲ
持ッテ居ルノデアリマス、ドノ條文ニモトハ
申シマセヌガ、茲ニ現レテ居リマス八條、
九條、二條、六條、七條ト澤山アリマス
ガ、戰時ニ必要ナル事項ヲ、此國家總動員
ノ爲ニ茲ニ立法ヲシテ置クト云フ趣意ハ、能
ク國民ニ總動員體制ト云フモノヲ知ラセテ
置イテ、サウシテ愈、非常ノ際ニ國民ガ迷フ
コトナク、同じ方向ニ向ッテ働クト云フコ
トノ覺悟ト準備ヲ致シタイノデアリマス、
二十一條以下ノ所謂平時カラノ實際上ノ準
備規定ト云フモノハ、勿論必要デアリマス
ルガ、其先ニ愈、戰時ト云フ場合ニ、ドウナ
ルカト云フ目標モ、平時カラ與ヘテ置クト
云フコトガ、是亦一ツノ大キナル準備デア
リマス、斯様ニ考ヘテ居リマシテ、勿論戰
時ニ於キマシテ大權ノ御發動ニナルコトハ、
御自由デアリマスガ、平時カラ準備ヲ致シ
テ置クコトノ方ガ、ヨリ多ク國家ノ總力ヲ
有効ニ使ヒ得ルト云フコトヲ考ヘマスレバ、
補弼ノ責任ノアル政府ト致シマシテハ、當
然平素カラ斯様ナ立法ヲシテ、用意スルコ
トガ、然ルベキコトト考ヘテ居ル次第デゴ
ザイマス

○池田委員 今鹽野國務大臣ハ、吾々ガ戰
時ノ場合ニハ第三十一條ノ非常大權ヨリ外
ハ發動シナイヤウニ考ヘテ居ルヤウナ御話
ガゴザイマシタ、全クサウ云フコトハ考ヘ
テ居リマセヌ、私等ガ申上ゲテ居ルノハ、
憲法第二章ノ臣民ノ權利ヲ停止スルト云フ
ヤウナ重大ナルコトナラバ、憲法ノ第三十
一條ニ規定ガアルカラ、其規定ニ依ッテ停止
スルノガ、是ガ憲法ノ精神デハナイカ、ソ
レヲ何故ニ法律デ停止セラレントスルカ、
是ガ私共ニハ吞ミ込メナイノデアル、大權ヲ
尊重スル立前カラ言ヘバ、是ハ大權ノ施行
ニ俟ツベキデハナイカ、又政府ハドウ御考
ニナッテ居ルカ知リマセヌガ、從來日清戰爭
ニモ、日露戰爭ニモ何等發動シテ居ナイト
云フ、ソレハ成程發動シテ居リマセヌ、併
ナガラ苟モ憲法第三十一條ニ非常大權ノ明
文ガアル以上ハ、ソレヲ發動シ得ル「レ
ル」ハ——豫テカラ大權命令デ御出シニナ
ル準備ガ必要デハナイカ、併ナガラ大權命
令デ「レール」ハアツタ所デ、非常大權ハ自
由デアルカラ、ソレ以上ニ又出ルコトモア
ルコトハ私ハ承知致シテ居リマス、ソレデ
問題ハ私共ハ非常大權ニ屬スルコトハ、是
ハ法律デ出サレルヨリモ、大權命令デ出サ
レルノガ當然ナコトデハナイカ、又サウ云

フ法律ヲ規定ラシテ居ラレマスレバ、大權ノ施行ニ付テ、之ニ制限ヲ設ケルデハナイカト云フコトヲ、私等ハ論ジテ居ルノデゴザイマシテ、戰時ノ際ニ於テハ第三十一條ヨリ外ニハ働カナイナント云フ考ハ毛頭持ツテ居リマセヌ

○鹽野國務大臣 御考ハ能ク分リマシタガ、政府ノ考ヘテ居リマスル所ハ、非常大權ハ固ヨリ尊重スベキモノデアリマスルガ、憲法各章條ハ、一樣ニ欽定憲法ト致シマシテ尊重シテ考ヘルノデアリマシテ、第二章ニ書イテアリマスル所謂立法事項ハ、法律ニ依ルベキコトヲ御示シニナツテ居ルノデアリマス、其第三十一條ニ非常大權ノ規定ガゴザイマス、第二章ノ其他ノ條文モ同ジ考デ見ルベキモノト思ヒマスルト、文理ノ解釋カラ致シマシテモ、ドウモ御説ノヤウニハ解釋ハ出來ナイト考ヘテ居リマス

○植原委員 政府ハ此國家總動員法ハ、憲法ノ章條ニ何等低觸スル所ガナイト云フ御見解ヲ執アレテ居ルノハ、是ハ當然ダト思フ、ソレハ憲法ノ解釋ニ背反スルト思フモノヲ、政府ガ提出スルコトハ出來ナイノデ、是ハ當然ダト思フ、又昨日ノ委員會ニ於ケル提案ノ説明ニ於テモ、廣田外務大臣ハ此點ヲ非常ニ力説高唱サレタ、是ハ當然

ダト思フ、ダガ私ノ察スル所、此解釋ヲ御取リニナル理由ハ、斯ウ云フ譯ダト思ヒマスガ、サウデハアリマスマイカ、憲法第二章ニ於ケル臣民ノ生命、財産、權利、義務、自由等ハ、總テ法律ニ依ッテ保障サレルコトニナツテ居ル、法律ニ依ッテ是ノ制限ヲ擴ゲタリ縮メタリスルコトハ自由ニ出來ルコトダ、此國家總動員法ガ議會ノ協贊ヲ經テ制定サレル場合ニ於テハ、之ニ含マレテ居ルコトハ議會ノ協贊ヲ經タノデアルカラ、何等憲法ニ低觸スルコトガナク、憲法ノ章條ニ據ツタモノデアル、斯ウ云フ御解釋ダラウト思フ、ソレハ其通りデ宜シイノデアリマス

ガ、私共ノ問題トシテ居ルノハ其處デハナイノデアリマス、私共ノ問題トシテ居ルノハ、此總動員法ノ中ニ含マレテ居ル項目ノ主ナルモノハ唯大綱ヲ示シテ居ルノデ、アトハ勅令ニ依ルト云ツテ、白紙委任狀ヲ取ル形ニナツテ居ル、法律デ御定メニナルナラバ、軍需工業動員法デモ、如何様ノモノデモ議會ノ協贊ヲ經テ御決メニナルノダカラ、是ハ何ノ意味モナイ、又極ク小サナ一ツノ例ダカラ、此例ハ何處マデモ推シ進メテ行ッテ宜イノダ、理窟ハサウ立チマセウ、理窟ハ一ツノ一寸シタ針ノ孔程ノコトガアル、其針ノ孔ヲ明ケタコトガ罪ニナラナケ

レバ、大砲ノ彈デ孔ヲ明ケテモ罪ニナラナイト云フ理窟ニモ、詭辯ヲ弄スレバナリマセウ、私共ノ言ッテ居ルノハ、法律デ局部的ニ出來ルコトヲ、國家總動員法ト云フ名目ノ下ニ、二十一箇條ノ中ニ總テ人民ノ生命財産、權利、義務ニ關スルコトヲ、表ノ輪廓ダケヲ決メテ置イテ、其中デ何ヲサレルカ分ラナイ、是ハ當然議會ノ審議協贊ヲ經テ、承認ヲ受クベキ事項ニ關スルコトデハナイカ、ソレヲ總動員法ト云フ輪廓ノミノモノガ通ツタカラ、之ニドシナモノヲクツ付ケテモ、皆ナ議會デ協贊ヲ與ヘタ中デ政府ガ自由自在ニスルコトダカラ合法的ダ、憲法ノ精神ニ反シナイノダ、斯ウ仰シヤルコトガ私共ト違フ、針デ壁ニ孔ヲ明ケテモ罪ニナラナイ、大砲デ壁ニ孔ヲ明ケレバソレハ許サヌ、非常ナル時局ニ對シテ、軍需工業動員法デ實例ハアリマセウ、其他ノ資金調整法デ實例ハアリマセウ、實例ヲ擧ゲタラアリマセウガ、ソレハ細目ニ互ッテドウ云フ程度マデ軍需工業動員法ヲ使フノカ、資金調整法ハドウ云フ範圍マデスルノカ、爲替管理ハドウ程度マデヤルノカ、限度モ範圍モハッキリ或ル程度マデ議員ノ納得ヲ得テ、而シテ議會ノ協贊ヲ經テ居ルノデス、然ルニ此國家總動員法ナルモノハ、第一條カラ二

十條ニ至ルマデ何ヲスルノカ、ドウサレルノカ、此範圍ハ何處マデ行クノカ、何處デ止マルノカサツバリ分ラナイノデス、之ヲ分ルト言フナラバ私ハ御説明ヲ願ヒタイ、是ハ分ラナイト言フ私ノ此言葉ニ、恐ラクドノ人ダツテ一人モ御異存ノアル人ガナカラウト思フ、ソレニ白紙委任狀ヲ取ッテ置クコトガ便利デアルト、國民ニ對シテ親切ノヤウニ解釋シタコト——政府ガデスヨ、政府ニハ便利デセウ、「フアッショ」デモヤラウトカ、獨裁政治ヲヤラウト云フ人ニハ、尙更重寶カモ知レナイガ、サウ云フ意思デ政治ヲヤラウトスル人ハ一人モアリマスマイガ、行政官憲ニハ極メテ御都合ガ宜シウゴザイマセウケレドモ、吾々ハ國民ノ立場カラ之ヲ考ヘナケレバナラス、其點ニ於テ私共ハ安心出來ナイ、此勅令事項ニ依ッテ白紙委任狀ヲ取ッテ置クコト云フコトハ、憲法第三十一條ノ規定ニ對シテモ、憲法ノ精神ニ對シテモ悖ル所ハナイカ、是ガ私ノ質問ノ要點デア

ルコトヲ御承知願ヒタイ、之ニ對シテ司法大臣ノ明瞭ナル御答辯ガアレバ仕合せデアリマス

○鹽野國務大臣 非常ナ廣イ白紙委任狀ヲ出サセルノデハナイカト云フ點ガ、主タル御疑問ノヤウデアリマス、申ス迄モナク四

條カラ二十條ハ「戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ」、戰デ戰勝目的ノ爲ニ總動員ヲスルノダ、斯ウ云フ文句ガドレニモ冠サツテ居リマス、サウシテ人民ノ權利、自由、財産ニ對シテハ臣民ヲ徵用スル、或ル要務ニ從事セシムルゾ、物資ヲ取上ゲテ收用スル、工場ヲ管理シ、使用シ收用スル、或ハ輸出入ヲ禁止シ、制限スルト云フコトガチヤント書イテアルノデアリマシテ、毫モ白紙委任狀デハナク、臣民ノ眞ノ利害ヲ此方ノ各本條ニ於テ規定致シテ居ルノデアリマス、總動員デアリマスルカラ、重要ナル事項ガ澤山一ツノ法律ノ中ニ入ッテ居リマス、隨テ例ヘバ之ヲ大キク申シマシテモ、勞務トカ、資金トカ、施設、事業、物資或ハ情報、宣傳ト云フヤウニ大キク分ケテモ五六項ニナルノデアリマス、隨テ何レモ此初メニ「戰時ニ際シ國家總動員ノ必要アルトキハ」云々ト斯ウ書イテ、臣民ニ對スル義務ヲ明確ニ示シテ居ルノデアリマス、唯單ニ勅令ニ依リト云フ言葉ヲ入レテアルダケナノデアリマス、此勅令ニ依リガ非常ニ何ダカ廣イヤウニ御考デアリマセウガ、サウデハナイ、人民ノ束縛セラレル所ノ實質ハ、各本條ニチヤント書イテアルノデアリマシテ、是ハ假ニ勅令ニ依リガナクテモ宜

シイ、宜シイト申シテハマダ言葉ガ足リマセヌガ、戰爭ノ爲ニ總動員ヲスル上ニ必要ナルトキハ臣民ハ是ダケノ義務ヲ負ヘ、是ガ根本デ最後ハ斯ウ行カナケレバナラスト思ヒマス、併ナガラソレニハ色々其義務ヲ負ハセルノニ相當ノ程度方法ガアル、非常ニ廣イ方法、制限等ヲ茲ニ親切ニ示サウト云フノガ、勅令ニ依リト云フコトニナルノデアリマス、然ラバ全部ソレヲ書キ示セバ宜イデハナイカト申シマスルト、屢、申上ゲマスル通り、其豫メ想定シ得ル事項モアリマスガ、此事態ノ變遷ニ伴ヒマシテ想定シ得ナイ部分モアリ、又場合ニ依レバ公表ヲスル時期ノ如何ヲモ考慮シナケレバナラス事項モアルノデアリマス、隨テ之ヲ戰勝目的ノ爲ニ最モ有利ニ活動シテ行ク以上ニハ、迅速ニ行キマスル勅令ニ讓ル方ガ適當デハナイカ、斯ウ云フコトニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス、尙ホ詳シイコトハ政府委員カラ申上ゲマス

○青木政府委員 只今ノ御意見ヲ伺ヒマスト云フト、法律デ法律自體ヲ規定スルナラバ、戰時ニ於テモ臣民ノ權利、自由ノ拘束ニ關スルコトヲ規定シテモ宜シイ、第三十一條ト牴觸ハナイ、併シハ廣汎ナル委任命令デアアルカラ不都合デアルト云フヤウナ趣旨ニ、只今拜承致シマシタ、若シ御議論ノ要點ガ其處ニアルノデアリマスレバ、其問題ハ第三十一條トノ關係ニアラズシテ、委任命令ニ依ル權利拘束ハ、法律ニ依ル權利拘束ニナルヤ否ヤト云フ問題ニナルト思ヒマス、サウシテ又法律論ト致シマシテハ、或ハ政治論トシテソレハ妥當カドウカ、斯ウ云フ問題ニ歸スルノデハナイカト思フノデアリマス、ソレカラ先程植原サンガ臨時資金調整法ト爲替管理法ヲ御引例ニナリマシタガ、爲替管理法ハ、政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得ト書イテアリマス、ソレカラ臨時資金調整法ニ於テ銀行、信託會社等ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若クハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若クハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ、斯ウ云フ風ニ書イテアリマシテ、本法トノ違ヒハ何處デアアルカト申シマスレバ、本法ニ於テハ「勅令ノ定ムル所ニ依リ」ト書イテアル、然ルニ先程御引例ニナリマシタ臨時資金調整法、爲替管理法ハ「命令ニ定ムル所ニ依リ」ト書イテアル、隨テ爲替管理法ノ如キハ、御承知ノ通り大藏省令デ出テ居リマス、ソレダケノ違ガアリ

マスガ、事柄自身ヲ爲替管理法ト雖モ一々決メテ居ルノデハアリマセヌ、「命令ノ定ムル所ニ依リ」ト全部委任シテアリマス、其點ハ本法ト何等違ヒハナイ、却テ本法ノ方ガ勅令ヲ以テ定ムルト云フダケ鄭重ニ出來テ居ルト考ヘテ居リマス

○植原委員 只今鹽野司法大臣ノ御答辯ニ依レバ、總動員法ニ依ッテ洵ニ明瞭ニ規定サレテ居ルデハナイカ、唯勅令ト云フモノガ存在シテ居ルカラ、ソレデ色々仰シヤルノガラウト云フヤウナ口吻デアリマシタ、ソレナラバ此勅令ト云フ字ヲ、皆此一條カラ二十條マデ削ッテシマッタラ、此法案ハドウナルデセウカ、洵ニ此法律自體其モノニ對シテハ、國民ハ何等知ルコトガ出來マセヌ、細目ニ至ッテハ勅令ガ出テデナケレバドウ云フコトガサレルノカ、ドウ云フコトガ起ルノカ、何等分ラナイト云フコトヲハッキリ此處デ申上ゲテ置キマス、ソレカラ今青木政府委員ノ御説明デ、勅令ト命令ト違フノダ、資金調整法ニ依ッテモ、爲替管理法ニ依ッテモ、總テソコニ行ク迄ノ範圍ハハッキリ定メテ居リマス、其一番小サナ所ヲ唯命令ニ讓ッテアルダケノコトデアリマス、ソレカラ先刻私ガ申上ゲテ居ルヤウニ、針デ人ノ家ノ障子ニ穴ヲ明ケテモ罪ニハナルマ

イガ、大砲デ穴ヲ明ケタラ罪ニナルグラウ
ト云フノ同ジコトデ、極ク施行細則ニ關
スル命令ノ如キモノガ、委任立法ノ形ニナ
テ出テ居ルカラ、此法律ニ依ッテ唯大キナ
輪廓ダケヲ定メテ、後ハ勅令ノ委任立法ニ
依ッテモ、更ニ差支ナイト云フ御解釋ニハ、
私共何トシテモ憲法ノ精神解釋トシテ、憲
法ニ於テ何處マデモ法律ニ依ッテ臣民ノ權
利義務ヲ守ル、萬一戰時ニ於テハ之ヲ第三
十一條ノ非常大權、或ハ其他ノ方法ニ依ッ
テ制限スルコトガ出來ルト、洵ニハッキリトシ
テ居ルノヲ、今日カラドノ範圍ニ於テ誰ガ
ヤルカモ知レナイ、又政府カラ言ヘバ、之
ヲ運用スル機構、機關サヘ出來テ居ラナイ、
誰ガドウ運用スルカ分ラナイノニ、委任立
法ノ方法ヲ採テ置クノハ、憲法第三十一條
ノ大權事項ニモ反スルシ、議會ノ協贊ヲ得
テ法律ニ依ッテ臣民ノ權利義務ヲ定ムルト
云フ立憲政治ノ大精神ニモ反スルト、斯様
ニ申スノデアリマス、恐ラク此點ハ唯議論
ヲ弄スルダケデ御答ヘ出來スト思フノデス、
故ニ私共ハ只今ノ司法大臣、青木政府委員
ノ御話ヲ伺ッテ、益々迷宮ニ入ルダケデアッ
テ、少シモ理解スルコトガ出來ナイ、斯様ニ申
上ゲテ、私ハ此項ニ關スル質問ヲ終ルヨリ
仕方ガナイト思フノデアリマス

次ニ私ガ御尋シタイコトハ、帝國憲法第
三十一條ノ規定ニ類似スルヤウナ規定ハ、何
處ノ國ノ憲法ノ規定ニモナイト思ッテ居リ
マス、唯「プロシヤ」ノ舊憲法ノ何處カニ斯
ウ云フヤウナ意味ガアッタカドウカト云フ
位ノコトデ、私ハアルカドウカニハ疑問ヲ
持ッテ居リマスガ、若シアッタ政府ノドナ
タカラデモ伺ヘレバ結構デアルト思フ、唯
是ハ參考ノ爲メダケデアリマス、隨テ此憲
法第三十一條ノ規定ハ、我國憲法獨自ノ規
定デアリマシテ、之ニ依ッテ帝國臣民ノ權利
自由ハ、法律ニ依ッテ定メラレテアル以外
ノ方法ニ依ッテハ、戰時事變ニ於テモ容易ニ
制限セラレザルモノデアルト云フ洵ニ大切
ナ規定デアルト思ヒマス、隨テ此總動員法
ガ此儘デ通過スルヤウナ場合ガアルトスル
ナラバ、此總動員法ノ範圍ニ於ケル勅令ニ
依リ、臣民ノ權利自由ハ行政官憲ノ獨斷ニ
依ッテ何處マデ制限サレルカ、殆ド見當ガ付
カナイノデアリマス、戰時事變ニ於テハ、
憲法第三十一條ノ規定ニ依ッテ、已ムヲ得ザ
レバ制限スルガ、是ハ非常ニ已ムヲ得ザル
場合デナケレバ出來ナイト云フコトヲ、伊
藤公ハ實ニ明瞭ニサレテ居リマス、若シ行
政官憲ノ勝手ニ出來ルヤウナコトデアッ
テハ、國民ハ之ニ對シテ非常ナル疑懼ノ念ヲ

持テ、不安ノ狀態ニ曝サレルモノデアルト
云フコトヲハッキリ伊藤公ハ憲法義解ニ於
テ述ベラレテ居リマス、「本章掲クル所ノ條
規ハ憲法ニ於テ臣民ノ權利ヲ保明スル者ナ
リ、蓋立憲ノ主義ハ獨臣民ノミ法律ニ服從
スルニ非ス、又臣民ノ上ニ勢力ヲ有スル國
權ノ運用ヲシテ法律ノ檢束ヲ受ケシムルニ
在リ、唯然リ故ニ臣民倚テ以テ其ノ權利財
產ノ安全ヲ享有シテ專横不法ノ疑懼ヲ免
ル、コトヲ得ヘシ」トアル、議會ガ此
總動員法ヲ此儘通過シマシタナラバ、
此境界ノ分ラナイ所ノ勅令ノ規定ヲ、行政
官憲ノ專擅ニ委セルコトニ依リマシテ、伊
藤公ノ言葉デ申シマスナラバ、之ヲ檢束
スルノ途ガアリマセス、此行政官憲ノ專擅
行爲ヲ何レガ抑制スルカ、制限スルカ、制
肘ヲ加ヘル途ガナイノデアリマス、隨テ是
ガ行ハレルト云フ場合ニ於テハ、國民ハ專
横不法ノ疑懼ヲ免ル、コトヲ得ズデアリマ
ス、此處ニ憲法ノ非常ナル尊イ意味ガ存在
シテ居ルト思フノデアリマス、伊藤公ハ斯
ク迄第三十一條ヲ制定サレル當時ニ御苦心
ナサレタ跡ガ歴然トシテ居リマス、更ニ第
三十一條ノ規定ヲ讀ンデ見レバ、斯ウ云フコ
トデアル、「本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ
國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ

妨クルコトナシ」、此臣民ノ權利義務ハ容易
ナルコトニ依ッテハ制限セズ、法律ニ依ッ
テ護ラレテアッテ、是ハ儼トシテ動カスベカ
ラザルモノダガ、戰時又ハ事變ニ於テ非常
大權ニ依ッテ之ヲ制限スルコトナシトハ保
セナイト云フ意味デ、普通ノ法律ノ言葉ト
違フ、「天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ」ト
アル此規定、此言葉、此意味ノ中ニ含蓄サ
レテ居ルコトヲ私共ガ思ヒマスル時ニ、實
ニ聖慮ノ鴻大無邊ナルニ唯感激ニ咽ブノ
デアリマス、「天皇大權ノ施行ヲ妨クルコト
ナシ」、天皇ガ大權ヲ行使スル場合デモ、積
極的ニ之ヲドウデモ勝手ニシテ宜シイト云
フヤウナ意味デナク、此「施行ヲ妨クルコト
ナシ」ト云フ言葉遣ヒニ迄御注意ナサッテ居
ルコトヲ考ヘマシタ場合ニ、臣民ノ權利義
務ニ關スルコトヲ輕々ニ唯總動員法ト云フ
風呂敷ノ中ニ包ンデ、勅令ノ委任命令ニ依ッ
テ、之ヲ行政官憲ノ自由ニスルコトノ便利
デアルコトハ疑ナカラウ、御便宜デアラウ、
併シ國民ハ是デドウシテ安心出來ルカ、國
民ノ見地カラ物ヲ御考ヘニナクナラバ、
私共ト同感ト仰シヤラレルヨリ致シ方ナイ
ト思フ、唯政府ハ行政官憲ノ都合ノ好イコ
トダケ考ヘテ居ルガ、之ヲ國民ノ方カラ考
ヘルナラバ何トナルノデアリマス、此憲法

ノ條章ノ「天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ」ト云フ言葉遣ヒヲサレテ居ル所ヲ能ク御考ヘニナツテ、此含蓄ノアル所ノ憲法ノ精神ヲ御考ヘニナリマシタナラバ、此總動員法ニ於テ第一條カラ第二十條マデ勅令ニ讓ツテ居ルコトハ、何トシテモ憲法ノ精神ニ反スルノミナラズ、憲法第三十一條ノ規定ヲ干犯スルモノデアルト云フコトヲ肯定スルヨリ致シ方ガナイト思ヒマス、之ニ對シテ明確ナル御答辯ガアルナラバ此場合承認シ置キマス

○鹽野國務大臣 憲法ノ御説明ハ如何ニモ御尤デアリマス、「妨クルコトナシ」トノ非常ニ意義ノアル書キ方ニナツテ居リマス、是ハ一ニ立法事項ヲ法律ヲ以テ保障スルト云フコトヲ重シゼラレタルニ相違ゴザイマセス、併ナガラ非常戰時ノ場合ニ於テハ、大權モ自由ニ發動スルゾヨト云フコトヲ御示シニナツタデアリマシテ、非常戰時ニ於テモ、立法ノ事項ハ法律ニ依ツテ規定セヨ、ガ併シ一面ニハ大權ハ自由ニ發動スルゾヨト云フ——何ト申シマスルカ、大權ノ發動ノコトヲ明確ニサレテ居ルノデアリマス、成ベク法律ニ依ツテ規定セヨ、併シ危急ノ場合ニ於テ、必要アレバ大權ガ發動セラレルト云フコトハ仰セノ通りデアリマス、ソコデ先程

モ申上ゲマシタガ、戰勝目的ヲ達スル爲ニ國家ノ總動員ヲスルト云フノデアリマスルカラ、其爲ニハ本法ノ各本條ニ書イデアリマスルヤウニ、臣民ノ權利義務ヲ制限スル、是ガ勅令ニ依ツテ稍、或ハ緩和サレテ行ハレルト云フ書キ方ニナツテ居ルノデアリマシテ、勅令ニ依ツテ各本條ノ示シテ居ル義務以上ニ負擔ヲ増スト云フコトハ毫モナイノデアリマス、此勅令ハ寧ロ各本條ニ書イデアリマスル義務ヲ制限シテ、成ベク臣民ノ被ムル害ヲ少クシテヤルト云フ積リデ出來テ居ルノデアリマス、併ナガラ勅令ノ定ムル所ガ非常ニ廣イト想像致シマシテモ、其落著ク所ハ本條ニ書イテアル點ニ止マルノデアリマス、ソレ以上ニハ出デナイノデアリマス、尙ホ勅令ノ内容ト致シマシテ、其要綱ガ參考ニ御手許ヘ廻ツテ居ルヤウナ次第デ、成ベク臣民ノ權利義務ニ對シテ親切ニ考ヘルト云フコトヲ明瞭ニ致シテ居ルヤウナ次第デアリマス

○青木政府委員 私ノ先程ノ説明ニ對シマシテ、植原サンカラ重ネテ私ノ申上ゲタコトハ事實ニ違ツテ居ルト云フ御反駁ガアッタノデアリマスガ、外國爲替管理法ニ於キマシテモ、臨時資金調整法ニ於キマシテモ、事項ヲ指定シテ權限ヲ規定シタ以上、其條

件ナリ或ハ態樣ニ付テハ規定ガアリマセス、是ハ篤ト御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、唯爲替管理法ト較ベテモウ一點違ヒマスノハ、爲替管理法ニ於キマシテハ、其發動ノ目的ガ書イデアリマセス、然ルニ本法ニ於テハ「國家總動員上必要アルトキハ」ト云フ條件ガ付イテ居ルコトニ於テ違ツテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○西岡委員 理事會ヲ開キマシテ議事ノ進行ニ付テ御協議申上ゲタイト思ヒマスカラ、本日ハ此程度デ散會セラレンコトヲ望ミマス

○西岡委員 散會前ニ一寸議事進行ニ付テ申上ゲマス、憲法論ニ對スル政府ノ御答辯ヲ拜聽シテ居リマス、時ニハ政府ノ答辯ガ、言葉ガ少過ギテ分ラナカッタリ、或ハ言葉ガ多過ギテ分ラナカッタリシテ、行ツタリ戻ツタリシテ居ルノデアリマス、今マデノ質問者ノ言論ニ依リマシテ、議員ノ問ハントスル所ガ何處ニアルカト云フコトハ略、想像ガ出來ルノデアリマスルカラ、政府ハ答辯要旨ヲ宜シク御相談下サツテ、大事ナ所ニ付テハ書イタモノヲ讀ムト云フ程度ニ致シマシタナラバ、議事ノ進行ガ捗ルノデナイカト思ヒマスカラ、委員長ヲ通ジテ此點ヲ御注意ヲ願ヒタイノデアリマス

○小川委員長 ソレデハ今日ハ此程度デ散會シマシテ、明日ハ午前十時ヨリ開キマス、尙ホ申上ゲマスガ明日ハ委員室ノ都合デ第二室即チ請願委員室デ開クコトニ致シマス
午後五時二十分散會